

新宿区

# 百人町三丁目遺跡Ⅶ

— 旧関東地方整備局新宿寮地区の埋蔵文化財調査 —



2025・9

東京都埋蔵文化財センター

新宿区

# 百人町三丁目遺跡Ⅶ

— 旧関東地方整備局新宿寮地区の埋蔵文化財調査 —



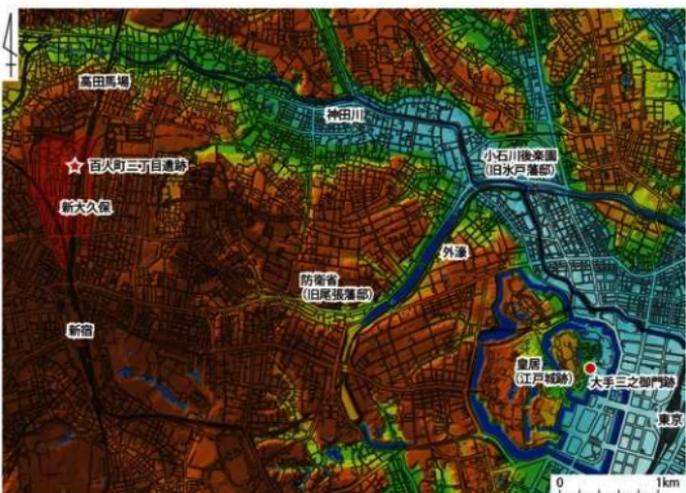
2025・9

東京都埋蔵文化財センター

## 新宿区百人町三丁目遺跡第7次の調査概要

新宿区百人町三丁目遺跡（新宿区 No.43）は、新宿区百人町二・三・四丁目・大久保三丁目に所在し、JR山手線新大久保駅と高田馬場駅の間に位置します。遺跡は武蔵野台地東部に位置し、遺跡の西側から南へ、妙正寺川と合流してから遺跡の北側を西から東へ流れる、神田川の流域の台地に位置します。この神田川に向かっては、いくつもの支谷があります。

本遺跡のある新宿区百人町は、江戸時代に大久保百人組屋敷があった場所の一部にあたります。この組屋敷は、寛永7年（1602）に徳川家康が中野に鷹狩りに訪れた際に、内藤清成が願ひ出て、鉄砲百人組の大雑地として賜りました。この鉄砲百人組は、平時には江戸城大手三之御門の番所の警護に当たっていました。寛永11年（1634）



調査地点位置図 (5=1/50,000)

赤星印が今回の調査地点、赤丸が江戸城大手三之御門になります。赤線の範囲が大久保百人組屋敷があった場所です。

国土地理院「基盤地図情報（縮尺レベル 2,500）」・「基盤地図情報数値標高モデル（5m メッシュ）」をもとに作成

に大雑地に3本の道が設けられ、道に沿って南町・仲町・北町とされました。仲町の道が現在の久大保駅の北側の久大保通りにあたります。この組屋敷には、同心組屋敷のほか、与力組屋敷、鉄砲角場、大筒角場や百人組の組頭を多く輩出した久世三四郎無年貢抱屋敷等もありました。この組屋敷の広さはおよそ十五万二千坪で、『大久保百人組大雑地敷地略図』（巻頭ii）によると同心一人当たりの屋敷の広さは、千五百から二千坪ほどで、道に面した十五から三十坪ほどが屋敷でその裏手が畑でした。大久保百人組の同心は生活のため屋敷の裏手をつつじの栽培をはじめ、『十法庵遊歴雜記初編』に「大久保組屋敷の映山紅」や『江戸名所図会』に「大久保の躑躅」（巻頭ii）として紹介され、天保年間（1830～43）には最盛期を迎えました。

明治時代になっても、つつじはかつての組屋敷で栽培されていましたが、明治16年（1833）に地元の有志が近隣の家からつつじを集め組屋敷の南側で、つつじ園を開きました。その後、いくつかのつつじ園が得意賑わいを見せ、明治22年（1889）に開設された甲武鉄道（現在の中央線）で臨時列車を出すほどでしたが、市街地化や土地の高騰により、大正の初めには日比谷公園や館林のつつじヶ丘公園などに移植されました。

本調査地点のあった組屋敷の北側は、明治7年（1874）には陸軍の軍用地となり「戸山ヶ原」と呼ばれていました。明治18年（1885）には品川線（現在の山手線）が、かつての大久保百人組屋敷を縦断するように開設され、大正8年（1919）には線路の西側に陸軍科学研究所が、東側には東京菓子工場（明治製菓）の用地となりました。その後昭和12年に陸軍科学研究所の一部が生田に移転し、昭和16年（1941）に陸軍科学研究所は廃止されました。



「江戸全図」(部分) 白井市教育委員会所蔵 寛永19～20年頃(1642～43) 赤に囲われた範囲が大久保百人組屋敷の範囲に当たります。百人組の組頭であった旗本久世三四郎の名とともに同心・与力と記されています。



『御府内場末往還其外治革圖書』拾九頁「大久保百人組与力同心大繩地辺之部」 国立国会図書館デジタルコレクション  
 右上 延宝年中(1673～81) 左下 享保七年(1722) 右下 当時之形(嘉永五年(1852))  
 赤の四角の範囲が今回の調査地点のあたりです。



『大久保元百人大繩組屋敷繪圖面』  
 国立国会図書館デジタルコレクション  
 明治初め頃の組屋敷の様子です。  
 赤の四角の範囲が今回の調査地点のあたりです。



「大久保の躰躑」『江戸名所図会』7巻  
 天保5～7(1834～1836)年  
 国立国会図書館デジタルコレクション

## 見つかった主な遺構と遺物

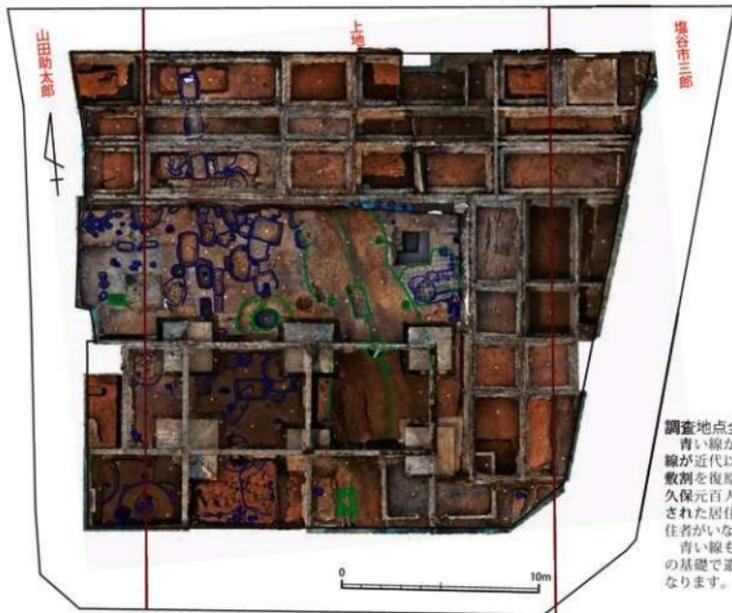
今回の発掘調査は百人町三丁目遺跡の第7次調査で百人町三丁目1-1に位置し、第2次調査の南側、第4次調査の山手線を挟んだ西側に位置します。発掘調査は財務省関東財務局東京財務事務所の委託を受けて、令和6年6月16日から12月20日までおこなわれました。

発掘調査が行われた場所は、大久保百人組屋敷の北通りに面した場所で、屋敷の建物があった範囲と考えられます。調査の結果、江戸時代と近代以降の遺構と遺物が確認されました。江戸時代の遺構は、井戸2基、溝状遺構1条、整地跡1か所、植栽痕を含む土坑70基、ピット64基が見つかりました。近代以降の遺構は、井戸1基、レンガ塙1基、溝1条、硬化面1か所が見つかりました。江戸時代の遺構のうち、長軸方向が南北で、南側の道路に直交する方向で南北に並ぶ長方形の土坑群が確認されています。これらの土坑は、屋敷境もしくはそれに関連する遺構で、つじが植栽された生垣の可能性が考えられます。その他の土坑のうち、平面形が円形で、その径が146cmを超える比較的大型の土坑と、平面形が不整形で底面に凹凸が認められるものの多くは植栽痕と考えられます。近代以降の溝は南北よりやや西側に傾いた状態で延びて見つっています。この溝の東側には硬く締まった範囲（硬化面）がありました。この溝と硬化面については、この場所に陸軍科学研究所があった頃の道にかかわる遺構と考えられます。



### 調査地点透景

調査地点と南側の大久保百人組屋敷のあった場所の現在の様子です。左側にJR山手線の線路が見えます。



### 調査地点全景（合成写真）

青い線が江戸時代の遺構で、緑の線が近代以降の遺構です。赤線は屋敷割を復元した線です。赤字は『大久保元百人組屋敷繪圖』に記された居住者の名前です。上地は居住者がいない場所となります。

青い線も緑の線もない場所は建物の基礎で遺構が壊されていた場所となります。



植栽痕と考えられる大型の土坑 (上)

南北に並ぶ長方形の土坑 (右) 屋敷境に関連すると考えられます。生垣としてツツジが植えられていた可能性が考えられます。



#### 4区全景 (下)

写真右側中央あたりに竪に並ぶ土坑が右の写真の土坑につづく土坑です。左側中央付近の溝が近代以降の溝となります。



出土した遺物は近世の陶磁器類と、近代の陶磁器類です。5次調査を除く他の百人町三丁目の調査と同様に遺物量は多くはありません。出土した遺物の中に、鉄砲百人組を想起させる鉛玉 (火縄銃の玉) が含まれます。



#### 93号出土遺物

江戸時代の土坑から出土した陶磁器・土器



#### 92号出土遺物

江戸時代の土坑から出土した陶磁器・土器



#### 38号出土遺物

江戸時代の土坑から出土した陶磁器



#### 43号出土遺物

近代以降の溝から出土した陶磁器



出土した鉛玉 (原寸)

火縄銃に使われた鉄砲玉です。

## Summary

The 3-chome Hyakunin-cho Site (Shinjuku Ward #43) is located at 2-, 3-, and 4-chome Hyakunin-cho, and 6-8, 3-chome, Okubo. The 3-chome Hyakunin-cho Site is located in the east part of the Musashino Plateau, that is, in Toshimadai in the southwest part of the former juncture between the Kanda River and the Myoshoji River.

The neighborhood of 3-chome Hyakunin-cho corresponds to part of the former premises of the Teppo Hyakunin-gumi (a 100-gun unit) Doshin-gumi. Its current town name comes from that hyakunin-gumi. This kumi-yashiki began cultivating azaleas in a field behind the mansion to support the owner's livelihood. Around the mid-Edo period, it became renowned enough to be noted as "the azalea of Okubo" in the Edo Meisho Zue (Picture Guidebook to the Famous Places of Edo). During the Meiji period, the area surrounding the survey point became property of the Japanese Imperial Army and was named Toyamagahara. In 1919, Toyamagahara became home to the Imperial Army Science Institute. In 1937, a part of it was relocated to Ikuta. Then, in 1941, the Imperial Army Science Institute was abolished.

The present excavation is the seventh survey of the 3-chome Hyakunin-cho Site, which is located at 1-1, 3-chome, Hyakunin-cho, and to the south of the second survey site and to the west of the region sandwiched the Yamanote Line of the fourth survey site. The excavation survey was conducted from June 16, 2024, upon the request of the Tokyo Finance Office, Kanto Finance Bureau, Ministry of Finance.

The point of the excavation survey faces Kita-dori (northern street) of the Hyakunin-gumi Doshin-gumi Mansion, so it is presumed to have been home to the mansion. The survey revealed ruins and relics dating back to the Edo period and to the Modern Times and subsequent eras. The ruins revealed to date back to the Edo period include two wells, one ditch-shaped structure, one former leveled site, and 70 earth pits containing traces of cultivated plants, along with 64 additional pits. The excavated ruins, dating back to Modern Times and later, included one well, one brick basin, one ditch, and one hardened surface. The ruins identified as dating back to the Edo period were rectangular earth pits arranged from south to north in the major axis, and south to north in a straight line in an orthogonal direction to the southern road. These earth pits may be a former array of mansion borders or related ruins.

The excavated relics include ceramics dating back to the Early Modern Period as well as ceramics from the Modern Times. Similar to the other surveys of the 3-chome Hyakunin-cho site, the present excavation has not revealed many relics. Among the relics unearthed are lead balls (bullets from matchlock guns), which remind us of Teppo Hyakunin-gumi.

## 序 言

新宿区百人町三丁目遺跡（新宿区 No.43）は、新宿区百人町二・三・四丁目・大久保三丁目に所在し、JR 山手線新大久保駅と高田馬場駅の間あたりに位置します。この場所は江戸時代に鉄砲百人組の大久保百人組屋敷のあった場所で、百人組の与力・同心などの屋敷があった場所となります。この組屋敷では江戸時代につつじの栽培が行われており、つつじの名所として知られていました。これまでに百人三丁目遺跡では1～6次の調査が行われており、今回は7次調査となります。

今回発掘調査を行った場所は、組屋敷内に設けられた北側の通りに面した同心の組屋敷の一部にあたります。調査の結果、井戸・溝・土坑やピットなどが見つかりました。出土した遺物には、鉄砲百人組の屋敷を想起させる、火縄銃に使われた鉛玉も見つかっています。

この調査の成果をまとめた本報告書が、多くの人に活用され、地域の歴史を解明する資料となることを期待し、埋蔵文化財に対する都民の皆様のご関心と理解を深めていただくことができれば幸いです。

本報告書の刊行にあたり、ご協力とご指導をいただきました財務省関東財務局東京財務事務所、東京都教育委員会、新宿区教育委員会に厚くお礼を申し上げますとともに、ご教示いただきました研究者の皆様、地域の住民の皆様方に心より感謝をいたします。

令和7年9月

公益財団法人 東京都教育支援機構  
理事長 坂東 眞理子

## 例 言

- 1 本書は、旧関東地方整備局新宿寮地区の新宿区百人町三丁目遺跡第7次の発掘調査報告（東京都埋蔵文化財センター調査報告第394集）である。
- 2 発掘調査事業は、財務省関東財務局東京財務事務所の委託を受け、公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 試掘調査は、令和3年6月4日から10日に新宿区文化観光産業部文化観光課文化資源係が行った。
- 4 遺跡所在地：東京都新宿区百人町三丁目1-1
- 5 調査対象面積：1,006 m<sup>2</sup>
- 6 調査および整理期間  
発掘調査および一次整理期間：令和6年6月17日～令和6年12月31日  
整理調査および報告書作成期間：令和7年1月1日～令和7年9月30日
- 7 本事業における事業者との事業調整等は東京都教育庁地域教育支援部管理課が担当・指導した。また、本調査における発掘・整理・報告書の内容についても同様に確認した。  
東京都 埋蔵文化財課長代理 鈴木 徳子 埋蔵文化財担当 山本 典幸
- 8 調査担当者  
東京都埋蔵文化財センター新宿区百人町三丁目分室  
調査課課長代理 小林 裕・塚田 清啓 調査研究員 高田 優衣・石崎 俊哉  
調査協力 株式会社ジオダイナミック
- 9 本報告書の編集は小林裕、執筆はIV-2出土遺物については石崎俊哉が、その他は小林裕が行った。鉛玉の分析は長佐古真也が行った。
- 10 本報告の概要については、『東京都埋蔵文化財センター年報45 令和6（2024）年度』において報告しているが、本書をもって正式報告とする。
- 12 出土遺物および発掘調査・整理に関わる図面・写真等記録類は、東京都教育委員会で保管している。
- 13 本文用例等  
・土色の表記には農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を用い、土色・マンセルノーションで表した。  
・出土遺物の注記略号は「S43-7」である。  
・遺構番号については、確認順に通し番号を付した。  
・各挿図の縮尺は、図中に示した。図中の方位記号は真北を示している。  
・本書で使用した標高はT.P.（東京湾平均海面）である。
- 14 発掘調査および整理に関して、下記の方々と機関にご指導・ご協力を賜った。記して深謝いたします。（五十音順・敬称略）  
小林寛子 渋谷葉子 谷川章雄 榎木 真  
財務省関東財務局東京財務事務所 東京都教育委員会 新宿区教育委員会 新宿区文化観光産業部文化観光課文化資源係 白桦市教育委員会

# 目次

## 新宿区百人町三丁目遺跡第7次の調査概要

### Summary

#### 序言

#### 例言

#### I 発掘調査の概要

1 調査に至る経緯	1
2 調査の経過	2
3 調査の方法	3

#### II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と地理的環境	4
2 歴史的環境	4
3 周辺の遺跡	6

#### III 層序

#### IV 遺構と遺物

1 検出された遺構	13
2 出土遺物	35

#### V 調査の成果と課題

#### 主な引用・参考文献

#### 写真図版

#### 報告書抄録

#### 巻頭図版

巻頭1 調査地点位置図	i
巻頭2 『江戸全図』部分 『御府内場末往還 其外治革圖書』 『大久保元百人大櫓組屋敷繪圖面』 『大久保の郷圖』『江戸名所図会』	ii
頭巻3 調査地点遠景 調査地点全景(合成写真)	iii

#### 巻頭4 植栽痕と考えられる大型の土坑

南北に並ぶ長方形の土坑 4区全景 92号出土遺物 93号出土遺物 38号出土遺物 43号出土遺物 出土した鉛玉	iv
---	----

#### 挿図目次

第1図 調査範囲及び試掘調査位置図(1/1,000)	1
第2図 グリッド及び調査区割り図(1/250)	3
第3図 遺跡の位置(上)と周辺の地形(下) (1/50,000)	5
第4図 周辺の遺跡(1/25,000)	8
第5図 百人町三丁目遺跡調査地点(1/2,500)	8
第6図 旧石室時代試掘坑及び土層断面位置図 (1/400)	11
第7図 土層断面(1/40)	12
第8図 全体図(1)(1/100)	14

#### 第9図 全体図(2)(1/100)

第10図 1-1・1-5区 遺構平面図(1/40)	16
第11図 1-1・1-5区 遺構土層断面図(1/40)	17
第12図 1-2・1-6区 遺構平面図(1/40)	18
第13図 1-2・1-6区 遺構土層断面図(1)(1/40)	19
第14図 1-2・1-6区 遺構土層断面図(2)(1/40)	20
第15図 3-2・3-6・3-10区 遺構平面図(1/40)	21
第16図 3-2・3-6・3-10区 土層断面図(1/40)	22
第17図 4区西側 遺構平面図(1/40)	23
第18図 4区西側 遺構土層断面図(1/40)	24
第19図 4区中央部 遺構平面図(1/40)	25

第20図	4区中央部 遺構土層断面図 (1) (1/40) …	26	第34図	遺構・遺構外出土陶磁器・土器 (9) (1/3)	60
第21図	4区中央部 遺構土層断面図 (2) (1/40) …	27	第35図	遺構外出土陶磁器・土器 (1/3) ……………	61
第22図	4区東側 遺構平面図 (1/40) ……………	28	第36図	土製品 (1/2) ……………	69
第23図	4区東側 遺構土層断面図 (1/40) ……………	29	第37図	瓦 (1/3) ……………	71
第24図	近代以降 平面図 (1/80) ……………	30	第38図	石製品 (1) (1/2) ……………	73
第25図	近代以降 土層断面図 (1/80) ……………	31	第39図	石製品 (2) (1/2) ……………	74
第26図	遺構出土陶磁器・土器 (1) (1/3) ……………	52	第40図	金属製品 (1/2・1/3) ……………	78
第27図	遺構出土陶磁器・土器 (2) (1/3) ……………	53	第41図	ガラス製品 (1) (1/2) ……………	80
第28図	遺構出土陶磁器・土器 (3) (1/3) ……………	54	第42図	ガラス製品 (2) (1/3) ……………	81
第29図	遺構出土陶磁器・土器 (4) (1/3) ……………	55	第43図	屋敷削復原図と遺跡範囲及び調査地点 (1/10,000) ……………	83
第30図	遺構出土陶磁器・土器 (5) (1/3) ……………	56	第44図	南北一直線上に並ぶ土坑平面及び断面 (1/100) ……………	84
第31図	遺構出土陶磁器・土器 (6) (1/3) ……………	57	第45図	屋敷削と遺構全体図 (1/250) ……………	85
第32図	遺構出土陶磁器・土器 (7) (1/3) ……………	58			
第33図	遺構出土陶磁器・土器 (8) (1/3) ……………	59			

### 表目次

第1表	調査工程表 ……………	2
第2表	周辺の遺跡一覧 ……………	9
第3表	遺構観察表 ……………	32
第4表	近世陶磁器・土器地点別器種別数量表 ……………	45
第5表	近代陶磁器・土器地点別器種別数量表 ……………	50
第6表	陶磁器・土器観察表 ……………	61
第7表	土製品地点別器種別数量表 ……………	67

### 図版目次

図版1	1 1区①南壁土層断面 (北)	
	2 4区⑦西壁土層断面 (東)	
	3 3-1区⑥西壁土層断面 (東)	
	4 1-2区②TP1 南壁土層断面 (北)	
	5 1-6区③TP2 北壁土層断面 (南)	
	6 2-16区⑤TP4 東壁土層断面 (西)	
	7 2-7区④TP3 西壁土層断面 (東)	
	8 4区⑧TP7 東壁土層断面 (西)	
図版2	1 1-1区 全景 1・3～5・10・11・15・20・ 21・30号 (南)	
	2 1-5区 全景 19・21～26号 (北東)	
図版3	1 1号 (北)	
	2 10号 (北東)	
	3 3号 (北)	
	4 19号 (東)	
	5 1-2区 全景 6～8・12・16・17・37号 (南)	
図版4	1 8号 (東)	
	2 17号 (北)	
	3 1-6区 全景 27～29・31～36・38a・38b ～40・42号 (北)	
	4 29号 (南)	
	5 28号 (北)	
図版5	1 27号 (北)	
	2 35号 (南)	
	3 38号 (北東)	
	4 40号 (北)	
	5 3-2・6・10区 全景 48～58号 (西)	
図版6	1 48・49号 (南)	
	2 50号 (西)	
	3 51・56号 (南)	
	4 55号 (東)	
	5 3-10区 全景 51～58号 (南)	

第8表	土製品観察表 ……………	68
第9表	瓦地点別器種別数量表 ……………	70
第10表	瓦観察表 ……………	71
第11表	石製品地点別器種別数量表 ……………	72
第12表	石製品観察表 ……………	74
第13表	金属製品地点別器種別数量表 ……………	76
第14表	金属製品観察表 ……………	79
第15表	ガラス製品観察表 ……………	82

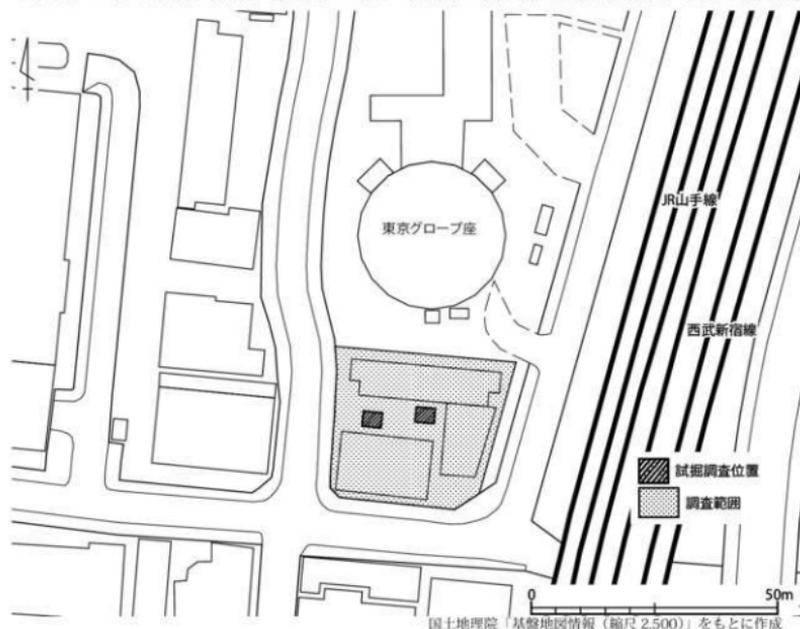
図版7	1 57号 (南東)	
	2 53～55・58号 (南)	
	3 60～71・76 礎石 (南)	
	4 60～71・76号 (南)	
	5 4区 全景 43・46・60～101・103～ 140・142～151号 (北)	
図版8	1 69・70・72～75・97・98・105・106～ 110号 (北西)	
	2 95～101・103～110号 (北)	
	3 72～75・77・78号 (南)	
	4 79号 (西)	
	5 96号 (南)	
	6 97・105 (南)	
	7 112号 (南西)	
	8 80・83～87・114・137・138・142～ 145号 (北)	
図版9	1 80号 (西)	
	2 82号 (西)	
	3 111号 (西)	
	4 81・88・94号 (西)	
	5 81・82・88・134号 (東)	
	6 91・93・136・139・140号 (東)	
	7 89・90・92・93・116号 (南東)	
	8 89・90・116号 (西)	
図版10	1 115・117号 (西)	
	2 121～124・126～132・135・151号 (東)	
	3 2号 (南西)	
	4 1-7区 43・46・47号 (南)	
	5 46号 (南)	
	6 4区東側 全景 (北) 43・46号他	
	7 95号 (北)	
	8 119号 (南)	

## I 発掘調査の概要

### 1 調査に至る経緯

令和3年に、財務省関東財務局東京財務事務所（以下、財務省）から新宿区教育委員会（以下、区教委）を通して東京都教育委員会（以下、都教委）に対して、当該地の埋蔵文化財の有無に関する照会があり、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当することから、試掘調査を実施することとなった。

これをうけて区教委立会いの下、令和3年6月4日から10日にかけて2か所の試掘調査が実施された（第1図）。試掘調査の結果、江戸時代に帰属する遺構・遺物を検出したため、財務省に対して「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について（通知）」に基づき、工事着手前の埋蔵文化財発掘調査を実施するよう回答された。その後、財務省より都教委に対して埋蔵文化財発掘調査の取り扱いについての照会があった。これに対して都教委より財務省に対して公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター（令和5年4月に東京都スポーツ文化事業団より東京学校支援機構に移管、同年7月に東京都教育支援機構に名称変更・以下、都埋文）と発掘調査についての協議を行うよう回答され、同時に都埋文に対しても財務省と協議を行うよう通知された。協議の結果、令和6年3月11日に財務省・都教委・都埋文の三者が「百人町三丁目地区埋蔵文化財調査に関する協定書」



第1図 調査範囲及び試掘調査位置図 (1/1,000)

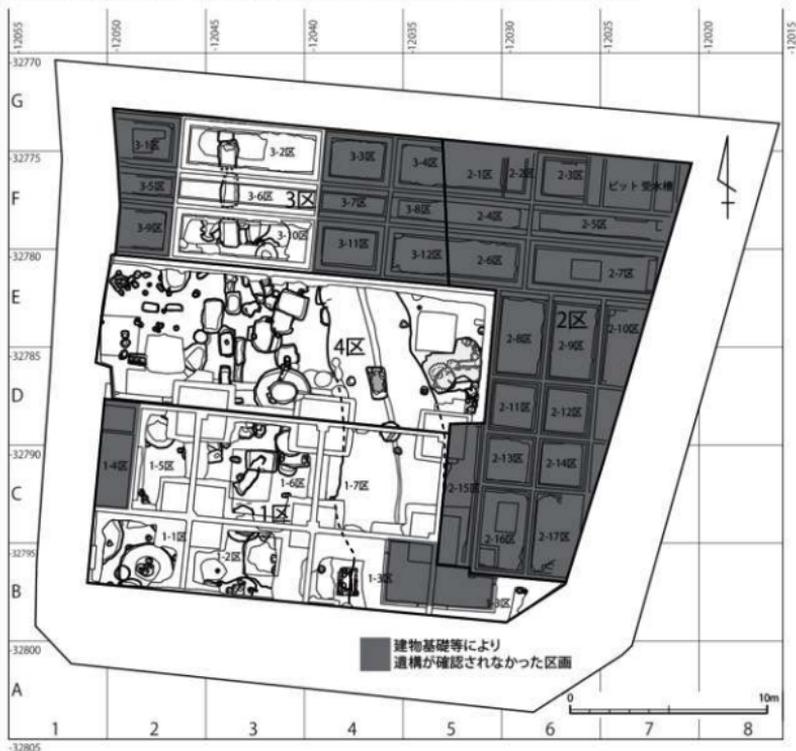


管を実施した。その後、報告書の編集執筆作業を行い、9月30日に報告書を刊行した。

### 3 調査の方法

発掘調査は、敷地の1,006 mを対象とし実施した。グリッドは、南西側を起点（世界測地系 X=32085・Y=12055）とし敷地をすべて網羅するように設定した。グリッドは5×5 mで、南北方向は南を起点にAから始まりGまで、東西方向は西を起点に1から8まで数字で表記した。今回の調査地点の中心付近の5Eの公共座標は、X=32785・Y=12035（北緯35°42′15.91268・東経139°42′01.20634）である（第2図）。調査地点の標高はT.P.30～31 mで、断面図等の標高はすべてT.P.である。調査は全体を大きく4分割して実施した。

遺構番号は、調査段階で確認された掘り込み全てに通し番号で付番した。整理段階で遺構でなくなったものに関しては、欠番とした。主な遺構平面図については、3D写真測量及びトータルステーションによって計測したものを「遺構くん」で図化した。断面図についても、一部を除き平面図と同様に図化を行った。遺物取上げについては、原則的に遺構単位もしくは地区別とした。



第2図 グリッド及び調査区割り図 (1/250)

整理調査は水洗い・注記を実施後、遺構ごとに分類・接合実施し、掲載遺物の抽出後に実測・トレース及び写真撮影を行った。図版作成作業は、主にパソコン上で行った。「遺構くん」で図化したデータはDXFに変換、手書き図面についてはスキャナーで取り込み、イラストレーター上でトレース・図版作成を行った。遺物図版は実測図・拓本をスキャナーで取り込み、イラストレーター上でトレース・写真割付などの図版作成を行った。編集作業はインデザインを使用し、各図版および文字データなどの割付を行った。

## II 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の位置と地理的環境

百人町三丁目遺跡は、新宿区百人町二・三・四丁目及び大久保三丁目6・7・8に所在し、南側のJR新大久保駅と北側の高田馬場駅の間で、JR山手線と西武新宿線を跨ぐ範囲に位置する。今回の発掘調査は、百人町三丁目遺跡の第7次調査で、百人町三丁目1-1に所在し、第2次調査の南側、第4次調査の山手線を挟んだ西側に位置する。

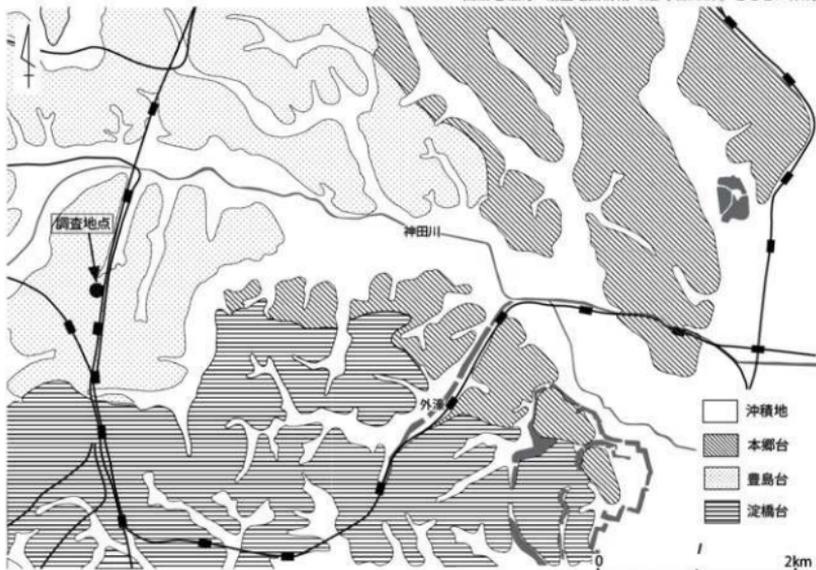
遺跡のある武蔵野台地は、標高約180mの青梅を扇頂とし、北側を荒川に、南側を多摩川に挟まれた扇状地で、東側に向かって徐々に標高を下げながら広がり、扇端部で東京低地に接する。扇端部での標高は、20～30mを測る。武蔵野台地の東端部では標高50m付近の湧水池で、善福寺池を水源とする善福寺川、井の頭池を水源とする神田川、妙正寺池を水源とする妙正寺川、三宝寺池を水源とする石神井川などの河川による開析谷が樹枝状に広がっている。この東端部は「山の手台地」といわれ、北側は下末吉面である淀橋台と、武蔵野面である豊島台と本郷台で構成されている。さらにこの「山の手台地」は、小河川や湧水による開析谷によって分断されている。百人町三丁目遺跡は、神田川と妙正寺川がかつて合流していた場所の南西側の豊島台に位置し、遺跡の周辺には神田川へ延びる支谷がある。調査地点の現標高は、約31.0-31.5m(T.P.)を測り、北西側の神田川の方角に向かってゆるやかに傾斜している。

### 2 歴史的環境

百人町三丁目遺跡を含む百人町三丁目周辺は、現在も町名に「百人町」と残っているように、江戸時代に大久保百人組屋敷があった場所である。大久保百人組の由緒書によると、慶長7年(1602)徳川家康が鷹狩で中野を訪れた際に、内藤清成が自ら願ひ出て大久保に鉄砲百人組の組屋敷として賜った。その後、寛永11年(1634)旗本久世三四郎が大久保組の組頭になった際に、大縄地に3本の道を設けられ、その両側を組屋敷とし、道に沿って南町、仲町、北町とし東西に木戸を設けられた。仲町の道が、現在の大久保通である。それぞれの組屋敷は間口が狭く奥行きが長い屋敷として分割された。同心一人当たりの屋敷の広さは『大久保元百人組屋敷繪圖面』(概要ii)によると、おおよそ千五百から二千坪くらいで、このうち道に面した場所が屋敷でその建坪は、おおよそ十五から三十五坪程であった。屋敷の裏手の広大な敷地は畑となった。この大久保百人組屋敷はおおよそ十五万二千坪で、同心組屋敷のほか、与力組屋敷、鉄砲角場、大筒角場や百人組の組頭を多く輩出し



国土地理院「基盤地図情報（縮尺2,500）」をもとに作成



『文京区区 巻1』(1981)第2図をトレスしたものに加筆して作成

第3図 遺跡の位置(上)と周辺の地形(下)(1/50,000)

た久世三四郎無年真抱屋敷等もあった（概要 ii）。

大久保百人組屋敷の同心は生活のため屋敷裏手の畑でつつじの栽培をはじめ、このつつじが江戸時代中期ごろには江戸で有名になった。『十法庵遊歴雜記初編』の「大久保組屋敷の映山紅」に「大久保百人町組屋敷北の通り組同心飯島武右衛門という西の木戸より北側二軒目にして躑躅に名高し…」とあり、『江戸名所図会』にも「大久保の躑躅」（概要 ii）として記されており、天保年間（1830～43）に最盛期を迎える。

文久2年（1862）に幕府の軍制改革で百人組は廃止され、与力は騎兵組、同心は大砲組・歩兵隊となった。明治2年（1869）に百人組同心は士族となり、屋敷地として百五十坪が与えられた。これ以降、つつじの栽培が少なくなるが、明治6年（1873）に東京府知事の提案により、地元の有志がつつじの復活のために働き、明治16年（1883）に七千坪のつつじ園、明治20年（1887）に南つつじ園が開園し、さらにいくつかのつつじ園が開園し、再びにぎわい明治20年ごろに最盛期を迎える。これらのつつじ園は大久保百人組屋敷の主に南側の南町及び仲町にあった。最盛期には明治22年（1889）に開設された甲武鉄道（現在の中央線）で臨時列車を出すほどの賑わいであった。この甲武鉄道には、明治28年（1895）に大久保停車場（現在の大久保駅）が開設された。その後、市街地化と地価の高騰などにより、大正3年（1914）に南つつじ園のは日比谷公園に移植され、翌年には大久保のつつじ園はすべて閉園し、つつじは館林のつつじヶ丘公園・箱根の蓬菜園・小金井市の浴恩園などに移植された。

大久保百人組屋敷北側の北町の調査地点の周辺は、明治7年（1874）に陸軍省の軍用地となり「戸山ヶ原」と呼ばれた。明治18年（1885）に開業した品川線（現在の山手線）の東側には、大正8年（1919）に陸軍科学研究所、西側には東京菓子会社（明治製菓）用地となった。その後陸軍科学研究所は電波兵器研究の関連施設である登戸実験場として、昭和12年（1937）にその一部が生田に移転した。昭和16年（1941）に陸軍科学研究所は廃止され、その後も終戦まで陸軍の軍用地であった。

### 3 周辺の遺跡

新宿区内では、2025年7月までに153カ所の遺跡が登録されている。旧石器時代・縄文時代の遺跡は、開析した谷の上の台地上を中心に多く確認されている。弥生時代から中世にかけての遺跡は、遺跡の北方を東西に流れる神田川沿いの段丘上で多く確認されている。江戸時代の新宿区は、江戸城外濠の北西に位置し、区の東側を中心に大名・旗本・御家人などの武家屋敷や町屋、寺社などがあり、西側は下屋敷などの広大な敷地を持つ武家屋敷や近郊の農村、街道沿いに発達した町家などがあつた地域である。これらの多くが江戸時代の遺跡として調査されている。百人町三丁目遺跡は区の西側に位置し、神田川に沿って旧跡時代から平安時代の遺跡や、広大な敷地を持つ尾張藩下屋敷や街道沿いの町家の遺跡などがある（第4図）。

旧石器時代の遺跡は、新宿区内で29カ所が登録されており、本遺跡のほか周辺では、落合遺跡（2）、戸山ヶ原上ノ台遺跡（10）、下戸塚遺跡（49）、穴八幡神社遺跡（60）、市谷本村町遺跡（61）、高田馬場三丁目遺跡（65）、北新宿三丁目遺跡（68）、上落合二丁目遺跡（77）、百人町三丁目西遺跡（79）、西早稲田三丁目遺跡（80）、住吉町西遺跡（84）、尾張藩徳川家下屋敷跡（85）、喜久井町遺跡（103）、北新宿二丁目遺跡（107）、水野原遺跡（110）、中落合二丁目遺跡（116）、蜀江山遺跡（141）、下

落合二丁目遺跡 (158)、中野区 No.64 遺跡 (中 64)、目白台一丁目遺跡 (文 114)、目白台三丁目遺跡 (文 137)、学習院大学周辺遺跡 (豊 3) が旧石器時代の遺跡として登録されている。

縄文時代の遺跡は、新宿区内で 67 カ所が登録されており、本遺跡のほか周辺では、落合遺跡 (2)、新宿区 No.4 遺跡 (4)、戸山ヶ原上ノ台遺跡 (10)、下戸塚遺跡 (49)、戸山遺跡 (52)、市谷仲之町遺跡 (54)、市谷薬王寺町遺跡 (55)、穴八幡神社遺跡 (60)、市谷本村町遺跡 (61)、高田馬場三丁目遺跡 (65)、北新宿三丁目遺跡 (68)、上落合二丁目遺跡 (77)、百人町三丁目西遺跡 (79)、西早稲田三丁目遺跡 (80)、住吉町西遺跡 (84)、尾張藩徳川家下屋敷跡 (85)、市谷柳町遺跡 (91)、西早稲田一丁目遺跡 (98)、河田町遺跡 (99)、喜久井町遺跡 (103)、北新宿二丁目遺跡 (107)、水野原遺跡 (110)、柏木淀橋町遺跡 (115)、中落合二丁目遺跡 (116)、原町二丁目遺跡 (125)、新宿六丁目遺跡 (128)、東円寺墓所跡 (146)、下落合二丁目遺跡 (158)、中野区 No.56 遺跡 (中 56)、中野区 N.71 遺跡 (中 71)、目白台一丁目遺跡 (文 114)、雑司が谷遺跡 (豊 12)、学習院大学周辺遺跡 (豊 3) が縄文時代の遺跡として登録されている。

弥生時代の遺跡は、新宿区内で 24 カ所が登録されており、本遺跡のほか周辺では、落合遺跡 (2)、戸山ヶ原上ノ台遺跡 (10)、下戸塚遺跡 (49)、戸山遺跡 (52)、穴八幡神社遺跡 (60)、市谷本村町遺跡 (61)、高田馬場三丁目遺跡 (65)、北新宿三丁目遺跡 (68)、百人町三丁目西遺跡 (79)、西早稲田三丁目遺跡 (80)、尾張藩徳川家下屋敷跡 (85)、西早稲田一丁目遺跡 (98)、北新宿二丁目遺跡 (107)、下落合二丁目遺跡 (158) が弥生時代の遺跡として登録されている。

古墳時代の遺跡は、新宿区内で 24 カ所が登録されており、本遺跡のほか周辺では、落合遺跡 (2)、上落合二丁目西遺跡 (8)、戸山ヶ原上ノ台遺跡 (10)、下戸塚遺跡 (49)、高田馬場三丁目遺跡 (65)、北新宿三丁目遺跡 (68)、上落合二丁目遺跡 (77)、百人町三丁目西遺跡 (79)、西早稲田三丁目遺跡 (80)、尾張藩徳川家下屋敷跡 (85)、北新宿二丁目遺跡 (107)、柏木淀橋町遺跡 (115)、下落合二丁目遺跡 (158)、中野区 No.56 遺跡 (中 56)、塔山古墳群 (中 66)、成願寺遺跡 (中 72) が古墳時代の遺跡として登録されている。

奈良時代の遺跡は、新宿区内で 18 カ所が登録されており、本遺跡のほか周辺では、落合遺跡 (2)、新宿区 No.3 遺跡 (3)、落合横穴墓群 (6)、戸山ヶ原上ノ台遺跡 (10)、下戸塚遺跡 (49)、戸山遺跡 (52)、高田馬場三丁目遺跡 (65)、上落合二丁目遺跡 (77)、百人町三丁目西遺跡 (79)、尾張藩徳川家下屋敷跡 (85)、喜久井町遺跡 (103)、中野区 No.65 遺跡 (中 65)、成願寺遺跡 (中 72)、目白台三丁目遺跡 (文 137)、が奈良時代の遺跡として登録されている。

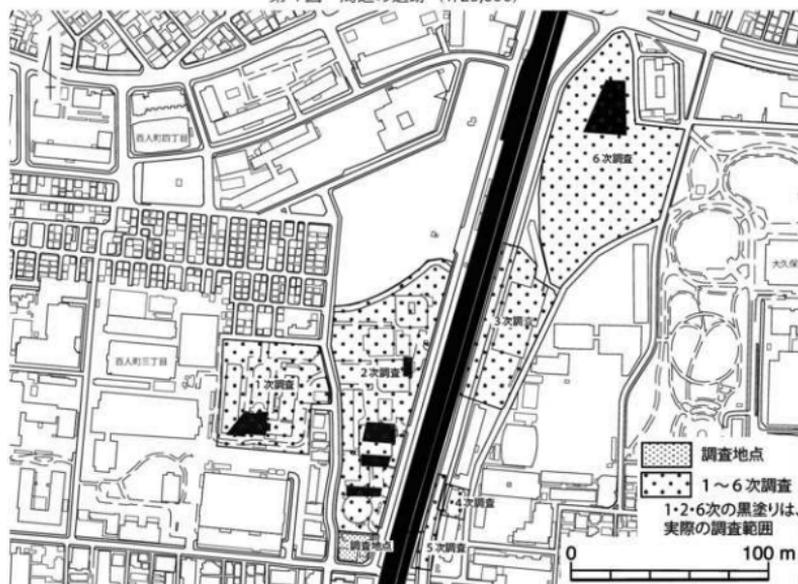
平安時代の遺跡は、新宿区内で 16 カ所が登録されており、本遺跡のほか周辺では、落合遺跡 (2)、新宿区 No.3 遺跡 (3)、上落合二丁目西遺跡 (8)、戸山ヶ原上ノ台遺跡 (10)、新宿区 No.29 遺跡 (29)、下戸塚遺跡 (49)、市谷本村町遺跡 (61)、上落合二丁目遺跡 (77)、百人町三丁目西遺跡 (79)、尾張藩徳川家下屋敷跡 (85)、喜久井町遺跡 (103)、目白台三丁目遺跡 (文 137)、雑司が谷遺跡 (豊 12) が平安時代の遺跡として登録されている。

中世の遺跡は、新宿区内で 13 カ所が登録されており、本遺跡周辺では、下戸塚遺跡 (49)、北新宿三丁目遺跡 (68)、柏木淀橋町遺跡 (115)、新宿六丁目遺跡 (128)、雑司が谷遺跡 (豊 12) が中世の遺跡として登録されている。

近世の遺跡は、新宿区内で 135 カ所が登録されている。本遺跡のほか周辺では、大名や旗本御家



国土地理院「基盤地図情報（縮尺2,500）」及び「東京都遺跡地図情報」をもとに作成  
 第4図 周辺の遺跡（1/25,000）



国土地理院「基盤地図情報（縮尺2,500）」をもとに作成  
 第5図 百人町三丁目遺跡調査地点（1/5,000）

第2表 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	時代	種別
2	落合遺跡	新都区西落合四丁目・中井一・二丁目	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世	包蔵地・集落・屋敷
3	新都区No.3遺跡	新都区中井二丁目	奈良・平安	集落
4	新都区No.4遺跡	新都区下落合四丁目	縄文	包蔵地
6	落合横穴墓群	新都区下落合四丁目	奈良	横穴墓
8	上落合二丁目西遺跡	新都区上落合二丁目	古墳・平安	集落
10	戸山ノ原上二丁目遺跡	新都区百人町四丁目・北新館四丁目	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安	包蔵地・集落
29	新都区No.29遺跡	新都区戸山三丁目	平安	包蔵地
43	百人町三丁目	新都区百人町二・三・四丁目・大久保三丁目	旧石器・縄文・奈良・近世	包蔵地・屋敷
49	下戸塚遺跡	新都区西早稲田一・三丁目	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	包蔵地・集落・屋敷
52	戸山遺跡	新都区戸山一丁目	縄文・弥生・奈良	集落
55	市谷薬王寺町遺跡	新都区市谷薬王寺町	縄文・近世	包蔵地・屋敷
60	穴八幡神社遺跡	新都区西早稲田一・二丁目	旧石器・縄文・弥生・近世	包蔵地・集落・社寺
65	高田馬場三丁目遺跡	新都区高田馬場三丁目	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良	包蔵地・集落
68	北新宿三丁目遺跡	新都区北新宿三丁目	旧石器・縄文・弥生・古墳・中世・近世	包蔵地・集落
70	早稲田南町遺跡	新都区早稲田南町	近世	屋敷
75	早稲田鶴巻町遺跡	新都区早稲田鶴巻町・早稲田町	近世	包蔵地
76	戸塚町一丁目遺跡	新都区戸塚町一丁目	近世	包蔵地
77	上落合一丁目遺跡	新都区上落合一丁目・二丁目	旧石器・縄文・古墳・奈良・平安	包蔵地・集落
79	百人町三丁目西遺跡	新都区百人町三丁目・北新宿四丁目	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世	包蔵地・集落
80	西早稲田三丁目遺跡	新都区西早稲田三丁目・高田馬場二丁目	旧石器・縄文・弥生・古墳・近世	包蔵地・集落・屋敷
82	若松町遺跡	新都区若松町・河田町	近世	屋敷
85	尾張藩徳川家下屋敷跡	新都区戸山一・二・三丁目	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世	包蔵地・屋敷
86	市谷仲之町西遺跡	新都区市谷仲之町	近世	屋敷
91	市谷柳町遺跡	新都区原町一丁目	縄文・近世	集落・屋敷・その他(町屋)・社寺・その他(墓) [近世]埋葬施設
92	長昌寺遺跡	新都区市谷薬王寺町	近世	社寺・その他(墓)
98	西早稲田一丁目遺跡	新都区西早稲田一丁目	縄文・弥生・近世	包蔵地
99	河田町遺跡	新都区河田町	縄文・近世	包蔵地・屋敷
103	喜久井町遺跡	新都区喜久井町	旧石器・縄文・奈良・平安・近世	包蔵地・集落・屋敷
106	水野原跡	新都区市谷柳町	近世	社寺・その他(墓)
107	北新宿二丁目遺跡	新都区北新宿一・二丁目	旧石器・縄文・弥生・古墳	包蔵地・集落
110	水野原遺跡	新都区若松町	旧石器・縄文・近世	包蔵地・屋敷
115	柏木淀巻町遺跡	新都区北新宿二丁目	縄文・古墳・中世・近世	包蔵地・その他(町屋)
116	中落合一丁目遺跡	新都区中落合一丁目	旧石器・縄文	包蔵地
118	馬場下町遺跡	新都区馬場下町	近世	その他(町屋)
119	蓬光寺跡	新都区原町三丁目	近世	社寺・その他(墓)
125	原町二丁目遺跡	新都区原町二丁目	縄文・近世	包蔵地・屋敷
128	新宿六丁目遺跡	新都区新宿六丁目	縄文・中世・近世	集落・屋敷
141	堀江山遺跡	新都区北新宿一丁目	旧石器・近世	包蔵地
143	柏木成子町遺跡	新都区西新宿七・八丁目	近世	その他(町屋)
144	余丁町遺跡	新都区余丁町	近世	屋敷
146	薬王寺墓所跡	新都区市谷薬王寺町	縄文・近世	包蔵地・社寺・その他(墓)
152	高田馬場三丁目南遺跡	新都区高田馬場三丁目	弥生・近世	包蔵地・集落
153	清久寺跡	新都区原町二丁目	近世	その他(墓) 社寺
156	西新宿六丁目遺跡	新都区西新宿六丁目	縄文・近世	集落
157	淨光寺跡	新都区喜久井町	近世	その他(墓) 社寺
158	上落合一丁目遺跡	新都区上落合一丁目	旧石器・縄文・弥生・古墳	包蔵地
160	原町三丁目遺跡	新都区原町三丁目	近世	その他(町屋)
162	宗勝寺遺跡	新都区弁天町	近世	その他(墓) 社寺
中56	中野区No.56遺跡	中野区上高田四丁目	縄文	包蔵地
中64	中野区No.64遺跡	中野区新中野五丁目	旧石器	包蔵地
中65	中野区No.65遺跡	中野区新中野五丁目	古墳・奈良	包蔵地
中66	塔山古墳群	中野区中央一丁目	古墳	古墳
中71	中野区No.71遺跡	中野区中央一丁目	縄文	包蔵地
中72	成願寺遺跡	中野区本町二丁目	古墳・奈良	包蔵地
文114	日百合一丁目遺跡	文京区日百合一丁目	旧石器・縄文・近世	包蔵地・屋敷
文137	日百合二丁目遺跡	文京区日百合二丁目	旧石器・奈良・平安・近世	包蔵地・集落跡
文98	日百合二丁目南遺跡	文京区日百合二丁目	近世	屋敷
世12	鎌司古墳群	豊島区鎌司古墳二・三丁目	縄文・平安・中世・近世	包蔵地・その他(町屋)
世3	学院大塚原遺跡	豊島区日百合一・二丁目	旧石器・縄文	包蔵地

人などの武家屋敷・町屋・寺社の遺跡で、落合遺跡(2)、下戸塚遺跡(49)、戸山遺跡(52)、市谷仲之町遺跡(54)、市谷薬王寺町遺跡(55)、穴八幡神社遺跡(60)、市谷本村町遺跡(61)、北新宿三丁目遺跡(68)、早稲田南町遺跡(70)、早稲田鶴巻町遺跡(75)、戸塚一丁目遺跡(76)、百人町三丁目西遺跡(79)、西早稲田三丁目遺跡(80)、住吉町遺跡(81)、若松町遺跡(82)住吉町西遺跡(84)、尾張藩徳川家下屋敷跡(85)、市谷仲之町西遺跡(86)、市谷柳町遺跡(91)、長昌寺遺跡(92)、西早稲田一丁目遺跡(98)、河田町遺跡(99)、喜久井町遺跡(103)、水野原遺跡(110)、柏木淀

橋町遺跡（115）、馬場下町遺跡（118）、漣光寺跡（119）、原町二丁目遺跡（125）、新宿六丁目遺跡（128）、蜀江山遺跡（141）、柏木成子町遺跡（143）、余丁町遺跡（144）、東門寺墓所跡（146）、清久寺跡（153）、冷泉寺跡（157）、富久町北遺跡（159）、原町三丁目遺跡（160）、宗參寺遺跡（162）、目白台二丁目南遺跡（文98）、目白台一丁目遺跡（文114）、目白台三丁目遺跡（文137）、雑司が谷遺跡（豊12）が近世の遺跡として登録されている。

これまでに百人町三丁目遺跡では、1次から6次までの調査が実施されている（第5図）。

1次調査 検出された遺構は、縄文時代の土坑5基、奈良時代のピット43基、江戸時代の溝1条である。出土遺物は、縄文時代早期燃糸文・中期前半・後期初頭の土器、古墳時代末から奈良時代前半の胴張甕、江戸時代の陶磁器・土器・金属製品などである。調査地点内で西から東方向へ緩やかに傾斜する小支谷を確認している。この小支谷は、奈良時代から江戸時代頃には埋没していた。大久保百人組屋敷の北通り北側の屋敷地の裏手側にあたる。

2次調査 検出された遺構は、江戸時代の土坑6基・溝1条・焼土址、焼土集中地点3箇所である。出土した遺物は縄文時代後期後半の土器、江戸時代の陶磁器・土器・鉄砲玉と考えられる鉛玉を含む金属製品などである。大久保百人組屋敷の北通り北側の屋敷地の裏手側にあたる。

3次調査 検出された遺構は、江戸時代の溝状遺構220基（地割溝・水利施設・花壇状遺構など）・半地下室1基・土坑144基・井戸1基・植栽痕16基・不明14基・小穴97基である。その他、近代の池跡も確認されている。出土遺物は旧石器時代の関東ローム層I層から出土した剥片を含む石器及び剥片、縄文時代の土器・石鏃、弥生・古墳時代の土器、奈良・平安時代の瓦、江戸時代の陶磁器・土器・瓦・火縄銃の鉛弾を含む金属製品などである。大久保百人組屋敷の北通り北側の屋敷地の裏手側にあたる。

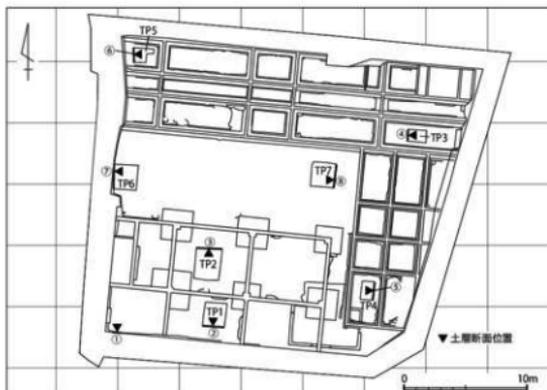
4次調査 検出された遺構は、関東ローム層IXからX層の間から土坑とされたもの1基、江戸時代の花壇痕を含む溝状遺構16基・土坑11基、非抽出の溝状遺構1基・小穴13基である。出土した遺物は、江戸時代の陶磁器・土器・土製品などである。大久保百人組屋敷の北通り北側の屋敷地の裏手側にあたる。

5次調査 検出された遺構は、関東ローム層V層から小穴とされたもの1基、江戸時代の溝状遺構33基・地下室1基・井戸状遺構を含む井戸5基・植栽痕22基・土坑173基・小穴243基・柱穴7基・杭穴3基、非抽出の土坑・小穴・柱穴の185基である。出土した遺物は陶磁器・土器・火縄銃の鉛弾を含む金属製品などである。大久保百人組屋敷の北通り北側の屋敷地の通りに面した場所にあたる。

6次調査 検出された遺構は、旧石器時代の礫群6基・石器ブロック4基・炭化物集中6箇所・関東ローム層IV層下部から土坑とされたもの1基と江戸時代の抱衣埋納遺構2基・礎石建物跡2棟・ピット列1条・ピット32基である。出土遺物は旧石器時代の石槍を含む石器97点と、江戸時代の陶器・磁器・土器・土製品・銭貨などである。大久保百人組屋敷の北側の上戸塚村・西大久保村・諏訪村のあたりにあたる。

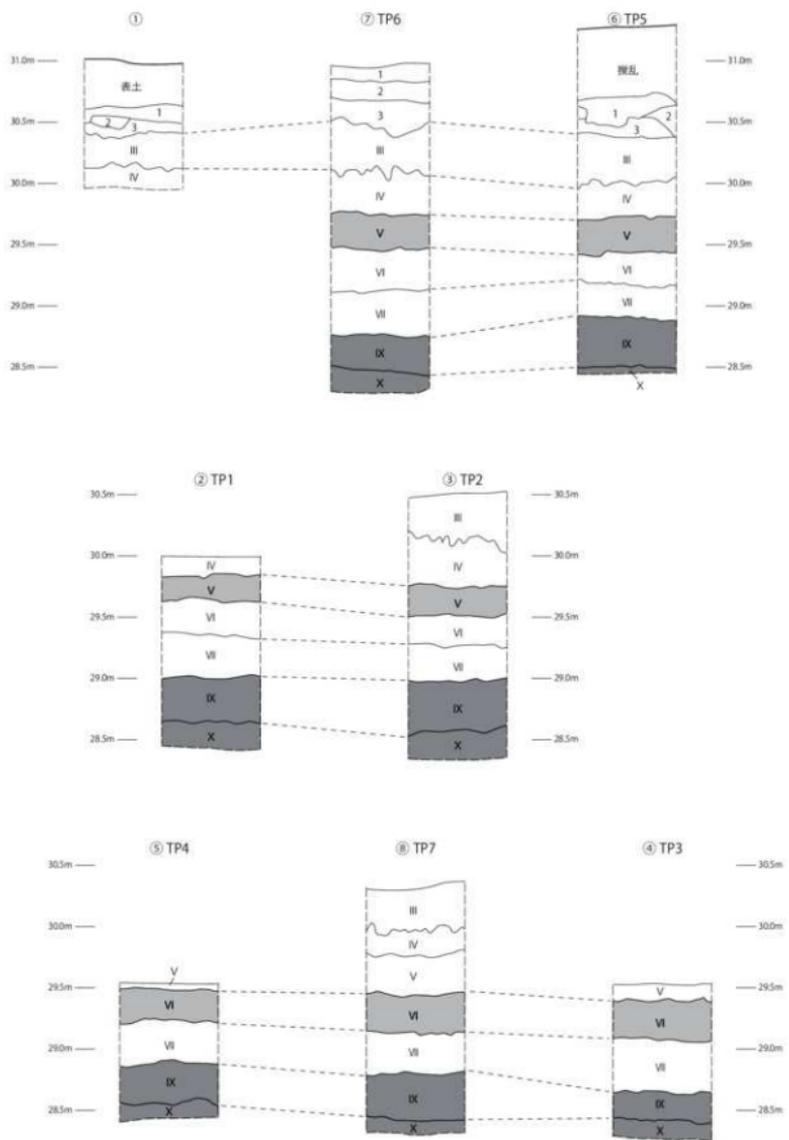
## III 層序

本調査地点の標高は、31.0～31.5 m測る。①は調査区南西側の壁の土層断面として確認を行った。② TP1～⑦ TP 6 まででは旧石器時代の試掘調査を兼ねてローム層の層序確認を行った。このうち④ TP3 及び④ TP4 は建物基礎により標高 29.5 m 付近まで削平されていたため、その下層層序確認を行った。⑧ TP 7 は、新宿区教育委員会が実施した試掘坑に追加する形で、ローム層の層序確認を実施した。本調査地点の土層堆積は、明治時代から江戸時代の堆積層、江戸時代以前の自然堆積と考えられる漸移層と立川ロームの大きく2つに分けられる。1-1 区の南壁の①では明治から江戸の堆積層と立川ロームⅢ・Ⅳ層を確認した。4 区西壁の⑦ TP6・3-1 区西壁の⑥ TP5 では明治から江戸の堆積層と立川ロームⅢ～Ⅹ層を確認した。1-2 区の② TP1・1-6 区の③ TP2 は遺構調査終了後、②で立川ロームⅣ～Ⅹ層、③で立川ロームⅢ～Ⅹ層を確認した。2-16 区の④ TP3・2-7 区の⑤ TP4 は建物基礎の削平により立川ロームⅧ層下部～Ⅹ層を確認した。4 区東側の⑧ TP7 はⅢ層～Ⅹ層を確認した。いずれの試掘坑からも旧石器時代の遺物は確認されなかった。調査地区内での立川ローム層での地形の変化は確認されなかった。



- ① 表土近代以降の宅地造成時の遺土。10YR 3/4 (暗褐色) 土。締まり・粘性に欠ける。φ 10-200mm の小礫・礫を多く含む。φ 10-150mm ロームブロックも含まれる。
1. 10YR 2/2 (黒褐色) 土。締まりやや弱。粘性やや強。富士黒土由来の耕作土。φ 1-5mm ローム土粒 10%。φ 1-3mm 炭化物 3%。φ 1mm 焼土粒 1% 未満。
2. 10YR 2/3 (黒褐色) 土。締まりやや弱。粘性普通。ロームと(黒褐色)土(耕作土)が塊状に混ざる。φ 1-3mm ローム土粒 10%。φ 10mm ロームブロック 3%。φ 1-2mm 炭化物 1% を含む。
3. 10YR 3/3 (暗褐色) 土。締まりやや強。粘性やや強。薄位層。φ 1mm 灰白色土粒 1% 未満を含む。粗の影嚮を大きく受ける。
- ② 1. 10YR 3/3 (暗褐色) 土。締まり良好。粘性有り。φ 2-3mm ローム粒 3-5%。φ 10mm ロームブロック 1%。φ 2-5mm 炭化物 2-3%。φ 2-10mm 小石 1% を含む。
2. 10YR 3/4 (暗褐色) 土。締まり良好。粘性有り。φ 1-2mm ローム粒 1%。φ 2-5mm 炭化物 1%。φ 10mm 小石 1%。φ 10-50mm (褐色)土ブロック 10% を含む。
3. 10YR 4/4 (褐色) 土。締まり良好。粘性有り。φ 1-2mm ローム粒。φ 1-2mm 炭化物 2-3% を含む。
- ③ 1. 砂石層
2. 10YR 3/4 (暗褐色) 土。締まり良好。粘性有り。φ 1-3mm ローム粒 2%。φ 1-2mm 炭化物 1%。φ 1-2mm 焼土粒 1% を含む。砂石の影響で硬化している。
3. 10YR 4/4 (褐色) 土。締まり良好。粘性有り。φ 1-2mm ローム粒。φ 10-50mm 茶(褐色)土。色ブロック 10% を含む。茶(褐色)ブロックは塊状に混ざる。

第 6 図 旧石器時代試掘坑及び土層断面位置図 (1/400)



第7図 土層断面 (1/40)

## IV 遺構と遺物

### 1 検出された遺構

今回の発掘調査で検出された遺構は、江戸時代から明治時代以降の143基である。

各個別遺構については遺構観察表に（第3表）に掲載し、ここでは地区別に掲載した主な遺構の概略について種別ごとに述べる。

#### 1) 江戸時代

江戸時代の遺構は井戸・溝状遺構・植栽痕を含む土坑・ピット・整地跡の138基である。

**井戸** 2基が検出された。10号（第10・11図）は径73～74cmで、確認面から-138cmまで掘削したが底面は未検出である。南側の往還に近い場所に位置する。壁面に足掛けの痕跡が認められる。遺物はほとんど含まない。111号（第17・18図）は径65～71cmで、確認面から-202cmまで掘削したが底面は未検出である。壁面に足掛けの痕跡が認められる。

**溝状遺構** 1条が検出された。88号（第19・20図）は幅49cmで長軸方向が屋敷南側の道路にほぼ直交する形で延びる。底面は凹凸が多く認められる。134号に切られている。

**整地跡（段切り）** 1ヶ所が検出された。129号（第22・23図）は4区5-Dグリッドの中央部付近の122・135号の南側、123号の西側で検出された。段切りは南側のローム層を約16cm削る形で認められた。129号の段切り後、122・123・135号が構築された。

**土坑** 70基が検出された。

・長軸方向が南北で、南側の道路に直交する方向で検出された土坑 48・50・51・80～82号（第15・16・19・20図）は、3-D・E・F・Gグリッド中央よりやや西側から検出され、ほぼ南北一直線上に並ぶ、長方形の土坑である。土坑の規模は長軸方向で92～182cm程で短軸が73～102cm程、底面での標高が80号を除き28.9～29.5mである。80号の底面の標高は30.2mである。81号の底面中央部に21×16cm、深さ30cmのピットが認められた。同じライン上に49・83・94号（第15・16・19・20図）が検出されている。

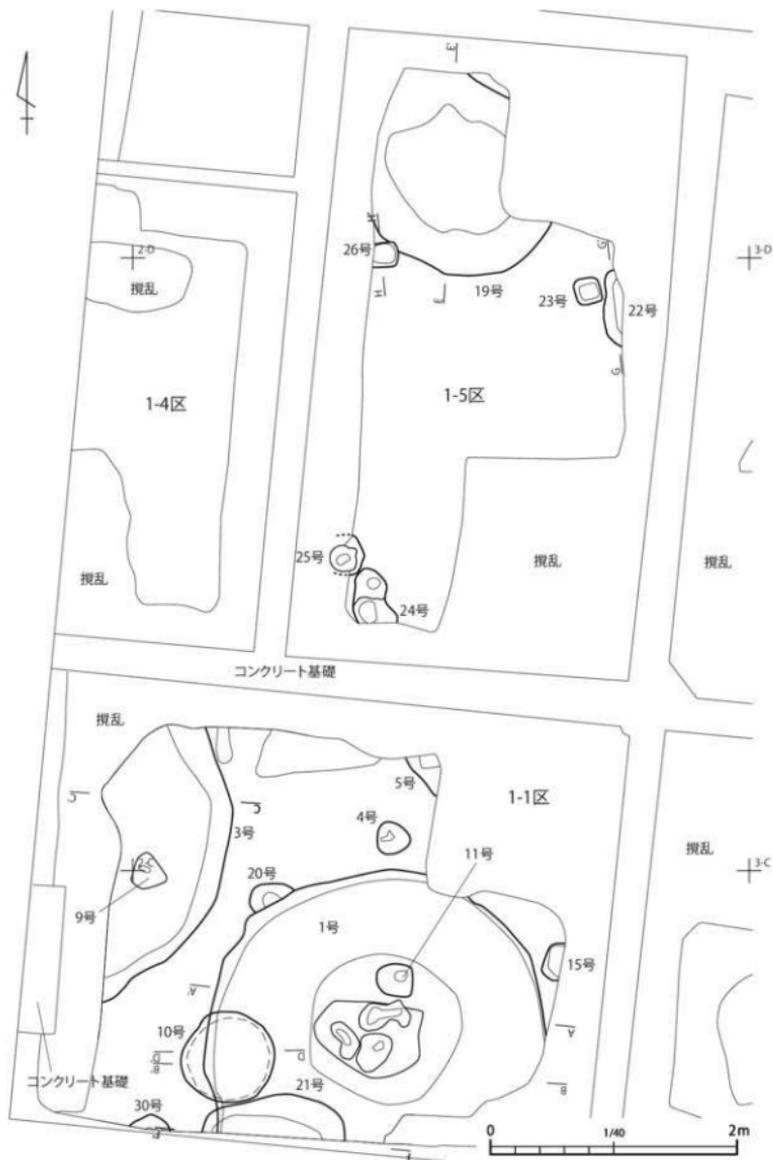
・底面のコーナー部にピットを有する土坑 38a号（第12・14図）は3-C・Dグリッドにまたがるように検出されている。底面の深さは56cmで標高は30.18mである。南側のコーナーの2か所に約40×20cmで深さ15～18cmの方形のピットが認められる。北側のコーナー部にも同様のピットがあった可能性も考えられるが、建物基礎により壊されており不明である。38b号は38a号に切られている。

・長軸方向が東西で、南側の道路に平行する方向で検出された土坑 96・97・122号で96・97号（第17・18図）は2-Eグリッド中央部から、122号（22・23図）は5-Dグリッド中央部から検出されている。96・97号の底面の標高はいずれも30.35mである。122号の深さは約33cmで標高30.27mである。

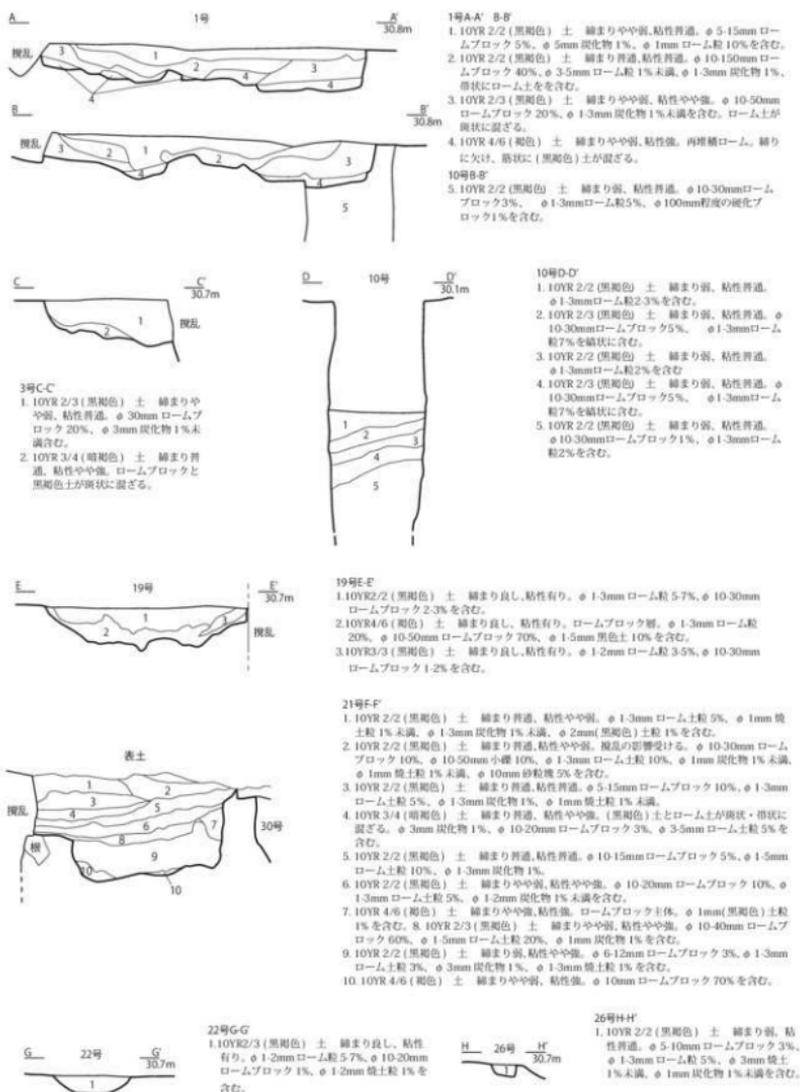
・平面形が方形・長方形・楕円形で長軸が103cmで深さ41cm以上の土坑 35・79・90・92・93・116号が検出されている。35号（第12・14図）は3-Cグリッド北側から検出され、底面の深さ59  
(以下、23頁へ)



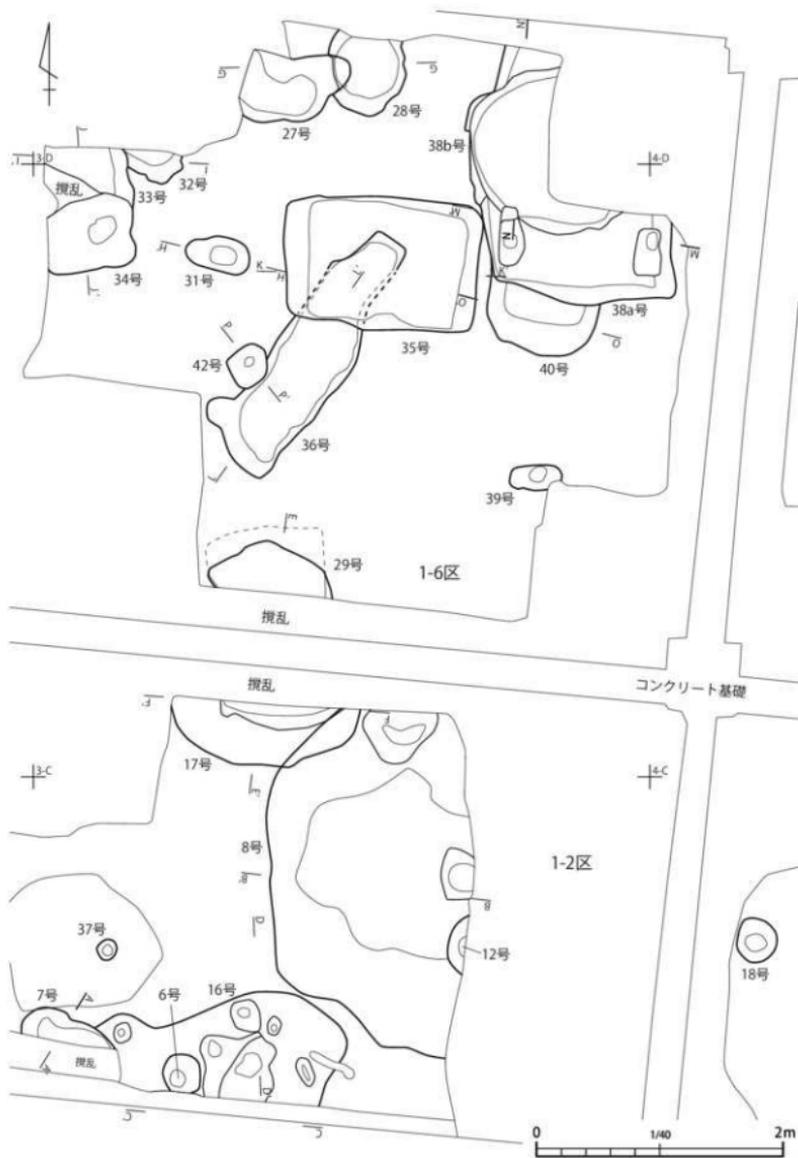




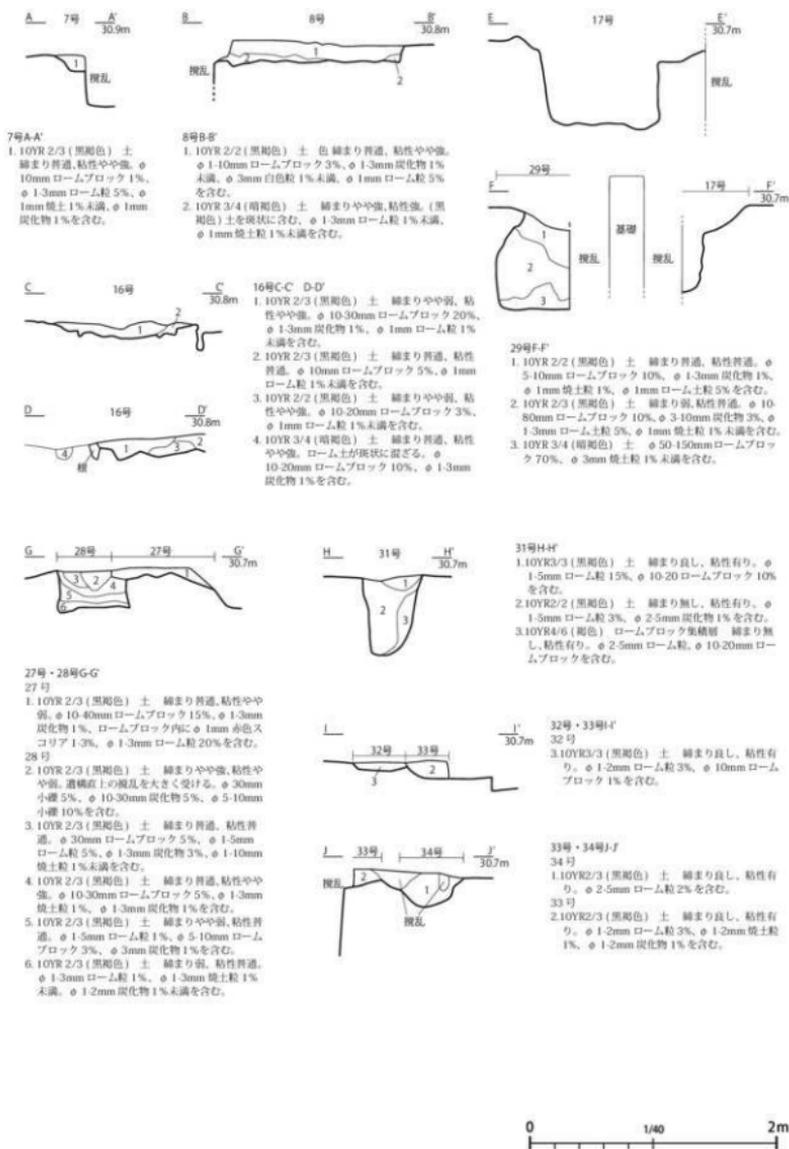
第10図 1-1・1-5区 遺構平面図 (1/40)



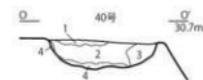
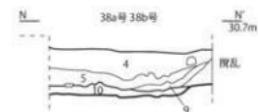
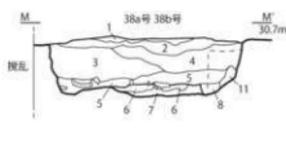
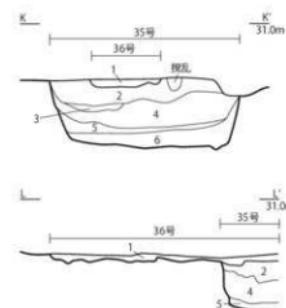
第11図 1-1・1-5区 遺構土層断面図 (1/40)



第12図 1-2・1-6区 遺構平面図 (1/40)



第 13 図 1-2・1-6 区 遺構土層断面図 (1) (1/40)



40号O-O'

- 10YR 3/4 (黄褐色) 土 締まりや中強, 粘性普通, ブロック状に層積,  $\phi$  8.20mm ロームブロック 30%,  $\phi$  10mm(黒褐色)土粒 10%,  $\phi$  10mm 粘土粒 1%,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 60% を含む。
- 10YR 3/4 (黄褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 3%,  $\phi$  1mm(黒褐色)土粒 1%,  $\phi$  20mm ロームブロック 1%,  $\phi$  1mm 炭化物 1% 未満を含む。
- 10YR 2/3 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  10mm ローム土粒 1%,  $\phi$  5-15mm(黒褐色)土粒 5%,  $\phi$  1mm ローム土粒 3% を含む。
- 10YR 2/2 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性普通,  $\phi$  10.20mm ロームブロック 30%,  $\phi$  1mm ローム土粒 5% を含む。

35号・36号K-K' L-L'

36号

- 10YR 2/2 (黒褐色) 土 締まり普通, 粘性普通,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 1%,  $\phi$  10mm ロームブロック 3%,  $\phi$  1.3mm 炭化物 3%,  $\phi$  5-10mm 焼土粒 1% を含む。36号覆土。

35号

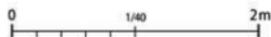
- 10YR 2/2 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性普通,  $\phi$  10mm ロームブロック 5%,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 5%,  $\phi$  1.3mm 炭化物 1% を含む。
- 10YR 3/4 (黄褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  10.30mm ロームブロック 10%,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 3%,  $\phi$  3mm 炭化物 1% 未満を含む。
- 10YR 2/2 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  10.30mm ロームブロック 3%,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 3%,  $\phi$  1.3mm 炭化物 1%,  $\phi$  1mm 焼土粒 1% 未満を含む。
- 10YR 3/4 (黄褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  10.50mm ロームブロック 40%,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 15%,  $\phi$  10mm 炭化物 3%,  $\phi$  2mm 焼土粒 1% を含む。
- 10YR 4/6 (黄褐色) 土 ロームブロック集積層 締まりあり, 粘性強,  $\phi$  10.150mm のロームブロックで充填される。

38a号・38b号M-M' N-N'

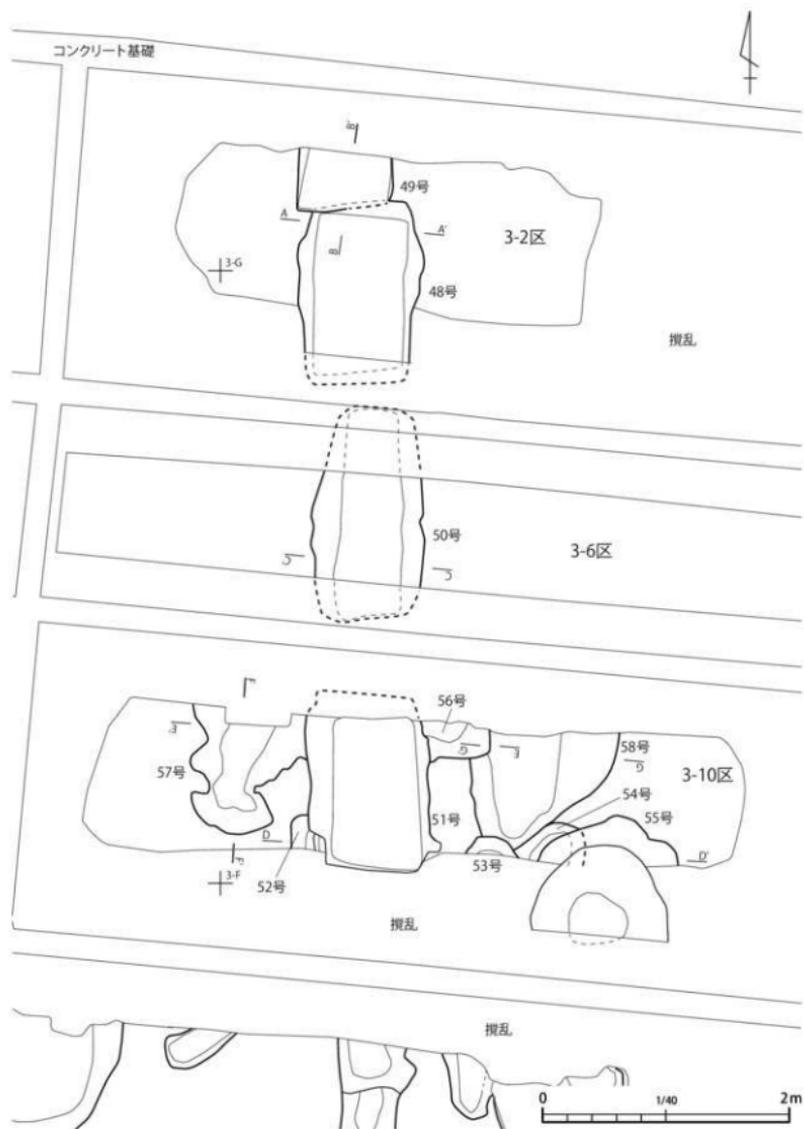
- 10YR 2/3 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  10.20mm ロームブロック 5%,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 10%,  $\phi$  3mm 炭化物 3%,  $\phi$  1mm(黄褐色)土粒 1% 未満を含む。
- 10YR 2/3 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  10.30mm ロームブロック 20%,  $\phi$  1mm 炭化物 1%,  $\phi$  1mm 焼土粒 1% 未満,  $\phi$  1.5mm ローム土粒 10% を含む。
- 10YR 2/3 (黒褐色) 土 締まり普通, 粘性やや強,  $\phi$  10.30mm ロームブロック 10%,  $\phi$  1.5mm ローム土粒 15%,  $\phi$  10mm 炭化物 3%,  $\phi$  2mm 焼土粒 1% を含む。
- 10YR 2/3 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  20.30mm ロームブロック 15%,  $\phi$  1.10mm ローム土粒 10%,  $\phi$  5-10mm 炭化物 5%,  $\phi$  1.3mm 焼土粒 1%,  $\phi$  10mm 白色粘土粒 1% 未満,  $\phi$  1mm(黄褐色)土粒 1% を含む。
- 10YR 2/2 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性普通,  $\phi$  10.50mm ロームブロック 5%,  $\phi$  1.5mm ローム土粒 10%,  $\phi$  10mm 炭化物 1%,  $\phi$  1mm 焼土粒 1% を含む。遺物を多く含む。
- 10YR 3/4 (黄褐色) 土 締まり普通, 粘性やや強, ロームブロック主体,  $\phi$  10.40mm ロームブロック 50%,  $\phi$  1mm 炭化物 1% 未満を含む。
- 10YR 2/2 (黒褐色) 土 締まり弱, 粘性普通,  $\phi$  10mm ロームブロック 3%,  $\phi$  1mm 焼土粒 1% 未満,  $\phi$  1.3mm 炭化物 1% 未満,  $\phi$  1mm(黄褐色)土粒 1%,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 3% を含む。
- 10YR 2/3 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  10.30mm ロームブロック 40%,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 20%,  $\phi$  1mm 炭化物 1% 未満,  $\phi$  1mm 焼土粒 1% 未満を含む。
- 10YR 2/3 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  10.30mm ロームブロック 10%,  $\phi$  1.5mm ローム土粒 10%,  $\phi$  3mm 炭化物 1%,  $\phi$  1mm 焼土粒 1% 未満,  $\phi$  1.2mm(黄褐色)土粒 1% 未満を含む。
- 10YR 2/3 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  10.40mm ロームブロック 30% (北側に多く含む),  $\phi$  1.3mm ローム土粒 10%,  $\phi$  1.3mm 炭化物 1%,  $\phi$  1mm 焼土粒 1% 未満を含む。
- 10YR 5/6 (黄褐色) 土 ロームブロック集積層 締まりあり, 粘性有,  $\phi$  10.20mm ロームブロック 20%,  $\phi$  1.5mm ローム土粒 60% を含む。

42号P-P'

- 10YR 2/3 (黒褐色) 土 締まり普通, 粘性やや強,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 15%,  $\phi$  10.20mm ロームブロック 5%,  $\phi$  3mm(黄褐色)土粒 1% を含む。
- 10YR 2/3 (黒褐色) 土 締まりや中強, 粘性やや強,  $\phi$  10mm ロームブロック 1%,  $\phi$  1.3mm ローム土粒 20% を含む。下部では(黒褐色)土とローム土は混在している。
- 10YR 3/4 (黄褐色) 土 締まりや中強, 粘性強, ローム土主体,  $\phi$  1mm(黒褐色)土粒 1%,  $\phi$  1mm(黄褐色)土粒 1% 未満を含む。



第14図 1-2・1-6区 遺構土層断面図(2) (1/40)



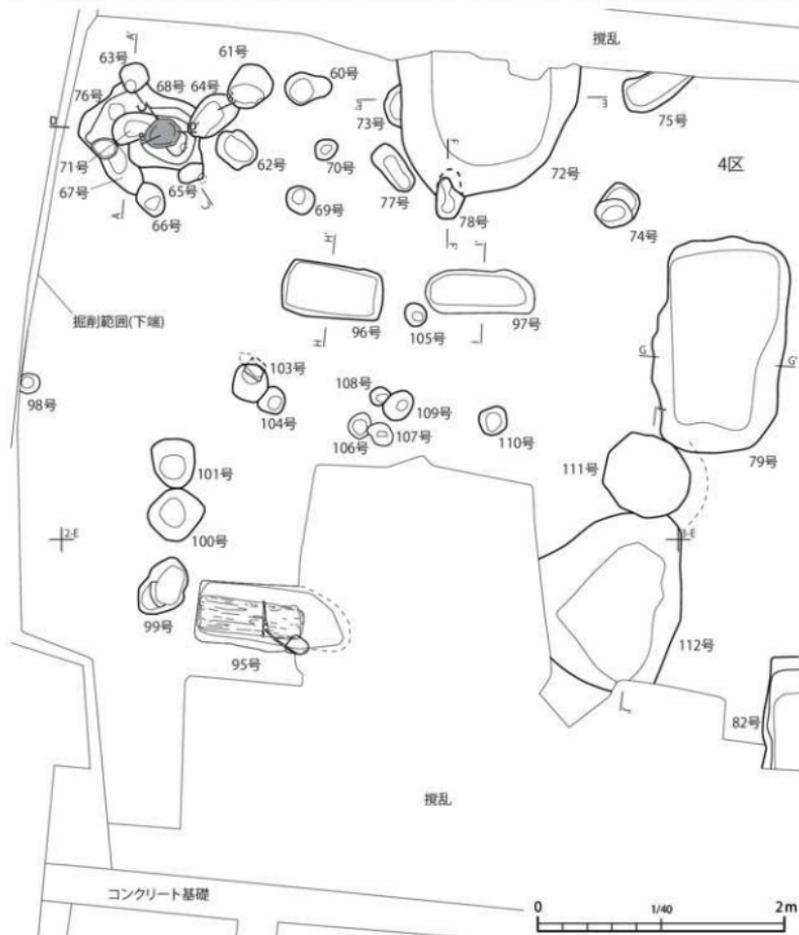
第15図 3-2・3-6・3-10区 遺構平面図 (1/40)



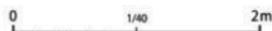
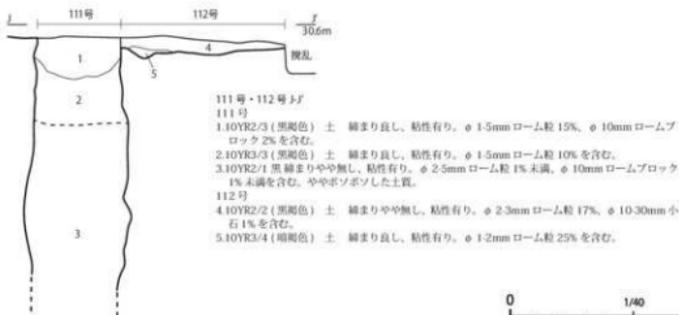
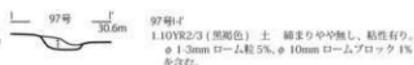
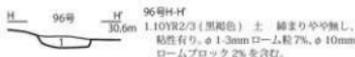
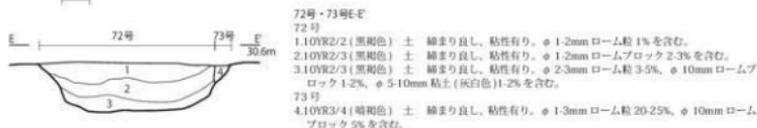
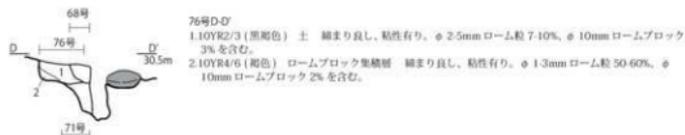
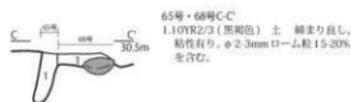
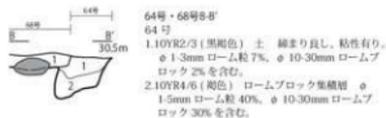
第16図 3-2・3-6・3-10区 土層断面図 (1/40)

cmで標高30.0mである。79号(第17・18図)は3-Eグリッド西側から検出され、底面の深さ41cmで標高は30.12mである。90・92・93・116号(19～21図)は3-Eグリッド南東側から重複した状態で検出されている。底面の深さは、90号が60cmで標高29.92m、92号が82cmで標高29.58m、93号が78cmで標高29.7mである。

・平面形が円形で長軸が100cm以上、深さが70cm以上の土坑 17・29・55号で、17・29号は3-Cグリッド南側から、55号は3-E・Fグリッドにまたがるように検出されている。底面の深さは17号が70cmで標高29.78m、29号が82cmで標高29.7m、55号が117cmで標高29.0mである。



第17図 4区西側 遺構平面図 (1/40)



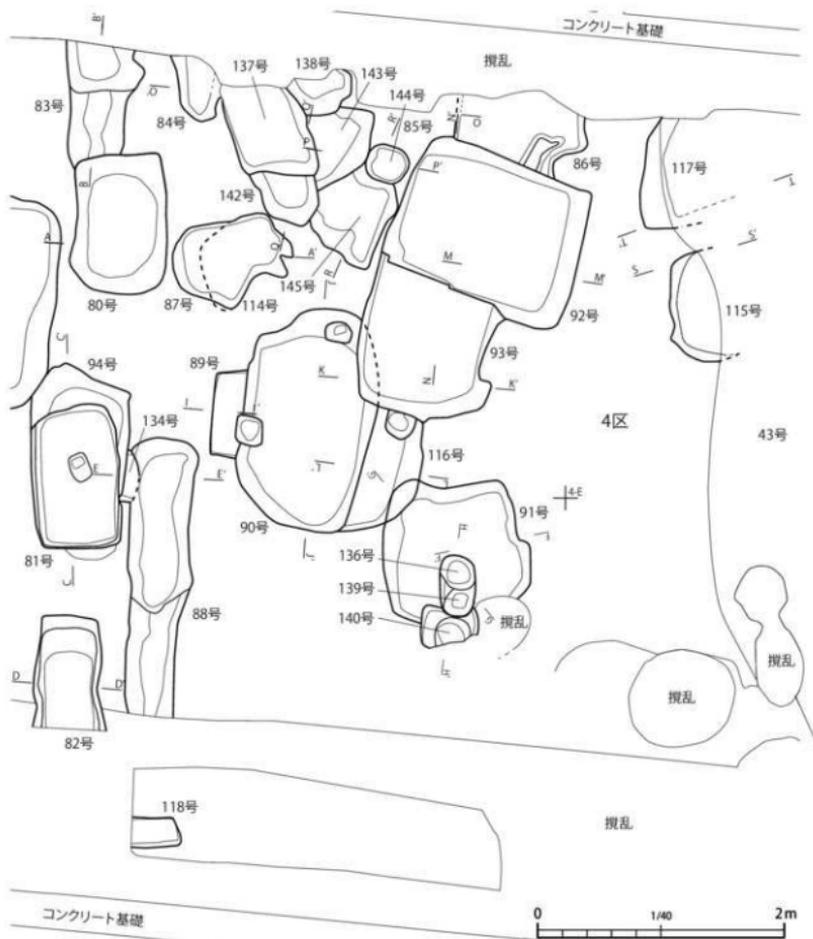
第 18 図 4 区西側 遺構土層断面図 (1/40)

17号と29号は同一遺構の可能性も考えられるが、両者はコンクリート基礎を挟んでいたため調査段階では繋がることは確認できなかった。29号の北側壁面はオーバーハンクしている。

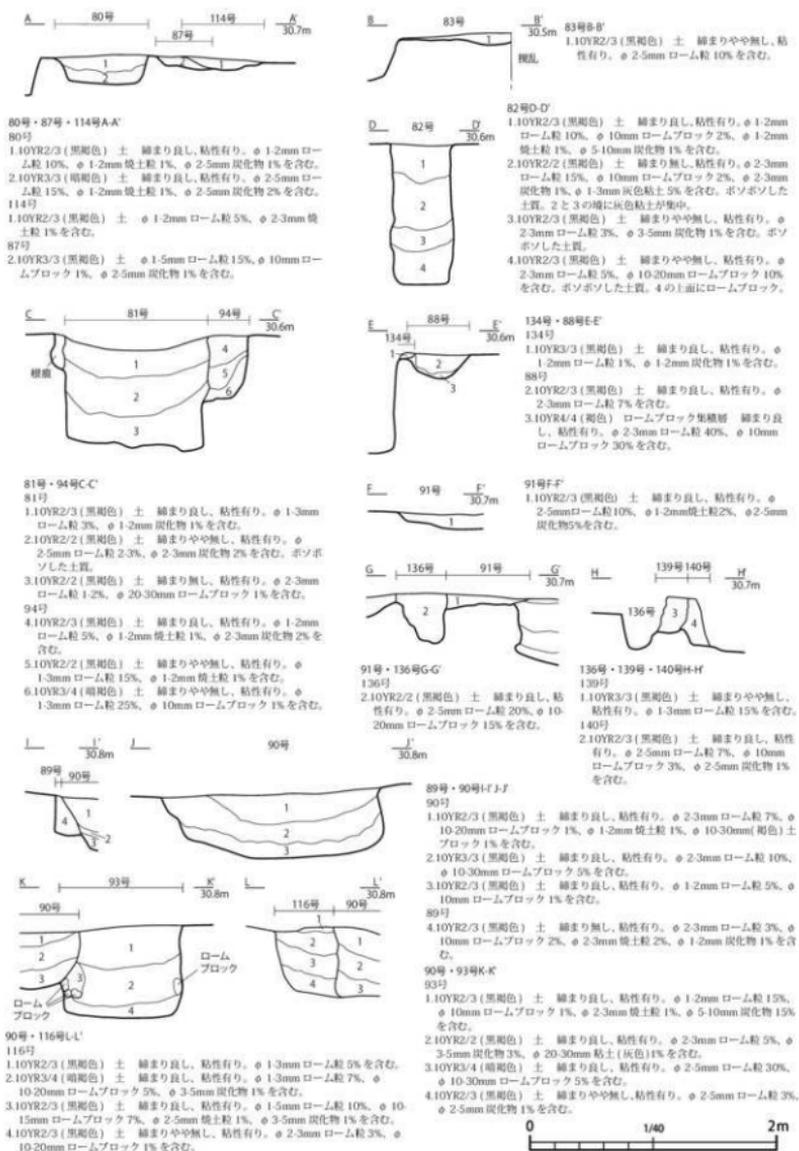
・平面形が円形・不整形で長軸が200cmを超える大型の土坑 1・3・8号が検出されている。底面の深さは19～38cmである。

・平面形が円形・不整形で長軸が146～200cmの比較的大型の土坑 16・19・38b・72・112号が検出されている。底面の深さは、38b号が49cm、72号が42cmで、その他が14～27cmである。

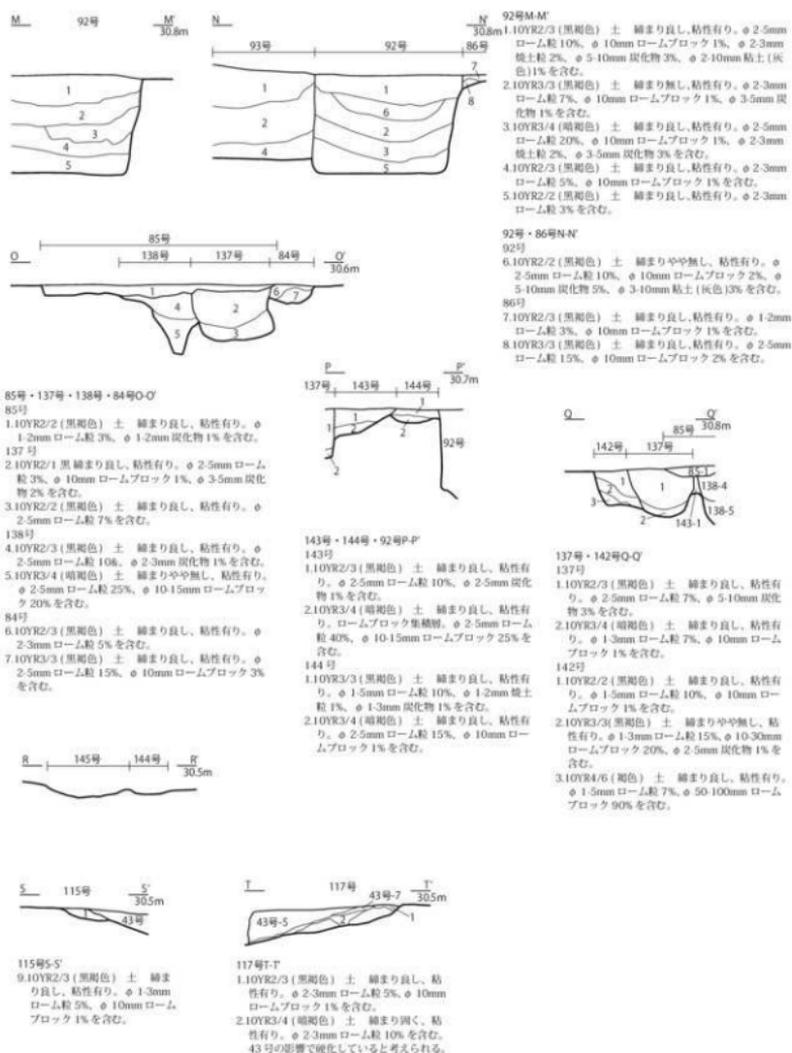
(以下、32頁へ)



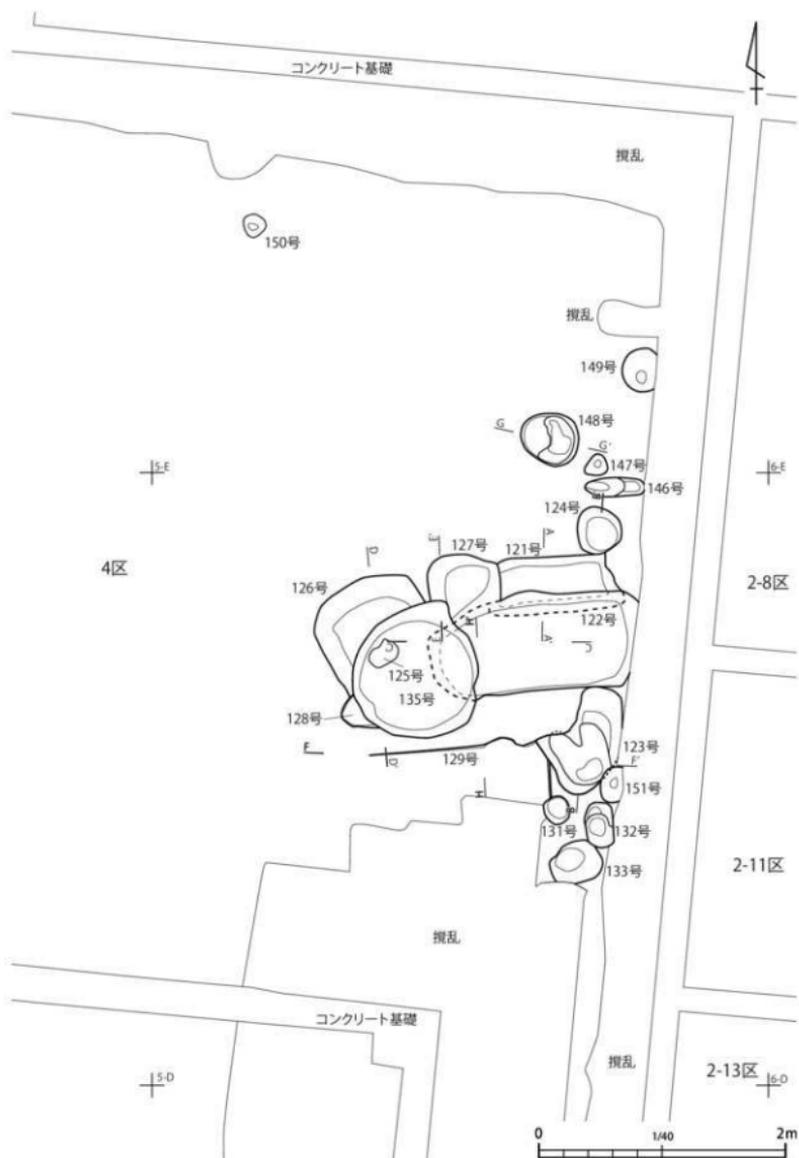
第19図 4区中央部 遺構平面図 (1/40)



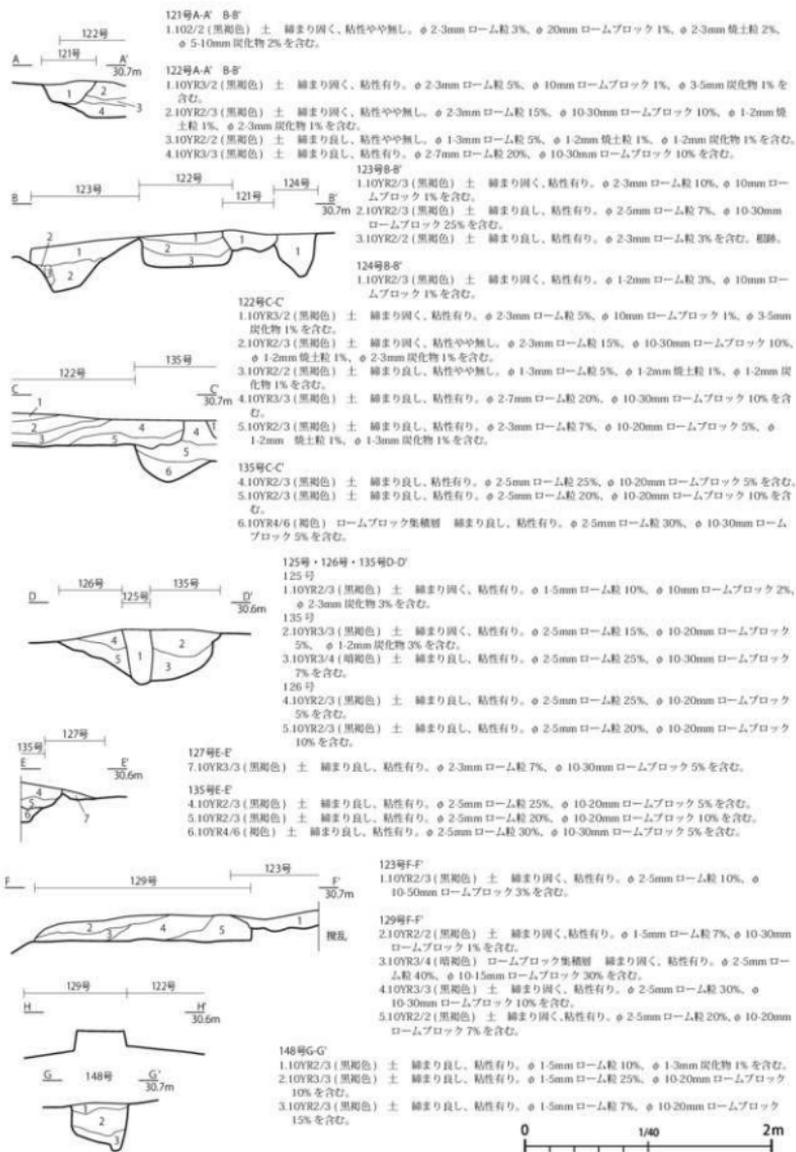
第20図 4区中央部 遺構土層断面図(1) (1/40)



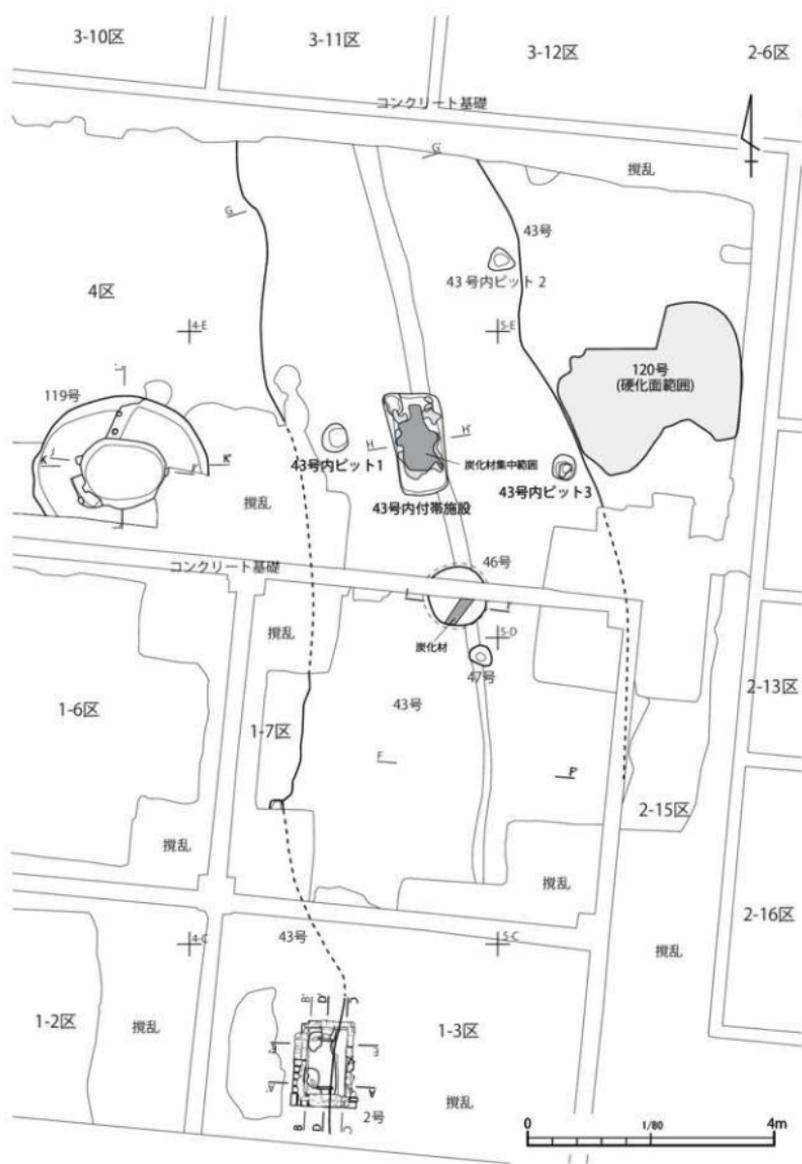
第 21 図 4 区中央部 遺構土層断面図 (2) (1/40)



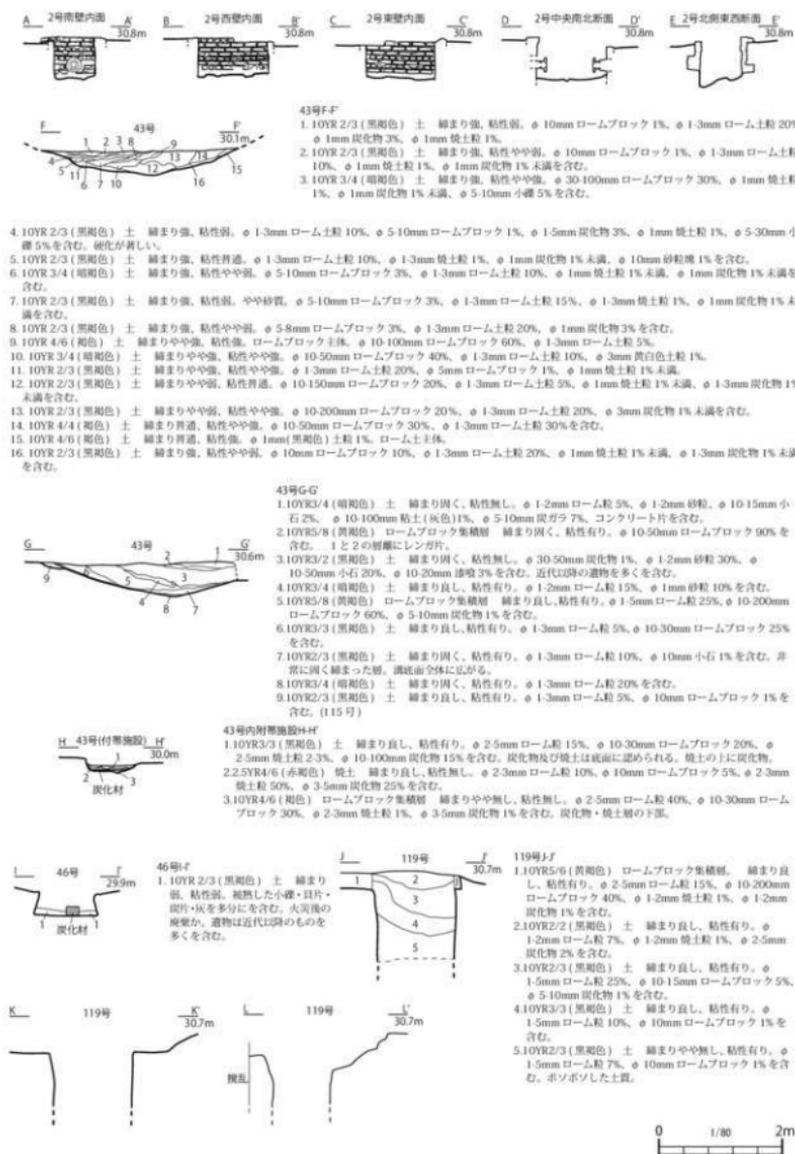
第 22 図 4 区東側 遺構平面図 (1/40)



第 23 図 4 区東側 遺構土層断面図 (1/40)



第 24 図 近代以降 平面図 (1/80)



第25図 近代以降 土層断面図 (1/80)

長軸方向が南北で、南側の道路に直交する方向で検出された南北に並ぶ土坑は、組屋敷の屋敷境の方向とほぼ一致していると考えられる。底面に凹凸が認められるなどの土坑の多くは、植栽痕と考えられる。

ビット 64 基が検出された。4 区 2-E・5-D グリッド付近に比較的集中して検出されたが、特に建物跡になるような並びは確認されなかった。

## 2) 明治時代以降

明治時代以降の遺構は井戸・レンガ塼・アンカー・溝・硬化面の 5 基である。

井戸 1 基が検出された。119 号(第 25・25 図)は上部の径が 207 ~ 283 cm である。その下部には幅 50 ~ 60 cm の平らな面がある。この平らな面は北東側で確認面から -60 cm、その他は -30 cm の深さである。この平らな面の中央部が径 136 × 107 cm の楕円形で掘り込まれていた。下部は確認面から -366 cm まで掘削したが底面は未検出である。壁面に足掛けの痕跡が認められる。

レンガ塼 1 基が検出された。2 号(第 24・25 図)は調査区南側の道路に近い部分から検出された、北側と南側に鉄管が接続するレンガ塼である。レンガ塼は四方をレンガで壁面を作るが、底面にはレンガ・コンクリート等は認められなかった。接続された鉄管は 2 本とも塼内部でボルト止める継ぎ手があり、レンガ塼内でメーターなどの器具が接続されていたものと考えらる。43 号より新しい。

アンカー 1 基が検出された。95 号(第 9 図)は残存する長さ約 80 cm、径約 27 cm の丸太の中央部付近にワイヤーを掛けたものを、長方形の穴に設置したものである。丸太の両端には四方から釘が打ちつけられていた。

溝 1 条が検出された。43 号(第 24・25 図)は 1-7 区及び 4 区東側で検出された。溝は約 11° 西に傾いた状態で、調査区を北から南に延びている。溝の断面形状は、ゆるい傾斜の V 字形を呈する。溝には、斜面上部に 3 基のビット、底面にビット(47 号)・円形の掘り込み(46 号)及び長方形の浅い炭化物が多く出土した掘り込みを伴う。

硬化面 1 ヶ所が検出された。120 号(第 24 図)は標高 30.5 m 付近の立川ロームⅢ層上面の 5-D グリッドの 43 号東側で確認された。43 号の溝に関連する硬化面と考えられる。

第 3 表 遺構観察表(1)

番号	地区	グリッド	種別	時代	形状	長さ	幅	深さ	長軸方向	所見(底面) [断面]	検出番号	図数番号
1	1-1	2-B	土坑	江戸	円	280	(203)	38	N 66° W	(凹凸)	10・11	1-1-3-1
2	1-3	4-B	レンガ塼	近代以降	方	139	106	73	N 3° E	43 号を穿っている	24・25	10-3
3	1-1	1-2-B-C	土坑	江戸	円	(228)	(107)	36	N 11° E	(凹凸)	10・11	1-1-3-3
4	1-1	2-C	ビット	江戸	円	26	26	54	N 89° E		10	1-1
5	1-1	2-C	ビット	江戸	不明	(38)	(23)	29	N 37° W		10	1-1
6	1-2	3-B	ビット	江戸	円	(29)	30	28	N 3° E	16 号より新	12	3-5
7	1-2	2-3-B	土坑	江戸	楕円	76	(25)	18	N 79° W	16 号より新	12・13	3-5
8	1-2	3-B-C	土坑	江戸	不整	(280)	(163)	19	N 1° E	(凹凸)	12・13	3-5-4-1
9	1-1	2-8-C	ビット	江戸	円	27	29	32	N 79° W	3 号内・3 号より古い	10	1-1
10	1-1	2-B	井戸	江戸	円	73	74	(138)	N 6° E	(未検出)	10・11	1-1-3-2
11	1-1	2-B	ビット	江戸	楕円	29	26	56	N 83° W		10	1-1
12	1-2	3-B	ビット	江戸	楕円	47	(14)	14	N 6° E	8 号より新	12	3-5
13	1-3	6-B	ビット	江戸	楕円	28	27	23	N 14° E		8	
14	1-3	6-B	ビット	江戸	楕円	19	15	23	N 11° E		8	
15	1-1	2-B	ビット	江戸	楕円	30	(15)	18	N 10° E		10	1-1
16	1-2	3-B	土坑	江戸	不整	(184)	(96)	27	N 86° E	(凹凸)	12・13	3-5
17	1-2	3-C	土坑	江戸	円	151	(59)	70	N 85° W	29 号と同一か(凹凸)	12・13	3-5
18	1-3	4-B	ビット	江戸	円	37	33	17	N 23° W		12	
19	1-5	2-C-D	土坑	江戸	円	(174)	(115)	26	N 17° W	(凹凸)	10・11	2-2-4
20	1-1	2-B	ビット	江戸	楕円	35	(17)	10	N 64° E		10	2-1
21	1-1	2-B	土坑	江戸	楕円	115	(35)	58	N 88° W	(凹凸)	10・11	2-1
22	1-5	2-C	土坑	江戸	楕円	60	(16)	19	N 17° W	(凹凸)	10・11	2-2
23	1-5	2-C	ビット	江戸	方	21	20	26	N 15° W		10	2-2

第3表 遺構観察表(2)

番付	地区	グリッド	種別	時代	形状	長さ	幅	高さ	長軸方向	所見(断面) [断面]	採掘番号	図取番号	
24	1.5	2.C	ビッド	江戸	櫛目	(41)	24	63	N-11°		10	2.2	
25	1.5	2.C	ビッド	江戸	円	(30)	(27)	59	N-35°	E	10	2.2	
26	1.5	2.C.D	ビッド	江戸	方	(20)	20	8	N-84°	E	10	2.2	
27	1.6	3.D	土坑	江戸	不整	(69)	54	12	N-74°	W	28号より新(西凸)	12-13	4.3
28	1.6	3.D	土坑	江戸	円	(63)	(59)	41	N-1°	W	(平)	12-13	4.3.5
29	1.6	3.C	土坑	江戸	円	101	(43)	82	N-84°	W	17号と同一か(北側断面オーバーハンダ)	12-13	4.3.5
30	1.1	2.B	ビッド	江戸	不整	31	(12)	44	N-82°	W		10	2.1
31	1.6	3.C	ビッド	江戸	櫛目	52	28	94	N-79°	W		12-13	4.3
32	1.6	3.C.D	土坑	江戸	不整	(45)	(27)	13	N-82°	W	(わずかに西凸)	12-13	4.3
33	1.6	3.C.D	土坑	江戸	不整	(74)	(40)	15	N-55°	W	32号より新(わずかに西凸)	12-13	4.3
34	1.6	3.C	土坑	江戸	櫛目	(87)	(58)	31	N-85°	E	33号より新(西凸)	12-13	4.3
35	1.6	3.C	土坑	江戸	方	156	108	59	N-89°	W	(平)	12-14	4.3.5.2
36	1.6	3.C	土坑	江戸	長櫛目	221	(63)	15	N-34°	E	35号より新(西凸)	12-14	4.3
37	1.2	3.B	ビッド	江戸	円	17	16	30	N-5°	E		12	3.5
38a	1.6	3.4.C	土坑	江戸	方	(195)	145	40	N-0°	E	38号より新(平 南側に方形のビッド)	12-14	4.3.5.3
38b	1.6	3.C.D	土坑	江戸	円	(147)	(83)	49	N-2°	W	(わずかに西凸)	12-14	4.3.5.3
39	1.6	3.C	ビッド	江戸	櫛目	43	20	44	N-86°	E		12	4.3
40	1.6	3.C	土坑	江戸	円	90	(48)	27	N-72°	W	(西凸)	12-14	4.3.5.4
41	1.7	4.C	ビッド	江戸	円	22	(14)	11	N-90°	E		24	
42	1.6	3.C	ビッド	江戸	円	30	33	60	N-40°	W	36号より新	12-14	4.3
43	1.7-4	4.C.D.E	溝	近代以降	溝	(1600)	479	118	N-11°	W	(緩やかなV字)	24・25	7.5.10.4.6
43.1	4	4.D		近代以降	円	45	41	17	N-17°	W	付帯ビッド	24	7.5.10.6
43.2	4	4.5.E		近代以降	円	40	37	33	N-74°	W	付帯ビッド	24	7.5.10.6
43.3	4	5.D		近代以降	円	42	40	40	N-17°	W	付帯ビッド	24	7.5.10.6
43.4	4	4.D		近代以降	方	168	89	23	N-7°	W	付帯施設	24	7.5.10.6
46	1.7-4	4.D	土坑	近代以降	円	97	97	46	N-1°	W	43号に伴う(平)	24・25	7.5.10.4-6
47	1.7	4.C	ビッド	近代以降	櫛目	38	32	11	N-58°	W	43号に伴う	24	10.4
48	3.2	3.F.G	土坑	江戸	方	(148)	102	111	N-1°	W	(平)	15-16	5.5-6.1
49	3.2	3.G	土坑	江戸	方	(50)	77	31	N-1°	W	48号より新(平)	15-16	5.5-6.1
50	3.6	3.F	土坑	江戸	方	(182)	94	67	N-3°	E	(西凸)	15-16	5.5-6.2
51	3.10	3.F	土坑	江戸	方	(134)	99	114	N-2°	W	52・57・56号より新(平)	15-16	5.5-6.3.5
52	3.10	3.F	土坑	江戸	円	(28)	(25)	79	N-72°	W		15-16	5.5-6.5
53	3.10	3.F	土坑	江戸	円	(39)	(14)	11	N-86°	W	54号より新(わずかに西凸)	15-16	5.5-6.5
54	3.10	3.F	土坑	江戸	円	(48)	(10)	11	N-58°	E	55号より新(西凸)	15-16	5.5-6.5
55	3.10	3.F	土坑	江戸	円	(111)	(113)	117	N-10°	E	(平)	15-16	5.5-6.4.5
56	3.10	3.F	土坑	江戸	円	(50)	(20)	33	N-89°	E	58号より新	15-16	5.5-6.3.5
57	3.10	2.3.F	土坑	江戸	不整	(89)	(100)	12	N-18°	E		15-16	5.5-6.5
58	3.10	3.F	土坑	江戸	櫛目	(84)	(114)	19	N-3°	W	(西凸)	15-16	5.5-6.5
60	4	2.E	ビッド	江戸	櫛目	37	26	19	N-27°	E		17	7.3-5
61	4	2.E	ビッド	江戸	円	37	30	27	N-32°	E	64号より新	17	7.3-5
62	4	2.E	ビッド	江戸	櫛目	35	26	19	N-49°	W		17	7.3-5
63	4	2.E	ビッド	江戸	櫛目	25	22	48	N-26°	E		17-18	7.3-5
64	4	2.E	ビッド	江戸	櫛目	(40)	28	38	N-49°	E		17-18	7.3-5
65	4	2.E	ビッド	江戸	櫛目	22	15	42	N-60°	E	68号より新	17-18	7.3-5
66	4	2.E	ビッド	江戸	櫛目	28	19	13	N-27°	W		17	7.3-5
67	4	2.E	ビッド	江戸	櫛目	(34)	(21)	36	N-37°	W		17-18	7.3-5
68	4	2.E	土坑	江戸	円	(59)	(50)	32	N-81°	W	石を伴う 63・64・67・71・76号より新(平楕)	17-18	7.3-5
69	4	2.E	ビッド	江戸	円	23	22	55	N-14°	W		17	7.3-5.8.1
70	4	2.E	ビッド	江戸	円	19	16	11	N-47°	E		17	7.3-5.8.1
71	4	2.E	ビッド	江戸	櫛目	(36)	(23)	31	N-81°	E		17-18	7.3-5
72	4	2.E	土坑	江戸	櫛目	146	(107)	42	N-2°	W	73号より新(西凸)	17-18	7.5.8.1.3
73	4	2.E	ビッド	江戸	円	33	(14)	8	N-41°	E		17-18	7.5.8.1
74	4	2.E	ビッド	江戸	櫛目	35	30	31	N-57°	E		17	7.5.8.1.3
75	4	2.3.E	ビッド	江戸	櫛目	(47)	28	24	N-75°	W		17	7.5.8.1.3
76	4	2.E	土坑	江戸	不整	(27)	60	25	N-89°	E	71号より新(西凸)	17-18	7.3-5
77	4	2.E	ビッド	江戸	櫛目	42	19	31	N-38°	W		17	7.5.8.3
78	4	2.E	ビッド	江戸	櫛目	40	22	16	N-1°	E	72号より新	17-18	7.5.8.3
79	4	2.3.E	土坑	江戸	長方	176	107	41	N-2°	E		17-18	7.5.8.4
80	4	3.E	土坑	江戸	長方	113	73	43	N-1°	E	(西凸)	19-20	7.5.8.8.9.1
81	4	3.D.E	土坑	江戸	長方	(130)	79	76	N-3°	W	94・134号より新(平一帯わずかに西凸方形ビッド)	19-20	7.5.9.4.5
82	4	3.D	土坑	江戸	長方	(92)	52	124	N-2°	E		19-20	7.5.9.2.5
83	4	3.E	土坑	江戸	櫛目	(92)	45	11	N-2°	E	80号に切られている可能性あり(西凸)	19-20	7.5.8.8
84	4	3.E	土坑	江戸	櫛目	(54)	(31)	14	N-5°	W	(西凸)	19-21	7.5.8.8
85	4	3.E	土坑	江戸	不整						84・137・138・143号より新	19-21	7.5.8.8
86	4	3.4.E	土坑	江戸	不整						(西凸)	19-21	7.5.8.8
87	4	3.E	土坑	江戸	円	55	(23)	11	N-12°	E	(西凸)	19	7.5.8.8
88	4	3.D.E	溝状	江戸	溝	(227)	49	32	N-2°	E	(西凸)	19-20	7.5.9.4.5
89	4	3.E	土坑	江戸	長方	70	(25)	31	N-5°	W	(西凸)	19-20	7.5.9.8
90	4	3.D.E	土坑	江戸	櫛目	183	(102)	60	N-4°	E	89・116号より新(西凸ビッド2)	19-20	7.5.9.7.8
91	4	3.D.E	土坑	江戸	方	120	(96)	14	N-83°	E	116号より新(西凸)	19-20	7.5.9.6
92	4	3.4.E	土坑	江戸	方	151	120	82	N-68°	W	86・93・144号より新(平)	19-21	7.5.9.7
93	4	3.E	土坑	江戸	方	(114)	103	78	N-8°	E	90・116号より新(平)	19-20	7.5.9.6.7
94	4	3.E	土坑	江戸	長方	(81)	86	52	N-2°	E	(西凸)	19-20	7.5.9.4

第3表 遺構観察表(3)

番付	地区	グリッド	種別	時代	形状	長さ	幅	高さ	長軸方向	所見(断面) [断面]	接隣番付	図説番付
95	4	2-D	アンダー	近代以降	長方	120	54	54	N71° W		17	7.5.2.10-7
96	4	2-E	土坑	江戸	長方	82	43	14	N5° E (西凸)		17・18	7.5.8.2.5
97	4	2-E	土坑	江戸	楕円	88	34	13	N84° W (西凸)		17・18	7.5.8.1.2.6
98	4	1-E	ビッド	江戸	円	17	(16)	11	N81° W		17	7.5.8.1.2
99	4	2-D	ビッド	江戸	楕円	49	36	19	N16° E		17	7.5.8.2
100	4	2-E	ビッド	江戸	方	42	39	24	N45° E		17	7.5.8.2
101	4	2-E	ビッド	江戸	楕円	39	33	25	N28° E		17	7.5.8.2
103	4	2-E	ビッド	江戸	円	23	(21)	72	N88° W		17	7.5.8.2
104	4	2-E	ビッド	江戸	円	30	29	26	N24° E		17	7.5.8.2
105	4	2-E	ビッド	江戸	円	19	17	8	N46° E		17	7.5.8.1.2
106	4	2-E	ビッド	江戸	楕円	21	18	10	N49° E	107号より新	17	7.5.8.1.2.6
107	4	2-E	ビッド	江戸	円	21	(16)	8	N2° W		17	7.5.8.1.2
108	4	2-E	ビッド	江戸	円	15	(14)	4	N59° E		17	7.5.8.1.2
109	4	2-E	ビッド	江戸	円	26	21	18	N27° E	108号より新	17	7.5.8.1.2
110	4	2-E	ビッド	江戸	円	24	24	8	N8° E		17	7.5.8.1.2
111	4	2.3-E	井戸	江戸	円	71	65	(202)	N74° W (未検出)		17・18	7.5.9.3
112	4	2-D.E	土坑	江戸	楕円	150	125	14	N36° E (西凸)		17・18	7.5.8.7
114	4	3-E	土坑	江戸	不整	(73)	(48)	6	N45° E	87号より新(西凸)	19・20	7.5.8.8
115	4	4-E	土坑	江戸	楕円	91	(70)	24	N12° W (西凸)		19・21	7.5.10.1
116	4	3-D.E	土坑	江戸	楕円か	(103)	(47)	55	N2° E (西凸ビッド)		19・20	7.5.9.7.8
117	4	4-E	土坑	江戸	楕円か	(129)	(89)	34	N62° E (西凸)		19・21	7.5.10.1
118	4	3-D	ビッド	江戸	長方	(39)	25	25	N89° E		19	7.5
119	4	3.4-D	井戸	近代以降	円	283	(207)	(360)	N87° E (未検出)		24・25	7.5.10.8
120	4	5-D.E	硬化面	近代以降	不整	(300)	(200)	-		43号に関連する硬化範囲と考えられる	24	
121	4	5-D	土坑	江戸	長方か	(90)	(30)	23	N82° E	122・124号より新(西凸)	22・23	7.5.10.2
122	4	5-D	土坑	江戸	長方	(130)	(79)	33	N79° E (わずかに西凸)		22・23	7.5.10.2
123	4	5-D	土坑	江戸	不整	(87)	(68)	16	N89° W	129号より新(テラスを持ち一部深くなる)	22・23	7.5.10.2
124	4	5-D	ビッド	江戸	円	39	35	39	N5° W		22・23	7.5.10.2
125	4	5-D	ビッド	江戸	楕円	(24)	(15)	46	N68° W	126・135号より新	22・23	
126	4	5-D	土坑	江戸	方か	91	(40)	30	N59° E (わずかに西凸)		22・23	7.5.10.2
127	4	5-D	土坑	江戸	円か	58	(45)	10	N84° E (西凸)		22・23	7.5.10.2
128	4	5-D	ビッド	江戸	楕円か	27	(17)	17	N36° W		22	7.5.10.2
129	4	5-D	敷地跡 (埋没)	江戸	-	(145)	(63)	24	N85° E (平段を有する)		22・23	7.5.10.2
131	4	5-D	ビッド	江戸	円	22	20	42	N19° W		22	7.5.10.2
132	4	5-D	ビッド	江戸	楕円	37	22	37	N8° W		22	7.5.10.2
133	4	5-D	ビッド	江戸	楕円	42	33	26	N76° E		22	7.5
134	4	3-E	土坑	江戸	不整	42	(12)	7	N7° E	88号より新	19・20	7.5.9.5
135	4	5-D	土坑	江戸	円	113	100	49	N4° E	127号より新 128号より新か(西凸)	22・23	7.5.10.2
136	4	3-D	ビッド	江戸	円	26	28	33	N3° E	139号より新	19・20	7.5.9.6
137	4	3-E	土坑	江戸	楕円か	(72)	62	45	N17° W	143号より新(西凸)	19・21	7.5.8.8
138	4	3-E	土坑	江戸	円か	(47)	(34)	38	N60° E		19・21	7.5.8.8
139	4	3-D	ビッド	江戸	円	(22)	(24)	23	N3° E	140号より新	19・20	7.5.9.6
140	4	3-D	ビッド	江戸	方か	47	(30)	31	N86° E		19・20	7.5.9.6
142	4	3-E	土坑	江戸	楕円か	(47)	44	35	N20° R (西凸)		19・21	7.5.8.8
143	4	3-E	土坑	江戸	不整	69	(54)	17	N18° E	144号より新(平)	19・21	7.5.8.8
144	4	3-E	土坑	江戸	円	34	29	5	N73° W (平)		19・21	7.5.8.8
145	4	3-E	土坑	江戸	不整	72	(76)	12	N72° E (わずかに西凸)		19・21	7.5.8.8
146	4	5-D	ビッド	江戸	楕円	(48)	15	16	N90° E		22	7.5
147	4	5-E	ビッド	江戸	楕円	19	17	23	N29° E		22	7.5
148	4	5-E	土坑	江戸	円	48	42	43	N75° W (西凸)		22・23	7.5
149	4	5-E	ビッド	江戸	楕円	36	(28)	56	N8° E		22	7.5
150	4	5-E	ビッド	江戸	円	19	18	19	N8° W		22	7.5
151	4	5-D	ビッド	江戸	楕円	27	(19)	38	N3° E		22	7.5.10.2

## 2 出土遺物

本報告2章「歴史的環境」で述べているように、本調査地点の近世以降の主な歴史の変遷は以下のとおりである。慶長7年(1602)鉄砲百人組同心組屋敷として拝領、以後幕藩期は変動なし。文久2年(1862)百人組廃止。明治2年(1869)「土族」と位置づけ、屋敷地を与えられる。明治7年(1874)陸軍用地となる。近世初頭以来、武家地として機能しており、幕藩期は大きな変化は見られないようである。また、地租改正が明治6年(1873)に施行されるので、軍用地に接収された段階では、屋敷割りを含め武家地としての機能は終えていたと考えられる。

出土遺物は、古代から中世、近世舶載磁器(中国磁器)、近世国産陶磁器・土器、近代舶載磁器(西洋陶磁器)、近代国産磁器・土器、土製品、瓦、石製品、金属製品、ガラス製品に大別した。その他、プラスチック製品(歯ブラシ、櫛など)がある。各遺物の数量は、破片を1点とし、重量を計測した。

## 1) 陶磁器・土器(第26～35図 第4～6表)

陶磁器・土器の破片分類は、種別として磁器、陶器(所謂、焼き締め陶器である炆器は陶器に含める)、土器を基本とする。それぞれについて、器種の細別は可能な範囲で行い、また生産地の特定可能な破片についてはこれも分類要素に加え集計した。さらに、器種は、区分として大別(碗類、皿類、鉢類、壺類、甕類、水注類、鍋・釜類、瓶類、灯明具、蓋類、その他とした)を設け、遺構別、地区別の種別数量・重量は大別で集約した。近世陶磁器・土器地点別種類別数量表(第5表)参照。種別細別で、特徴的な事例については、本文中に記す。陶磁器・土器の種別大別・細別の各項目は、以下のとおりである。

碗類：磁器(丸碗・くらわんか碗・半球碗・筒碗・広東碗・端反碗など、うかい茶碗、坏、酒杯、紅猪口など)、陶器(丸碗・天目碗・尾呂碗・平碗・刷毛目碗・掛分碗・腰鏝碗・鍔手碗・拳骨茶碗・半球碗・小杉碗・柳茶碗・筒碗・広東碗など)

皿類：磁器(皿、角皿、変形皿、紅皿など)、陶器(皿(灰軸・摺絵・輪壳・銅緑釉・変形皿・角皿・馬目皿・石皿など)、土器(皿)

鉢類：磁器(鉢、そば猪口、猪口、蓋物、段重、合子、仏飯具、香が、植木鉢など)、陶器(鉢(三鳥手・刷毛目・笠原含む)、片口鉢、控鉢、糠鉢、水鉢、手水鉢、植木鉢、火鉢、仏飯具、香が、段重、蓋物、合子、火入れ、灰落し、佃猪口、筒型容器、鬚水入れ、搦鉢(瀬戸美濃・丹波・信楽・堺・備前・その他)など)、土器(火鉢、糞が、七厘、風呂、火入れ、植木鉢、鉢形容器、焼塩壺など)

壺類：磁器(壺、唾壺など)、陶器(壺、茶入、唾壺など)、土器(火消壺)

甕類：陶器(甕、球甕、半甕、銭甕、孫太など)

水注類：磁器(鏡子、急須など)、陶器(水注、土瓶、急須、渡瓶など)

鍋・釜類：陶器(土鍋)、土器(土鍋、焙烙、羽釜)

瓶類：磁器(瓶、花瓶、油壺、神酒徳利、燗徳利)、陶器(瓶、徳利、花瓶、油徳利、油壺、燗徳利など)

灯明具：磁器(燭台など)、陶器(灯明皿、乗燭)、土器(灯明皿、乗燭)

蓋類：磁器(碗、鉢、蓋物、段重、急須、壺など)、陶器(碗、鉢、蓋物、段重、壺、水注、土瓶、急須、乗燭など)、土器(火消壺、焼塩壺)

その他：磁器(水滴、戸車、蓮華、筆軸、煙管雁首・吸口など)、陶器(水滴など)、土器(十能など)

近代陶磁器・土器には、上記以外の器種で、洋食器、母子(電信・電気)、衛生陶器(便器・手洗いなどの水回りなど)など、近代になって出現した製品がみられる。

## a 古代から中世(時期不詳陶器・土器含む)

土師器甕 1-2区一括出土。胴部片。胎土は暗灰色から淡灰褐色、砂粒を含まず良好。微細(1

mm以下)な白色粒子を疎に含む。内外表面淡灰褐色。成形は、輪積みもしくは粘土紐巻上げ。外面は、縦方向の削り。内面ナデ調整で、やや平滑。古代の土師器甕と考える。

陶器甕 38号出土。胴部片。焼き締め。胎土は暗淡灰褐色、微細(1mm以下)な白色鉱物粒子を密に含む。内面暗淡灰褐色。成形は、輪積みもしくは粘土紐巻上げ。内外面横方向のナデ調整。近世常滑産などの製品とは考え難く、中世陶器と考えたい。

土器壺か 38号出土。底部から胴部片。底部円盤状(台状)。底部と胴部の境は、暗黒灰色で区分される。内外表面淡暗灰褐色。胎土は褐色、緻密で砂粒を含まない。外面胴部上半剥落。内面は、深いロクロ成形痕。外面はロクロ調整痕(ナデ)を残すが、おおむね平滑面である。近世の土器にはみられない形状と考える。

b 近世舶載陶磁器 中国産染付磁器環(第35図147)。1点のみ出土。4区一括。口縁折縁の如く外反。口径に対し、器高のやや高い形態。外面草花文。下限17世紀第1四半期。

c 近世国産陶磁器・土器 近世陶磁器・土器:総点数2,834点/総重量46,130.7g

磁器:総点数593点/総重量6,664.5g 陶器:総点数1160点/総重量24,868.7g 土器:総点数1081点/総重量14,597.5g

碗類:磁器321点・3074.5g/陶器297点・2014.5g 皿類:磁器104点・1081.0g/陶器46点・478.0g/土器310点・1059.0g

鉢類:磁器32点・857.0g/陶器269点・10238.0g/土器272点・7057.0g 壺類:磁器2点・18.0g/陶器10点・165.0g

甕類:陶器112点・4982.7g 水注類:磁器11点・40.5g/陶器111点・1012.0g

鍋・釜類:陶器7点・24.5g/土器330点・2896.5g 瓶類:磁器43点・527.0g/陶器235点・4687.0g

灯明具:磁器2点・23.0g/陶器11点・476.5g/土器7点・188.0g

蓋類:磁器28点・449.5g/陶器12点・310.0g/土器36点・1756.0g

その他:磁器31点・229.0g/陶器69点・844.5g/土器126点・1641.0g

遺構出土の陶磁器・土器は、総体として小破片が多く、数量は最大でも92号の326点である。種別数量比率(点数・重量比率)は、分母、分子ともに数値が小さく、傾向を示す基準とするには偏りがあると考え、報告での提示は割愛した。点数が100点以上の遺構については数量値を記載し、主要な遺構については出土陶磁器・土器の様相を記述した。また、陶磁器・土器の編年の年代観より、遺構の下限年代を示した。カッコ内(%)表記は、総数量に対する割合である。

1号(1-1区) 肥前産磁器は、染付碗、染付皿、青磁瓶などである。瀬戸・美濃産磁器は染付碗、同陶器は灰釉植木鉢、鉄軸搥鉢、灰釉徳利、鉄軸球胴甕、灰釉壺蓋などである。その他、京・信楽産陶器丸碗、志戸呂産陶器徳利などの破片がみられる。遺構の下限年代は、19世紀中葉と考える。

3号(1-1区:第26図1) 肥前産磁器染付碗蓋(広東碗)1点のみ出土(第26図1)。遺構の下限年代は、18世紀後半から末である。

8号(1-2区:第26図3) 磁器は、肥前産磁器が瓶、蓋物蓋など、瀬戸・美濃産磁器が端反碗・環などがある。陶器は、瀬戸・美濃産陶器が鉄軸鉢(第27図3)、水鉢、緑釉瓶掛、鉄軸半胴甕、灰釉徳利などがみられる。その他、京・信楽産陶器丸碗、産地未定陶器土瓶、備前産陶器茶托がある。土器は、灯明皿、焙烙の小片などである。遺構の下限年代は、19世紀前半から中葉と考える。

10号(1-1区:第26図2) 産地不詳陶器壺(もしくは瓶:同2)1点のみ出土。信楽産か。陶磁器の年代は、不詳である。

19号(1-5区) 瀬戸・美濃産陶器鉄軸搥鉢、丹波産陶器搥鉢、土器焙烙がみられる。遺構の下

限年代は、出土陶磁器から 18 世紀代であるが、詳細は不詳。

34 号(1-6 区) 磁器は、肥前産のみである。肥前産磁器は染付碗・染付皿・染付そば猪口、瀬戸・美濃陶器灰軸鉢(捏鉢)・水鉢・蟹水入れ・鉄軸球胴甕など、志戸呂産徳利、土器皿・焙烙・十能などがある。遺構の下限年代は、捏鉢、半胴甕などにより 19 世紀前半から中葉と考える。

35 号(1-6 区:第 26 図 4～6) 肥前産磁器は、染付碗・染付皿・染付坏(同 4)・染付蓋物蓋(同 5)、同陶器鉢がみられる。瀬戸・美濃産磁器は染付碗、同陶器は腰錆碗、刷毛目碗、灰軸丸碗、灰軸丸皿、灰軸筒形香炉、灰軸鉢(捏鉢)、緑軸火鉢、鉄軸半胴甕、灰軸徳利がある。その他、京・信楽産陶器色絵丸碗、志戸呂産陶器徳利、丹波産陶器搦鉢がある。土器は皿・焙烙・火鉢・鉢形容器などがみられる。遺構の下限年代は、19 世紀前半から中葉と考える。

38 号(1-6 区:第 26・27 図 7～20) 遺構総点数 246 点(8.67%)／遺構総重量 4983.5g(10.77%)

磁器:点数 34 点/重量 448.5g 陶器:点数 117 点/重量 3852.5g 土器:点数 97 点/重量 807.0g

磁器は、肥前産のみで、瀬戸・美濃産磁器は認められない。染付丸碗(第 26 図 7)、染付蓋物(同 8)、その他、染付くらわんか碗、染付コンニャク印判丸碗、染付筒碗、染付皿、染付仏飯具、白磁香炉、染付瓶、染付碗蓋(広東碗)、染付蓋物蓋がみられる。同陶器は、呉器手碗底部片(同 17:高台と体部の境に研った痕跡があり、底部だけ残す状態、胎土は精良、透明釉、高台内施釉)がみられる。

瀬戸・美濃産陶器は、天目碗(同 12:体部と口縁部の屈曲が明瞭で立ち上がりの幅が大きい、17 世紀後半から 18 世紀前後)、笠原鉢(同 14:灰釉・藁灰釉、胎土砂粒含まず良好、焼成硬質)、灰軸丸皿(同 13)、灰軸捏鉢(同 15・16:火熱による変質、2 個体)、その他、腰錆碗、鉄軸拳骨茶碗、灰軸筒形香炉、灰軸緑釉流し水注、鉄軸土鍋、仏花瓶(胴部下半鉄軸)、灰軸徳利、鉄軸搦鉢、鉄軸灯明皿などがある。京・信楽産陶器は、おおむね丸碗(同 10:色絵笹文)の破片のみが確認された。また、萩産陶器碗(同 11:小形碗、高台と体部境界に段状の削り)、および堺産陶器搦鉢(同 20:外表面暗褐色、胎土暗灰色・白色鉱物粒顕著、高台内側凹線・擬高台、底部責子状の条線)、志戸呂産陶器徳利、備前産陶器瓶、常滑産陶器甕、産地未定陶器土瓶(灰釉、鉄軸)がみられる。

土器は、皿、焙烙(底部丸底、底部と体部の境界明瞭、体部から口縁はおおむね直線的)、焼塩壺(ロクロ成形)、その他鉢類(植木鉢など)である。陶磁器・土器の編年の年代観からみて、瀬戸・美濃産捏鉢に示されるように、遺構の下限年代は 19 世紀前半代から中葉と考える。

48 号(3-2 区:第 27 図 21～29) 遺構総点数 205 点(7.23%)／遺構総重量 1581.0g(3.42%)

磁器:点数 74 点/重量 329.5g 陶器:点数 73 点/重量 412.5g 土器:点数 58 点/重量 839.0g

磁器は、小片が多く、瀬戸・美濃産磁器、および近代製品もみられる。肥前産磁器は、染付くらわんか碗、染付丸碗、染付筒碗、染付皿、染付鉢、染付蓋物、染付香炉(第 27 図 24)、白磁合子(第 27 図 25:内面ロクロ目顕著、底部墨書)、染付瓶・油壺、青磁鼻煙壺(第 27 図 26)などがみられる。瀬戸・美濃産磁器は、染付端反碗がほとんどである。また、白磁皿(第 27 図 22)は、腰部は丸味を持たず屈曲し体部へ連続し、口縁は大きく外反する。見込み印刻文様(雲・丸文《外周雷文・篆書体文字文》)がある。その他、爛徳利(第 27 図 23:底部墨書「モイ」)、急須把手などがある。近代磁器は、銅板転写碗の破片が 1 点ある。

陶器についても小片が多い。瀬戸・美濃産陶器は、笠原鉢、腰錆碗、灰軸丸碗、灰軸鉢(捏鉢等)、灰軸水鉢、灰軸水注、仏花瓶、灰軸徳利、鉄軸半胴甕、鉄軸土鍋、灰軸灯明皿などである。京・信楽

産陶器は、小杉碗の小片。その他、信楽産陶器壺、堺産陶器搦鉢、産地未定陶器土瓶（灰釉、白化粧土・透明釉・鉄絵、鉄軸など）などがある。

土器は、皿、鉢（火鉢等）、植木鉢、土鍋（行平：施釉）、焙烙（立ち上がりは丸味を持ち低い）、焼塩壺（第27図28：ロクロ成形）、焼塩壺蓋（第27図27：円板状）、灯明皿、さな（第27図29）である。陶磁器・土器の編年の年代観から、遺構の年代は主体が下限19世紀中頃と考えるが、銅板転写磁器碗を加味すると19世紀後半代まで下る可能性はある。

49号（3-2区：第27・28図31～35） 肥前産磁器染付皿（同31：ロクロ型打ち、輪花、口鏝、見込み山水文）、瀬戸・美濃産磁器染付端反碗（同30）、同陶器鉄軸半胴甕（同34）・緑釉瓶掛け（同35）、灰釉徳利、志戸呂産徳利、産地未定陶器土瓶、同土瓶蓋（同33：つまみ亀）、などがみられる。遺構の下限年代は、19世紀前半から中葉と考える。

50号（3-2区：第28図36） 磁器は、肥前産のみである。肥前産磁器は染付くらわんか碗・染付筒碗、瀬戸・美濃産陶器は鉢（捏鉢か）、産地未定陶器土瓶（緑釉）、土器焙烙（同36：丸底、底部と立ち上がりの区分は明瞭、立ち上がりは直線的やや低め）などがある。遺構の下限年代は、19世紀前半から中葉と考える。

51号（3-10区：第28図37～40） 遺構総点数105点（3.70%）／遺構総重量1180.5g（2.55%）

磁器：点数36点／重量272.0g 陶器：点数50点／重量596.5g 土器：点数19点／重量312.0g

磁器は、瀬戸・美濃産磁器、および近代製品もみられる。肥前産磁器は、染付丸碗、染付端反碗、染付皿（ロクロ型打ち成形・口縁輪花・口鏝・見込み山水文皿他）、染付鉢、染付蓋物、染付瓶などがある。瀬戸・美濃産磁器は、染付端反碗、染付端反碗蓋（第28図37）、染付水滴などである。近代磁器は、瀬戸・美濃産色絵碗の破片が2点、他に西洋皿（軟質磁器）の小片が1点ある。

陶器は、碗、皿、鉢は小片で、極めて少量である。瀬戸・美濃産陶器は、灰釉鉢（鉢、水鉢）灰釉徳利、鉄軸べこかん徳利、鉄軸搦鉢、鉄軸土鍋、鉄軸半胴甕、灰釉灯明皿（第28図38：口縁ススが烈点状に全周する）、灰釉脚付き灯明受皿（第28図39）などである。その他、京・信楽産陶器丸碗片、産地未定陶器土瓶（白化粧土・透明釉・鉄絵、鉄軸など）がみられる。

土器は、焜炉と思われる形状のもの（第28図40）が1点認められる。胴部の上部和下部を区分する位置内面に円環状の突起がある。頸部外面には、やや彫りの深い平行条線が十二条巡る。その他、焼塩壺蓋（円板状）、焙烙、鉢形土器、植木鉢、脚付き灯明受皿などがみられる。

陶磁器・土器の編年の年代観から、遺構の年代は、下限19世紀前半から中頃を主体と考えるが、近代色絵磁器碗を加味すると19世紀後半代まで下る可能性はある。

54号（3-10区：第28図41） 瀬戸・美濃産陶器灰釉鉢（同41：捏鉢、内面無釉）1点のみの出土である。遺構の下限年代は、19世紀中頃と考える。

55号（3-10区：第28図42～44） 磁器は、肥前産のみである。肥前産磁器白磁坏（同42）・染付くらわんか碗・染付丸碗、京・信楽産陶器腰折碗（同43：鉄絵・白化粧土）・灰釉平碗、瀬戸・美濃産鉄軸搦鉢、土器皿・鉢などがみられる。陶磁器の編年の年代観では、18世紀前半から中葉が主体であるが、遺構の下限年代は上記以降と考える。

72号（4区：第29図46・47） 図化した2点のみの出土である。肥前産陶器鉄軸丸碗（同46）は外面から口縁内面にかけ鉄軸が施され、内面は灰釉である。胎土は褐色。外面は、完全な

鉄軸の質感ではなく、淡黄色の斑地である。17世紀代の製品か。瀬戸・美濃産陶器志野鉄絵丸皿（同47）は、内面に同心円の圈線、見込みに文様が描かれる。17世紀前半代。

79号（4区：第29図48～54） 遺構総点数177点（6.24%）/遺構総重量4698.0g（10.16%）

磁器：点数30点/重量184.5g 陶器：点数64点/重量2704.5g 土器：点数83点/重量1809.0g

磁器・陶器ともに、碗・皿・鉢など小片が多い。肥前産磁器は、染付碗片、白磁坏、染付皿、染付瓶などがみられる。瀬戸・美濃産磁器は、染付広東碗、染付端反碗、染付鉢、染付燭徳利である。近代磁器は含まれない。

陶器は、肥前産陶器では刷毛目碗がみられる。瀬戸・美濃産陶器は、灰釉笠原鉢、掛分碗、灰釉鉢（控鉢）、灰釉瓶（第29図50）、灰釉徳利、鉄軸べこかん徳利、鉄軸灰釉流し球胴甕（第29図51）、灰釉灯明皿（第29図49）である。その他、京・信楽産陶器色絵丸碗、萩産陶器灰釉小碗、産地未定陶器土瓶（第29図48）および土瓶蓋がある。

土器は、皿（少量であるが口径20cm程度の大形皿の破片を含む）、焙烙（第29図52：丸底、立ち上りはやや内湾し、極めて低い）、火消壺（第29図53）、火消壺蓋（第29図54：完形）である。陶磁器・土器の編年の年代観から、遺構の下限年代は、19世紀前半から中頃と考える。

82号（4区：第30図56・57） 磁器は、瀬戸・美濃産磁器染付端反碗片1点含む。肥前産磁器も小片で、染付丸碗、染付端反碗、青磁瓶などがある。肥前産陶器は、陶胎染付碗、緑釉碗の小片がある。瀬戸・美濃産陶器は、灰釉徳利である。その他、産地未定陶器土瓶（同57）・土瓶蓋（同56）では完形に近い個体が出土している。遺構の下限年代は、19世紀前半から中葉と考える。

84号（4区） 遺構総点数101点（3.56%）/遺構総重量349.0g（0.76%）

磁器：点数0点/重量0g 陶器：点数7点/重量80.5g 土器：点数94点/重量288.5g

出土陶磁器・土器の大半を土器焙烙が占める。おおむね1個体分の破片である。その他、肥前産陶器陶胎染付碗、瀬戸・美濃産陶器鉄軸控鉢、胎釉徳利、鉄軸土鍋、常滑産陶器甕などの破片が含まれる。遺構の下限年代は、19世紀前半から中葉と考える。

85号（4区：第30図58～60） 瀬戸・美濃産磁器は含まれない。肥前産磁器は、染付端反碗（同58）、染付碗片、染付仏飯具などがみられる。瀬戸・美濃産陶器は、灰釉片口、灰釉徳利、筒形容器などである。その他、丹波産陶器搦鉢が2点出土。口縁部がやや内湾するタイプである（同59：17世紀後半から18世紀前半）。土器は、皿に良好な個体が2点ある。1点は口縁部スス付着（同60）。その他、焙烙、鉢形容器である。遺構の下限年代は、19世紀中葉と考える。

88号（4区：第30図62） 磁器は、肥前産染付蓋物（同62）1個体のみである。その他、瀬戸・美濃産陶器鉄釉瓶、京・信楽産陶器丸碗、土器皿、焙烙、鉢（火鉢等）である。年代は、未定。

89号（4区：第30図63・64） 磁器2点のみの出土である。肥前産磁器色絵酒坏（同63）、染付皿（同64：17世紀中葉か）である。遺構の下限年代は、未定。

90-93号（4区：第65・66） 瀬戸・美濃産磁器は含まない。全体的に小片がほとんどである。肥前産磁器は、染付丸碗（コンニャク印判含む）、染付皿などのほかに、白磁灯芯支え（同65：顔部分無釉、17世紀前半代）がある。肥前産陶器は、京焼風陶器碗、同皿、三鳥手鉢がみられる。瀬戸・美濃産陶器は、灰釉丸碗、灰釉火入れ、灰釉植木鉢、鉄軸搦鉢（18世紀後半代）、灰釉徳利などである。その他、京・信楽産陶器色絵丸碗、志戸呂産陶器徳利の破片がある。土器は、皿、焙烙、角火鉢、

植木鉢（同 66：瓦質）である。陶磁器・土器の編年の年代観からみて、遺構の下限年代は 18 世紀末と考えられる。

90・116 号（4 区：第 30 図 67） 図化した肥前産磁器染付油壺（同 67）の個体 1 点のみの出土である。90・93 号同様に、遺構の下限年代は、18 世紀末と考えられる。

92 号（4 区：第 30・31 図 68～85） 遺構総点数 326 点（11.50%）／遺構総重量 5889.5g（12.73%）

磁器：点数 39 点／重量 896.0g 陶器：点数 105 点／重量 2842.5g 土器：点数 182 点／重量 2151.0g

磁器は、ほぼ肥前産であるが、但し瀬戸・美濃産端反小碗の破片が 1 点ある。個体が良好な破片は、染付くらわんか碗（第 30 図 68：外面草花文、見込みコンニャク印判五弁花文、底部銘渦福 第 30 図 69：外面草花文・底部銘）、染付皿（第 30 図 71：内面波文、高台やや太め）、白磁猪口（第 30 図 70：そば猪口形）、染付仏飯具（第 30 図 72：外面草花文）などがある。その他破片では、染付丸碗、染付皿（内面花唐草文、見込み五弁花文）、染付鉢（内面丸文）などである。

陶器では、肥前産陶器が京焼陶器皿（第 30 図 75：見込み山水文）、三鳥手鉢（第 31 図 78）、その他破片では、内野山窯銅緑釉皿（外面灰釉、見込み蛇の目釉刺ぎ）、灰釉もしくは透明釉碗（呉器手碗含む）、刷毛目片口などがみられる。瀬戸・美濃産陶器は、腰鉢碗（第 30 図 73）、香炉（第 31 図 82：鉄釉、袴腰）、灰釉徳利（第 31 図 79：球胴形、胴部連続釉刺ぎ・釘書き《山形「上」》）、その他破片では、志野皿、碗（掛分碗、鉄釉丸碗、灰釉丸碗など）、灰釉捏鉢、鉄釉搥鉢、灰釉水注、鉄釉壺、胎釉徳利、灰釉徳利などがある。京・信楽産陶器は、腰の張る筒形の碗（第 30 図 74：蛇の目高台）、他に丸碗片がある。志戸呂産陶器は、灯明皿（第 31 図 76）、同灯明受皿（第 31 図 77）の良好な個体、および徳利片がある。その他、丹波産陶器搥鉢（第 31 図 80：口縁断面三角形、17 世紀後半）、堺産陶器搥鉢（第 31 図 81：胎土白色鉱物粒顕著、砂粒はほとんど含まない）がある。

土器は、土器皿 75 点、口縁全周にタールが付着する個体が 1 個体ある。また、磨き調整土器皿（第 31 図 83）が 1 個体みられ、見込み型押し「寿」字、文字には金箔が施される。十能（第 31 図 85）は、1 個体、底部は欠損する。火消壺蓋（第 31 図 84）は、つまみを欠損するが、良好な個体である。その他、火鉢（第 32 図 94：93 号と接合、口径に比して器高が低い）、焙烙（丸底、底部と立ち上がりの区分は明瞭、立ち上がりは直線的）、脚付き灯明受皿、鉢類小片などである。

陶磁器・土器の編年の年代観から、遺構の年代は、瀬戸・美濃産磁器を含むものの、主体を 18 世紀前半代から中葉と考えるが、遺構の相対的な新旧関係を示す土層堆積状況から 92 号が 93 号を掘削して作られていることは明瞭であることから、下限を 18 世紀末頃とする。

93 号（4 区：第 32 図 86～95） 遺構総点数 259 点（9.13%）／遺構総重量 7871.0g（17.02%）

磁器：点数 24 点／重量 884.5g 陶器：点数 77 点／重量 3420.0g 土器：点数 158 点／重量 3566.5g

磁器は、肥前産のみである。染付コンニャク印判碗（第 32 図 86：小振り丸碗）、染付丸碗（第 32 図 87）、染付筒碗（第 32 図 88：外面蛸唐草文、口縁内面文様帯四方禪文、見込みコンニャク印判五弁花文）、青磁三足香炉（同図 89：輪高台は高台端部に鉄錆、接地面は三足端部である、体部は丸味を帯び、口縁直下で内側に縞れ、口縁はくの字に折れ、外反する、肩にボタン状の飾り 3 か所）である。その他、破片では、染付丸碗、染付小皿（輪花・ロクロ型打ち成形、見込み草花文）、染付瓶（外面花文）などがみられる。

陶器では、肥前産陶器は陶胎染付碗、内野山窯銅緑釉皿、刷毛目鉢などの破片がみられる。瀬戸・

美濃産陶器は、灰釉丸碗、腰鎚碗、刷絵皿、胎釉灯明皿（第32図90：口縁一端把手）、胎釉香炉、灰釉鉢、水鉢、鬘水入れ、鉄釉土瓶、徳利（胎釉、灰釉）、搦鉢（見込み・内面下半部目摩耗著しい）、鉄釉灰釉流し壺、鉄釉半胴甕、鉄釉銭甕（第32図91）などがある。京・信楽産陶器は、丸碗、半球碗などの破片がある。その他、丹波産陶器搦鉢、堺産陶器搦鉢がみられる。土器は、皿（第32図93：99点）、焙烙（丸底、底部と立ち上がりの区分は明瞭、立ち上がりは比較的直線的）、火鉢（第32図94：92号と接合、口径に比して器高低い）、角火鉢（第32図95）などである。

陶磁器・土器の編年の年代観から、遺構の年代は、主体を18世紀前半代から中葉と考えるが、上記92号に記載したように、本遺構は92号の前段階の遺構であり、瀬戸・美濃産磁器を伴わないことと、肥前産磁器筒碗の位置づけから下限を18世紀末頃と考える。

96号（4区：第29図55） 磁器は、肥前産染付碗、皿片が2点出土しているのみである。瀬戸・美濃陶器は、碗破片、灰釉筒形香炉、灰釉側猪口（同55）、燗徳利がみられる。年代は、未定。

119号下層（4区：第34図131～133） 119号は、上下2層に区分し遺物を採集している。下層は、小破片が多い。磁器は、近代瀬戸・美濃産色絵碗1点、および罫子片が認められる。肥前産磁器は、染付丸碗（コンニャク印判文碗含む）、染付皿、仏飯具、青磁瓶である。瀬戸・美濃産磁器は、染付端反碗、染付燗徳利が認められる。肥前産陶器は認められない。瀬戸・美濃産陶器は、志野皿（同131）、腰鎚碗、腰折碗、鉄釉藁灰釉碗、灰釉丸皿、灰釉折縁皿、灰釉筒形香炉、灰釉植木鉢、灰釉側猪口、灰釉徳利、刷毛目燗徳利、鉄釉土鍋、鉄釉半胴甕、鉄釉球胴甕、灰釉灯明皿（同132：口縁スス付着）、灰釉灯明受皿（同133）などである。その他、京・信楽産陶器丸碗、小杉碗、色絵丸碗、萩産陶器碗、志戸呂産陶器徳利、堺産陶器搦鉢、産地未定陶器土瓶が認められる。近代瀬戸・美濃産色絵碗を基準とすると、遺構の下限年代は19世紀後半代と考えられる。119号上層は、近代陶磁器・土器の出土数が多いが、内容については不詳。

126号（4区東側：第33図102～103） 磁器は、瀬戸・美濃産染付端反碗片が1点出土している。肥前産磁器は、染付丸碗小片、染付皿（同102）がある。瀬戸・美濃産陶器は、志野皿、腰鎚碗、灰釉・胎釉徳利片、鉄釉半胴甕片などがある。その他、京・信楽産陶器丸碗（色絵含む）がある。土器は、皿、焙烙、焼塩壺（同103：ロクロ成形）である。遺構の下限年代は、19世紀中葉と考える。

137号（4区：第32図96～98） 瀬戸・美濃産磁器は、認められない。肥前産磁器は、染付坏、染付丸碗、染付皿、白磁皿がみられる。肥前産陶器は、呉器手碗底部片（同96：胎土精良、透明釉、高台内施釉、高台目跡）、陶胎染付がある。瀬戸・美濃産陶器は、灰釉碗片、灰釉丸皿片、灰釉片口、鉄釉灰釉流し瓶（同97・98）、鉄釉半胴甕がある。その他、土器皿片がみられる。遺構の下限年代は、18世紀末と考える。

142号（4区：第33図99・100） 瀬戸・美濃産磁器は、認められない。肥前産磁器は、染付丸碗2点のみの出土である。肥前産陶器は、刷毛目碗（現川焼）の小片、三鳥手鉢（同100：透明釉・白化粧土、見込み蓮弁文・花唐草文）がある。瀬戸・美濃産陶器は、志野鉄絵瓶（同99）、腰鎚碗、灰釉丸皿、鉄釉瓶である。その他、志戸呂産陶器徳利がある。土器は、鉢類である。陶磁器・土器の編年の年代観からみて、遺構の下限年代は18世紀前半から中葉であるか。

145号（4区：第33図101） 瀬戸・美濃産磁器は、認められない。肥前産磁器は、白磁仏飯具である。肥前産陶器は、刷毛目碗がある。土器は、焙烙（同101：内耳焙烙、内耳は棒状の粘土

紐を輪にして貼り付け、17世紀中葉から18世紀初頭)がみられる。その他、土器皿・鉢の小片がある。陶磁器・土器の編年の年代観からみて、遺構の下限年代は18世紀前半から中葉であるか。

以上、大型の土坑を中心に、主だった遺構の出土陶磁器・土器の様相について、遺構の年代観も合わせて記載した。

以下、上記を含め、17世紀代の陶磁器・土器(内耳焙烙、肥前産磁器、瀬戸・美濃産陶器志野皿・瓶)、および19世紀前半代の陶磁器(瀬戸・美濃産磁器)に関し、出土内容についてまとめる。

内耳焙烙は、平底、断面箱形の形態である。出土地点は、34号(1点)、38号(3点)、55号(第28図44:計2点)、92号(4点)、126号(1点)である。内耳は、幅約2.5~3cmの板状の粘土紐を口縁下から底部まで渡す。胎土は砂粒の混入が少なく良好で、色調は外側が暗灰白色、中心が暗灰色を呈する。外表面は、暗灰色である。成形は、底部板作り、胴部輪積み。整形は、指押し、ナデ調整。焼成は、良好である。17世紀代に比定できる。

肥前産磁器は、高台が台形状で比較の厚みのある形状の染付皿である。出土地点は、38号(第26図9)、58号(第28図45)、89号(第30図64)である。また、一括出土では、3-1区(第35図143)に、ロク口型打ち成形白磁皿の完形に近い良好な個体がある。胎土白色。軸は生掛け。口径に比して、底径小1/2以下(1:0.38)。高台厚め。内面刻文(蓮弁文)。17世紀前半代に比定できる。その他、磁器灯芯支え(90・93号:第30図65)は、17世紀前半代と考えられる。

瀬戸・美濃陶器志野は、いずれも1/4程度の破片である。142号(第33号99)鉄絵瓶以外は、皿である。72号(第29図47)は鉄絵皿であり、それ以外は無文皿である(92号、119号下層:第34図131、126号、4区一括)。

瀬戸・美濃産磁器の出土地点は、碗は1号(3点)、2号(2点)、35号(1点)、46号(1点)、48号(10点)、82号(1点)、端反碗は8号(2点)、49号(2点)、51号(3点)、79号(10点)、92号(1点)、広東碗:79号(3点)である。その他、肥前産磁器端反碗(第30図58)が1点認められた。遺構の下限年代を判断する場合、19世紀前半~中葉の時期は、瀬戸・美濃産磁器の有無を一つの指標とするが、本調査地点の場合、遺物総体も少なく、また瀬戸・美濃産磁器が主体をなす遺構は認められず、多くても10点程度である。その他、19世紀前半代の製品は、瀬戸・美濃産半胴甕、同灰釉徳利、土器焙烙などがあり、半胴甕および土器焙烙には個体復元の可能なものがみられる。

本調査地点を含む百人町は、慶長7年(1602)鉄砲組同心組屋敷として家康より拝領を受け、以降幕末まで武家地として利用された土地である。同心組屋敷は、大きく東西に走る道路によって大きく区分され、「大久保百人太綱組屋敷絵図面」(本報告「概要」参照)にみられるように、各屋敷の入口は道路側にある。本調査地点は、屋敷の中で南面する道路に近接する範囲と考えられるが、遺構の内容からみて、ピットは認められるが居住エリアを積極的に示す遺構(礎石・礎石痕など)は希薄で、空間エリア(ごみ穴など)に顕著である植栽痕痕を含む土坑が多い。調査所見では、出土遺物からみても17世紀代の遺構の実態を示す確証は得ることができなかった。遺構内より出土した17世紀代(とくに前半代)の陶磁器・土器は、遺構の上限年代を指し示す一つの資料であるが、当然の理解として、これら上限年代を示す遺物は、本来整地層などに存在した破片の混入、もしくは当地で消費され廃棄時期が異なるものである。さらに、整地層に存在した破片は、客土として他所からもたらされたもの、あるいは当地で破片として廃棄されたもののいずれかが考えられる。整地を伴うような地業は、火災、

地震（元禄16年《1703》、安政元年《1854》）などが考えられるが、本地点の整地層の由来は不詳である。本地点の一括遺物の場合、整地層に所属するものは少なく、表土層・攪乱が多数を占めるがゆえ、消極的な判断材料であるが、これら17世紀代の陶磁器・土器は、当地で消費・廃棄されたものと考え、17世紀初頭から当地が居住地であることを示す一資料と捉えておきたい。また、19世紀前半代の遺物の場合、居住地として機能していた段階で整地層に含まれた混入物とするよりは、廃棄物と考えたほうが一般的な理解と言えよう。但し、陶磁器・土器の数量的な問題とその傾向については、消費量、廃棄位置、および廃棄のあり方など、屋敷全体のなかで把握しなければならない。

#### d 近代舶載陶磁器（第33・34図116・117・119）

いずれも43号より出土している。なお、43号以外では、51号より西洋皿の小片がある。第33図116は、イギリス製と考えられる。軟質磁器。ロクロ成形。胎土は乳白色、軟質。高台は、輪高台で独立する。底部高台内周に輪状の凹みがある。高台は施釉される。銅板プリント。中国風の楼閣山水文。文様パターン「Willow」（註2）。

第33図117は、イギリス製である。軟質磁器。白磁。ロクロ成形。胎土は白色軟質。口縁部は輪花で、折縁の幅は広く、直線的に開く。内面口縁直下に陽刻文。また、折縁内面は、蓮弁のような凹みがみられる。高台は低く、施釉される。高台外面内側に浅い凹みがある。折縁外面に支え痕1点残す（釉剥落）。底部マークは、「ROYAL IRONST（欠損：ONE WARE → 「IRONSTONE WARE」）」/王冠マーク/「JOHNSON B（欠損：ROS → 「BROS.」）/ENGLAND」とあり、製陶所名「JOHNSON BROS」で、マークの使用年代から、おおよそ1913年以降の製品である（註1）。

第34図119は、軟質磁器。イギリス製と考えられる。折縁皿。胎土は乳白色。高台は施釉。折縁の幅は広い。高台は体部より連続し、独立しない（single）。口縁輪花。銅板プリント。口縁内面直下に陽刻文（葉文）。内面は葉文。上絵で金彩（註1）。

#### e 近代陶磁器・土器 総点数753点/総重量20,394.0g

磁器：総点数490点/総重量8,135.5g 陶器：総点数224点/総重量11,435.5g 土器：総点数39点/総重量823.0g

近代陶磁器・土器の数量は、43号が415点と総点数の55%を占める。その他は調査区一括であり、遺構出土のものは少ない。出土遺構は、2号（レンガ柵：近代陶磁器の出土はない）、46号（土坑：下記に記載）、47号（ピット：下記に記載）、48号（土坑：磁器銅板転写皿）、51号（土坑：磁器色絵碗・軟質磁器西洋皿）、87号（土坑：碁子）、119号（井戸：磁器色絵碗・碁子）である。

43号（4区東：第33・34図104～127） 遺構総点数415点/遺構総重量12,245.5g

磁器：点数243点/重量4,125.0g 陶器：点数139点/重量7,503.0g 土器：点数33点/重量617.0g

磁器は、碗、杯、皿、鉢、植木鉢、急須、急須蓋、瓶、燗徳利、衛生陶器、碁子などがみられる。磁器碗は、近世肥前産染付筒碗（第33図110）1点以外は、すべて近代の製品である。碗は、染付端反碗（第33図104：クロム青磁、口縁青釉、外面竹籠のような網目文）が数点ある以外は、腰の張りが小さく、体部立ち上がりが湾曲の少ない（やや直線的）タイプの碗（同105：吹き墨・型文様、同106、同107：染付・軸裏紅、底部銘・角杵「瀬/534」と、筒形の湯呑碗（同108、同109：底部銘「九谷」）である。磁器皿は、染付型紙プリント皿（第33図118：内面窓絵雪輪/ちりめん唐草文・見込み松竹梅文）、染付ロクロ型打ち皿（第34図120：内面山水文/漢詩文、瀬戸・美濃産）がある。国産洋食器は、ソーサー（第33図115：胎土白色、硬質、高台輪高台、端部無釉、口縁内

面金線二条)、およびポットがある。

陶器は、少量近世陶器(碗片・灰釉徳利片・鉄釉瓶など)を含むが、大枠では近代の製品が占める。また、陶器は、火鉢、甕など大型の個体を含み、破片数値は磁器のほうが大きい。重量値は磁器を超える。土器の数値が小さいのは、製品自体少ないことによる。土器のこの様相は、近代遺構の一般的な傾向である。碗は、筒形湯呑碗(第34図122:鉄釉・イッチン文字文、底部銘・丸杵「万」/85)、丸碗(同123:金彩菊文)などがみられ、その他、灰釉片口、灰釉鉢(同124:口縁部外反受口)、土瓶蓋(同125:白化粧土刷毛目文)、青釉火鉢、植木鉢(青釉陶器、焼き締め陶器)、灰釉鉄絵文字徳利、灰釉ソバ徳利(同126:藁灰釉流し掛け、イッチン文様)などがある。土器は、施釉灯明受皿、植木鉢(土器、瓦質土器)、鉢形容器などがある。

46号(4区中央溝内:第27図30・第34図128~130) 近世磁器は、染付皿の破片を含むのみである。磁器は、染付碗(銅板転写含む:第34図128)、白磁湯呑碗、白磁瓶、クロム青磁瓶(花瓶:第27図30)、その他、軟質磁器、衛生陶器、罫子などがみられる。陶器は、灰釉鉢(幅広の蛇の目高台)、緑釉蓋物蓋(第34図129)がある。土器は、風呂と考えられる筒形容器(第34図130:外面墨書「故□×(欠損)片もある)、植木鉢、焙烙がみられる。

47号(4区中央溝内) 磁器皿、磁器鉢子、衛生陶器、罫子などがみられる。

43号遺構の下限年代について、出土遺物では、まず西洋皿(第33図117:イギリス製)底部マーク「JOHNSON BROS.」/王冠は、1913年(元号:大正2年)以降の製品に使用されたものである(註2)。次に、統制陶器がある。瀬戸・美濃産磁器染付碗(第33図107:底部銘・角杵「瀬/534」)、万古陶器湯呑碗(第34図122:底部銘・丸杵「万」/85)である。統制陶器は、昭和15年頃から終戦時まで生産された製品である。その他、陶磁器以外では、銅銭、ガラスビン(第41図10)、真鍮製水道メーター蓋(2号:第40図20)がある。銭貨では、製造年「大正十□年」が認められ、大正末年に近い年代が与えられる。ガラスビンは、キューピーマヨネーズの容器(大正14年(1925)製造・販売開始)で、昭和33年(1958)ポリボトル容器に変更するまで使用された(F「ガラス製品」参照)。ガラス容器の下限年代は、昭和33年である。真鍮製水道メーター蓋は、愛知時計電機株式会社(明治31年(1898)創業)が昭和2年(1927)に製造を開始した製品である(E「金属製品」参照)。その上限は昭和2年とし、出土遺物は平蓋で身との被せの部分の幅が狭い点、製造初期の製品に似る。

以上、制作・製造年代が特定できる製品を示した。西洋皿、銭貨は、本遺構の上限年代を示す遺物である。また、マヨネーズビンは上限、下限双方の年代を示す遺物である。本遺構の廃棄時期(下限年代)は、軍用地としての機能停止を定点とし、マヨネーズビンの使用段階で下限まで至らない時期と捉え、統制陶器の使用・廃止段階を基準とし1945年前後と考える。

註1 「JOHNSON BROS. (HANLEY) LTD.」 出典 GEOFFREY A. GODDEN 1963『ENCYCLOPAEDIA OF BRITISH POTTERY AND PORCELAIN MARKS』より抄訳(項目名は出典「凡例」を参考に筆者付記)  
製陶所名: JOHNSON BROS. (HANLEY) LTD. 総称: Hanley Pottery (Hanley Potteries)  
操業: Hanleyでは1883年以降(Tunstai 含め、おおよそ1899—1913) 以前の会社名: Pankhurst & Co. 製品: Staffordshire Potteries Earthenwares (Ironstone, etc.)

「Johnson Bros.」は製陶所の識別名で、さまざまな刻印、プリントにみられる。当出土遺物の「王冠マーク」例は、おおよそ1913年以降に使用。

註2 高台の分類 輪高台/高台が独立する(Rounded) 体部と高台が連続(Single) 体部と高台の境に段(Double)

岡泰正 1993「オランダ・マーストリヒトにおけるレグウート窯について - 江戸時代後期のオランダ陶器受容に関する基礎資料 (訳: フランク・ファン・デン・ベルヘ「レグウート陶器 (1836 - 1899) における形態、マーク、製造年について」)」「長崎の食文化」財団法人親和銀行ふるさと振興基金

## 【参考文献】

- GEOFFREY A. GODDEN 1963『ENCYCLOPAEDIA OF BRITISH POTTERY AND PORCELAIN MARKS』(REPRINT 版 2003)  
 藤澤良祐 1987～1989「本業焼の研究」(1)～(3)『研究紀要』VI～VIII 瀬戸市歴史民俗資料館  
 江戸陶磁土器研究グループ 1992『江戸出土陶磁器・土器の諸問題 1』(発表要旨・資料集)  
 岡泰正 1993「オランダ・マーストリヒトにおけるレグウート窯について - 江戸時代後期のオランダ陶器受容に関する基礎資料」『長崎の食文化』財団法人親和銀行ふるさと振興基金  
 瀬戸市 1998『瀬戸市史 陶磁史編 六』  
 財団法人瀬戸市文化振興財団蔵文化庁センター編 2006『江戸時代のやきもの一生産と流通―』  
 永越信吾 2006「葛飾区域の焙烙」『江戸在地系土器の研究 VI』江戸在地系土器研究会  
 九州近世陶磁学会編 2000『九州陶磁の編年』  
 加須市教育委員会 2021『騎西城跡・騎西城武家屋敷跡 KB14区調査 - 中近世編-』『騎西城跡』遺物概観(ほうろく)  
 加須市埋蔵文化財調査報告第14集  
 近世陶磁研究会編 2025『肥前陶磁の編年1 磁器編 - 碗・皿を中心に-』

第4表 近世陶磁器・土器地点別器種別数量表(1)

出土地点	器種	点数	碗類	皿類	鉢類	壺類	水注類	罎・釜類	瓶類	灯明具	蓋類	その他	点数計	総点数	陶磁器年代別による遺構下限年代
1号	磁器	点	7	8	1				1				17	27	19c 前~中葉 瀬戸・美濃産磁器
	R	10.0	42.5	2.5				4.0					59.0		
	R	2		3		1		3		1			10		
2号	磁器	点	3.0		24.0				44.5			3.5	79.0	138.0	近代シロ方標 瀬戸・美濃産磁器
	R	2		3									5		
	R	4.0		10.0									14.0		
3号	陶器	点			1								1	7	18c 後半~末
	R								1				1		
	R							3.5					3.5		
8号	磁器	点										1	1	53	19c 前~中葉 瀬戸・美濃産磁器
	R	3	1						3			1	8		
	R	4.5	1.5						8.5		1.0		15.5		
10号	陶器	点	6		10		2	7	12			1	38	186.0	不詳
	R	9.5		285.5		123.5	24.5		296.0			3.5	742.5		
	R		5	3					1		1		7		
14号	陶器	点					1						1	1	
	R					186.0							186.0		
	R														
17号	陶器	点							1				1	1	
	R								4.0				4.0		
	R														
19号	陶器	点											1	1	
	R				3								3		
	R				47.0								47.0		
21号	陶器	点											2	5	
	R												2		
	R								10.5				10.5		
27号	磁器	点	1										1	1	
	R	3.5											3.5		
	R	1		1									2		
29号	陶器	点	8.0		6.0								14.0	17.5	
	R						1						1		
	R						3.5						9.5		
34号	陶器	点											1	4	19c 前~中葉
	R												13.0		
	R				1								1		
20号	磁器	点			20.5								20.5	33.5	
	R	2											2		
	R	7.0											7.0		
34号	陶器	点	4		1		1		3				9	90.5	
	R	12.5		13.5		4.0			59.5				89.5		
	R			1									1		
34号	陶器	点	2	1	1								4	17	
	R	3.5	8.0	7.5									19.0		
	R			5		2	1		1				9		
34号	陶器	点			41.0		44.0	1.5		4.0			90.5	113.0	187.5
	R			1					2				4		
	R				37.0				37.5				113.0		

第4表 近世陶磁器・土器地点別器種別数量表（2）

出土地点	器種	点数 重態	碗類	皿類	鉢類	壺類	甕類	水注類	瀝・釜類	飯類	灯明具	蓋類	その他	点数計 重態計	総点数 総重態	陶磁器年代別による遺構下限年代
35号	磁器	点	8	5						1		1		15	90 877.0	19c前～中葉 瀬戸・美濃産磁器
		g	28.0	52.0						2.0		28.5		110.5		
	陶器	点	20	1	10		2	3		9				45		
		g	146.5	17.5	224.5		15.5	16.5		114.5				535.0		
36号	土器	点	8	11					10				1	30	1 5.5	
		g	25.5	110.5					34.0				62.0	232.0		
	陶器	点	1											1		
		g	5.5											5.5		
38号	磁器	点	20	4	2					5		3		34	246 4983.5	19c前～中葉
		g	220.0	48.0	13.5					59.0		108.0		448.5		
	陶器	点	41	5	46		1	5	4	1	14			117		
		g	363.5	79.5	2313.0		10.0	79.5	25.5	4.5	261.0			3852.5		
43号	土器	点	38	15					38					4	47 1052.5	20c中葉
		g	65.0	257.0					350.5					100		
	磁器	点	1				18			3				22		
		g	49.0				358.0			142.5				540.5		
46号	陶器	点	3	1	1					7		1	2	16	9 47	瀬戸・美濃産磁器
		g	13.5	2.0	13.5			202.0		48.0		1.0	2.5	284.5		
	土器	点		5							1		3	9		
		g		136.0							45.0		37.5	218.5		
48号	磁器	点												1	205 1581.0	19c前～中葉 瀬戸・美濃産磁器 近代古瓦
		g												93.5		
	土器	点			1				1					2		
		g			109.0				50.0					159.0		
49号	磁器	点	31	10	1	2		1		9	1	4	15	74	26 1182.5	19c前～中葉 瀬戸・美濃産磁器
		g	107.0	67.0	5.5	18.0		8.0		74.0	1.5	31.5	17.0	329.5		
	陶器	点	13	2	12	1	2	12	1	18	0	2	10	73		
		g	47.5	10.5	144.0	8.5	11.0	37.0	3.5	135.5	0.0	7.5	7.5	412.5		
50号	土器	点	2	16					21		1	8	10	58	3 136.0	19c前～中葉
		g	2.5	331.0					272.5		2.0	56.5	174.5	839.0		
	磁器	点	4	1										5		
		g	60.0	93.0										153.0		
51号	陶器	点			10	1	2	3		2		1		19	7 136.0	19c前～中葉 瀬戸・美濃産磁器
		g			347.5	18.5	452.5	55.5		36.5		114.0		1024.5		
	土器	点											2	2		
		g											5.0	5.0		
54号	磁器	点	2											2	105 1180.5	19c前～中葉 瀬戸・美濃産磁器 近代古瓦
		g	21.0											21.0		
	陶器	点		1			1							2		
		g		13.5			13.5							27.0		
55号	土器	点	1						2					3	3 98.0	19c前～中葉
		g	5.0						93.0					98.0		
	磁器	点	10	7	4			8		2		3	2	36		
		g	44.0	64.5	48.0			24.5		14.5		62.5	14.0	272.0		
56号	陶器	点	3	2	7		5	1	1	27	2	0	2	50	3 98.0	19c前～中葉
		g	12.5	8.0	143.5		81.5	4.0	2.0	229.5	114.0	0.0	1.5	596.5		
	土器	点	1	6					6		1	1	4	19		
		g	1.0	249.0					43.0		3.5	3.5	12.0	312.0		
57号	陶器	点		3										3	4 44.5	18c中葉以降
		g		98.0										98.0		
	磁器	点	3		1									4		
		g	21.0		23.5									44.5		
58号	陶器	点	3		2									5	14 339.0	18c中葉以降
		g	95.0		32.0									127.0		
	土器	点		1	2				2					5		
		g		1.5	46.0				120.0					167.5		
59号	陶器	点			47.0									2	2 47.0	
		g			47.0									47.0		
60号	陶器	点	2							1				3	3 18.5	
		g	7.5							11.0				18.5		
61号	磁器	点		1										1	1 4.0	
		g		42.0										42.0		
62号	土器	点	1											1	1 5.5	
		g	5.5											5.5		
68号	磁器	点	2											2	5 13.0	
		g	0.0											5.5		
	陶器	点	1	1	1									3		
		g	2.5	4.5	2.5									9.5		
72号	磁器	点	1											1	1 2	未定
		g	37.0											37.0		
73号	陶器	点		1										1	1 2	
		g		15.0										15.0		

第4表 近世陶磁器・土器地点別器種別数量表(3)

出土地点	種別	点数 重値	陶類	皿類	鉢類	磁類	提類	水注類	罎・蓋類	瓶類	灯明具	蓋類	その他	点数計 重値計	現点数 総重値	陶磁器年代層に よる遺構下限年代
70号	磁器	点 16	5							6	0	0	3	30	177 4698.0	19c前~中葉 瀬戸・美濃産磁器
	R	103.5	56.0							23.0	0.0	0.0	2.0	184.5		
	陶器	点 6		4		13	17			15	1	1	7	64		
	R	52.5		75.0		1104.0	314.0			1116.0	21.5	13.5	8.0	2704.5		
80号	土器	点		36					35	0		12		83	18 289.0	
	R			468.0					530.0	0.0		81.0		1809.0		
	磁器	点 4	2	1										7		
	R	29.0	35.0	16.5										80.5		
81号	陶器	点 1		1		2	1			2				7	32 142.0	
	R	0.5		4.0		153.5	2.0			7.0				167.0		
	土器	点		2					2					4		
	R			34.0					7.5					41.5		
82号	磁器	点 3	5	1						1		1		11	31 501.0	19c前~中葉 瀬戸・美濃産磁器
	R	8.0	11.5	27.5						2.5		1.5		51.0		
	陶器	点 7		2				5		5				19		
	R	13.0	5.5					9.0		60.0				87.5		
83号	土器	点							2					2	58 597.5	
	R								3.5					3.5		
	磁器	点 3								1				6		
	R	18.0								29.0				47.0		
84号	陶器	点 4			1			12		6		1		24	101 349.0	19c前~中葉
	R	23.5			21.0			229.0		67.0		111.0		451.5		
	土器	点			1									1		
	R			3.0										3.0		
85号	土器	点		1										1	58 597.5	19c前~中葉
	R			4.5										4.5		
	磁器	点				1								1		
	R					7.0								7.0		
86号	陶器	点 2		1	1				1	1				6	101 349.0	19c前~中葉
	R	2.5		38.5	2.5				1.0	9.0				53.5		
	土器	点		2					92					94		
	R			10.0					278.5					288.5		
87号	磁器	点 6		1										7	58 597.5	19c前~中葉
	R	74.0		6.0										80.0		
	陶器	点 1		4		2			3			2		12		
	R	17.5		60.0		88.0			12.5			46.0		224.0		
88号	土器	点 0	17	7					15					39	26 204.0	
	R	0.0	72.5	69.0					152.0					293.5		
	磁器	点 2												2		
	R	7.5												7.5		
89号	陶器	点 1												1	17 177.0	近代含む (衛生陶器)
	R	1.5												1.5		
	土器	点		2					2					4		
	R			1.5					12.0					13.5		
90号	磁器	点 5										1		7	26 204.0	
	R	34.0	2.0									18.5		54.5		
	陶器	点 1		1		3			2	0	0	0	7			
	R	4.0		33.0		35.0			21.0	0.0	0.0	0.0		93.0		
91号	土器	点							2			1		3	5 101.0	
	R								3.5					2		
	磁器	点										7		7		
	R											128.5		128.5		
92号	陶器	点 2								5				7	26 204.0	未定
	R	5.0							0.0					5.0		
	土器	点		2	4				6					12		
	R			3.5	37.0				30.0					70.5		
93号	磁器	点 2	1											3	16 157.0	未定
	R	8.5	6.5											15.0		
	陶器	点 1		2		1	3		2					9		
	R	5.5		32.5		8.0	6.5		11.5					64.0		
94号	土器	点		4										4	5 101.0	
	R			78.0										78.0		
	陶器	点 1		1					1					3		
	R	1.0		3.5					10.5					15.0		
95号	土器	点											1	2	54 790.0	18c中葉~末
	R			1.0										85.0		
	磁器	点 10	2							1		1		14		
	R	152.0	5.0							21.5		1.5		180.0		
96号	陶器	点 11	1	5		2			5			1	2	27	54 790.0	
	R	56.0	1.0	241.5		7.0			92.5			3.0	3.0	404.0		
	土器	点		3	6				3					13		
	R			10.5	132.0				14.5					49.0		

第4表 近世陶磁器・土器地点別器種別数量表(4)

出土地点	種別	点数 重量	碗類	皿類	鉢類	甕類	水注類	瀝・釜類	瓶類	灯明具	蓋類	その他	点数計 重量計	総点数 総重量	陶磁器年代層に よる遺積下層年代
90・116号	磁器	点							1				1		18c 中層～末
	g								80.0				80.0		
	陶器	点	2	1									3		
	g	1.5	30.5										32.0		
土器	点		1	1									2	6	
	g		1.5	25.0									26.5	138.5	
	磁器	点	12	5									17		
	g	26.0	6.0										32.0		
91号	陶器	点	6	2	5								13		
	g	9.5	3.0	34.5									47.0		
	土器	点	4	3									7	41	
	g	7.0	52.5					2				2	11	152.5	
92号	磁器	点	25	5	8								38		
	g	679.5	47.0	166.5					3.0				896.0		
	陶器	点	45	4	27	1	2	1	21	3	1		105		
	g	446.0	110.5	1079.5	23.5	116.0	13.0		849.5	197.5	7.0		2842.5		
土器	点		89	15					34		1	14	29	326	
	g		330.0	136.5					335.0		123.0	850.0	367.5	2151.0	5889.5
	磁器	点	16	3	4				1				24		
	g	418.0	10.0	451.0					5.5				884.5		
93号	陶器	点	21	6	25		5	3	6	1			10	77	
	g	137.5	37.0	2709.5		335.5	32.5		117.0	39.0			12.0	3420.0	
	土器	点		99	27				14				18	158	
	g		389.0	2912.0				238.5					27.0	3566.5	259
95号	磁器	点	2										1	3	
	g	5.0											4.5	9.5	
	陶器	点			1								1	4	
	g			13.0									13.0	22.5	
96号	磁器	点	1	1									2		
	g	10.0	4.0										14.0		
	陶器	点	1		3				1				5		
	g	2.0		74.5					1.0				77.5		
土器	点			1									1	8	
	g			13.5									13.5	105.0	
	磁器	点	1	1									2	2	
	g	5.0	1.0										6.0	6.0	
111号	陶器	点	1			1			1				3	3	
	g	1.0			16.5				4.5				22.0	22.0	
	磁器	点	2	2									4		
	g	6.5	2.5										9.0		
112号	陶器	点	1		1								2		
	g	2.0		0.0									2.0		
	土器	点		1	3								4	10	
	g		4.5	0.0									4.5	15.5	
117号	陶器	点	2	2					1				3		
	g	4.0	8.0						6.0				18.0		
	土器	点		2					3				3	10	
	g		7.0						10.5				17.5	35.5	
118号	磁器	点	3										3		
	g	10.0											10.0		
	陶器	点	1						1				2		
	g	3.5							2.0				5.5		
土器	点			1					1				1	6	
	g			4.0					4.0				4.0	19.5	
	陶器	点	1		3				2				6		
	g	23.5		35.0					36.0				94.5		
119号	土器	点		2	10				5				17	23	
	g		18.5	139.5					16.0				174.0	268.5	
	磁器	点	2										2		
	g	23.5											23.5		
119号 上層(青瑯)	陶器	点							1				1		
	g								3.0				3.0		
	土器	点			1				1				2	5	
	g			11.5					3.0				14.5	41.0	
119号 下層	磁器	点	21	4	1				4		1		31		
	g	45.5	18.5	57.5					31.0		1.0		153.5		
	陶器	点	19	3	15	2	7	7	1	8	3	1	0	66	
	g	55.0	23.5	394.0	38.0	92.0	24.0	6.0	81.0	91.5	4.0	0.0	809.0		
土器	点									1			1	98	
	g									1.5			1.5	964.0	

第4表 近世陶磁器・土器地点別器種別数量表(5)

出土地点	器別	点数 差量	碗類	皿類	鉢類	壺類	甕類	水注類	鍋・釜類	飯類	灯明皿	蓋類	その他	点数計 差量計	総点数 総差量	陶磁器年代層に よる遺構下層年代
122号	磁器	点	1	1										2	13	
	磁器	点	5.0	24.0										29.0		
	陶器	点	2		1		1			1				5		
	土器	点	4.5		34.0		4.0			4.5				47.0		
126号	磁器	点		4	1								1	6	130.0	19c前～中葉
	磁器	点	2	1									16.5	54.0		
	陶器	点	23.0	22.0										3		
	土器	点	9	1			1	1		2				14		
129号 周辺	磁器	点	53.0	4.0			11.0	0.5		10.0				78.5	264.5	
	陶器	点		5	11					2				18		
	土器	点	18.5	109.5						13.0				141.0		
	陶器	点	1	1							1			3		
130号 周辺	磁器	点	6.0		5.0						3.0			14.0	14.0	
	陶器	点	1	1										2		
	土器	点	4.0	16.0										20.0		
	陶器	点	4	2	1	1		1		2			1	12		
137号	磁器	点	9.0	1.5	13.0	26.5		5.5		14.5			0.5	70.5	125.5	
	陶器	点		1	5					1				7		
	土器	点		1.0	32.5					1.5				35.0		
	陶器	点	5	4										9		
138号	磁器	点	23.5	18.5										42.0	382.5	18c中葉～末
	陶器	点	3	2	2		2			2				11		
	土器	点	66.5	5.5	83.0		64.0			109.0				328.0		
	陶器	点		1										1		
141号	磁器	点		12.5										12.5	28.0	
	陶器	点	1											1		
	土器	点	4.5											4.5		
	陶器	点			1				1					2		
142号	磁器	点			7.0					16.5				23.5	3.0	28.0
	陶器	点	1											1		
	土器	点	3.0											3.0		
	陶器	点	2											2		
144号	磁器	点	7.5											7.5	15	18c前半～中葉
	陶器	点	3	1	2					4				10		
	土器	点	41.5	14.5	46.5					148.0				669.5		
	陶器	点			3									3		
145号	磁器	点			121.0									121.0	798.0	
	陶器	点			1									1		
	土器	点			9.5									9.5		
	陶器	点	1											1		
148号	磁器	点	2.0											2.0	7	95.5
	陶器	点		1	1					3				5		
	土器	点		2.5	13.0					68.5				84.0		
	陶器	点		1										1		
1-2区1期	磁器	点		1.0										1.0	1.0	
	陶器	点	10	2	1							1	8	22		
	土器	点	131.5	32.0	3.0							13.0	16.5	196.0		
	陶器	点	10	1	10		9	21		17	1			14		
1-6区一區	磁器	点	87.5	4.5	142.0		110.5	146.0		146.5	13.0			14.0	664.0	
	陶器	点		3	2					1				2		
	土器	点		5.5	24.0					3.0				61.0		
	陶器	点												8		
1-6区一區	磁器	点	8	2						2			1	13	107.0	
	陶器	点	63.0	7.0						28.0		9.0		107.0		
	土器	点	7	1	2		2			2				14		
	陶器	点	41.0	1.0	7.5		29.0			22.5				101.0		
1-6区一區	磁器	点		2										2	29	229.0
	陶器	点		21.5										21.5		
	土器	点	5	2										7		
	陶器	点	50.0	30.0										80.0		
1-6区一區	磁器	点	4		1		2			1				8	796.0	
	陶器	点	18.5		9.0		181.0			3.0				211.5		
	土器	点								1			3	4		
	陶器	点								4.0				500.5		
1-7区一區	磁器	点	5	1										6	34.0	
	陶器	点	27.0	7.0										34.0		
	土器	点	2		4		2		1	7			8	24		
	陶器	点	10.5		88.0		36.0		5.5	68.5			769.5	978.0		
1-7区一區	土器	点			3									3	33	
	陶器	点			74.5									74.5		

第4表 近世陶磁器・土器地点別器種別数量表(6)

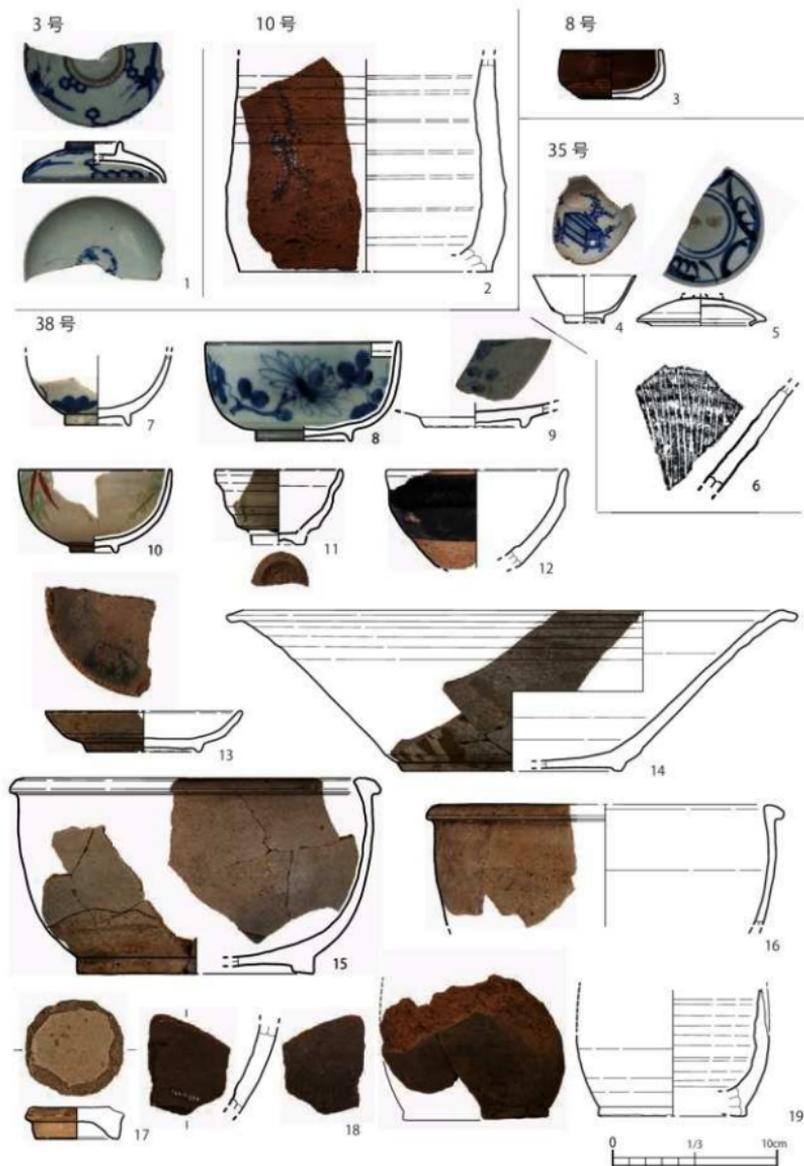
出土地点	種別	点数 重値	碗類	皿類	鉢類	甕類	水注類	罎・釜類	瓶類	灯明具	蓋類	その他	点数計 重値計	総点数 総重値	陶磁器年代層に よる連続下層年代	
17区表土一括	磁器	点 3											3			
	g	29.0											29.0			
	陶器	点		2				1					3			
	g			109.5				10.5					120.0			
	土器	点		2								1	3	9		
25区覆瓦	磁器	点		1								1	5	354.0		
	g	27.5		9.0			8.0					81.5	126.0			
	陶器	点		1								1	1	6		
	g			18.0								18.0	144.0			
	土器	点	3					1					4			
2区表土一括	g	59.5						5.5					65.0			
	陶器	点	1				9						10			
	g	8.0				144.7							152.7			
	土器	点		8				3					11			
	g			648.5				8.5					657.0	874.7		
3-1区覆瓦	磁器	点	4	3									7			
	g	48.0	144.5										192.5			
	土器	点		1									1	8		
	g			11.0									11.0	203.5		
	陶器	点		1					1		1		3			
3-10区覆瓦	g		4.5					15.0			3.5		23.0			
	陶器	点		1									1	4		
	g			16.0									16.0	39.0		
	土器	点	15	3									18			
	g	121.0	92.0										213.0			
3区表土一括	陶器	点	1	1		5	0	0	4				11			
	g	20.5		134.5		163.0	0.0	0.0	185.0				503.0			
	土器	点						1					1	30		
	g							0.0					0.0	716.0		
	陶器	点	18	7							1		26			
4区表土一括	g	165.5	59.0								7.0		231.5			
	陶器	点	10	4	22	3	2		5				11	57		
	g	44.5	91.0	488.0		54.5	10.0		213.0				13.0	914.0		
	土器	点		16	47			8		1			40	112	195	
	g		53.5	323.5				58.0		12.0			90.5	537.5	1683.0	
S43.7一括	土器	点		1				3				3	7	7		
	g			24.0				38.5				2.0	64.5	64.5		
	種別総数・総数	点	618	460	573	12	112	122	337	278	20	76	226		2834	
	種別総重値・総重値	g	5089.0	2618.0	18152.5	183.0	4982.7	1052.5	2021.0	5214.0	687.5	2516.0	2714.5		46130.7	
	種別総器種数・総数	点	321	104	32	2	19	11	0	43	2	28	31	593		
種別総器種重値・総重値	g	3074.5	1081.0	857.0	18.0	365.0	40.5	0.0	527.0	23.0	449.5	229.0	6664.5			
種別陶器総数・総数	点	297	46	269	10	93	111	7	235	11	12	69	1160			
種別陶器総重値・総重	g	2014.5	478.0	10238.5	165.0	4617.7	1012.0	24.5	4687.0	476.5	310.5	844.5	24868.7			
種別土器総数・総数	点	0	310	272	0	0	0	330	0	7	36	126	1081			
種別土器総重値・総重	g	0.0	1059.0	7057.0	0.0	0.0	0.0	2896.5	0.0	188.0	1756.0	1641.0	14597.5			

第5表 近代陶磁器・土器地点別器種別数量表(1)

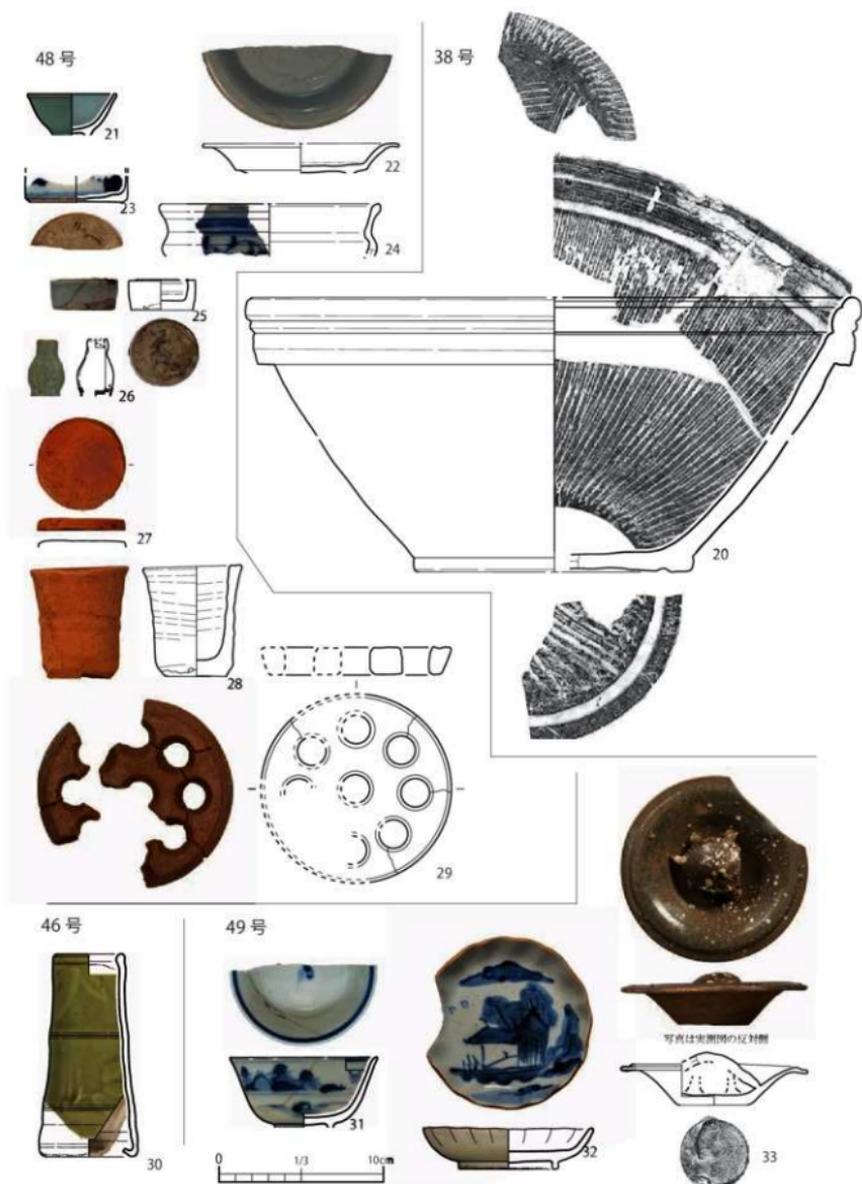
出土地点	種別	点数 重値	碗類	皿類	鉢類	甕類	水注類	罎・釜類	瓶類	灯明具	蓋類	その他	点数計 重値計	総点数 総重値
43号	磁器	点	116	77	24		5		5		6	10	243	
	g	1464.5	868.5	30.0			42.5		65.0		153.5	1501.0	4125.0	
	陶器	点	20	2	64		7	6	1		18	21	139	
	g	154.5	9.0	2179.5		1421.0	24.0		444.0		167.0	3104.5	7503.5	
	土器	点			33								33	415
g			617.0									617.0	12245.5	
46号	磁器	点	4	3	1	3			2		1	1	15	
	g	157.5	26.5	35.5	49.0				128.5		2.0	10.0	409.0	
	陶器	点			1							3	4	
	g			479.5								37.0	516.5	
	土器	点		2									2	21
g			80.0									80.0	1005.5	

第5表 近代陶磁器・土器地点別器種別数量表(2)

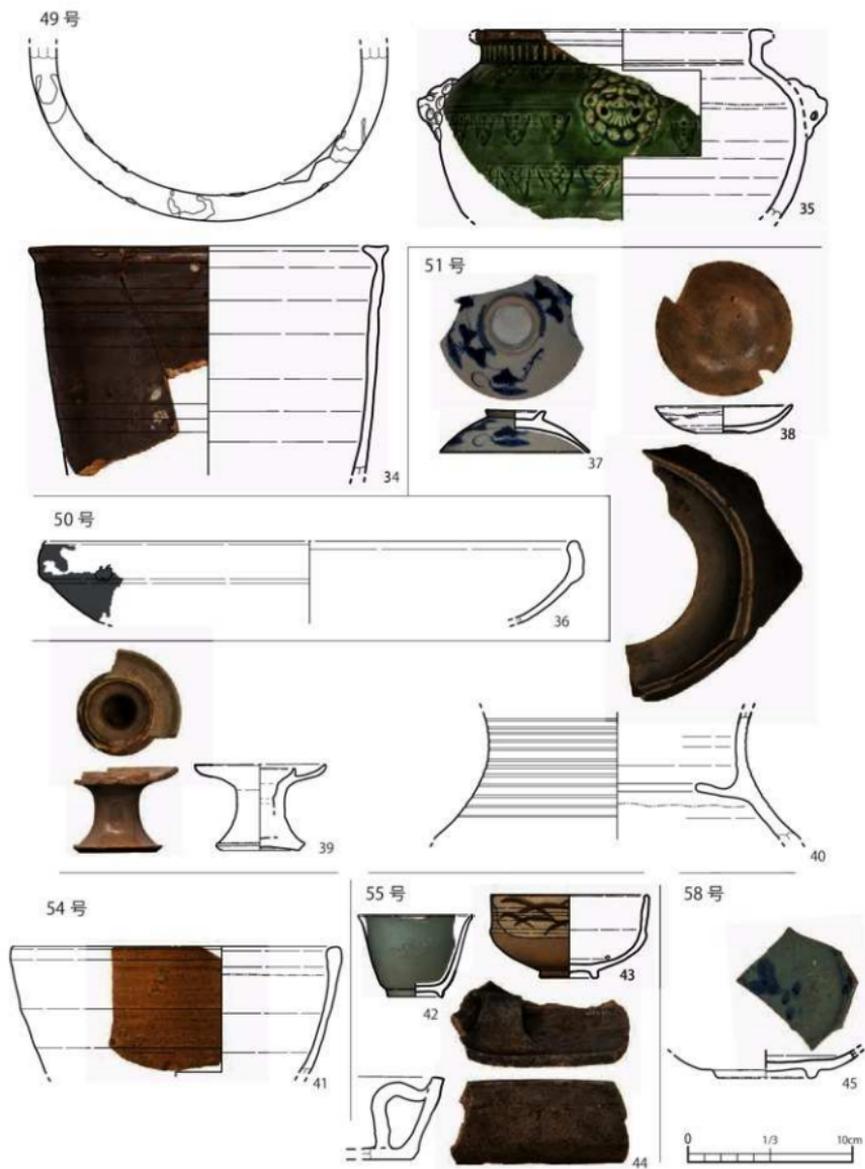
出土地点	種別	点数 重量	碗類	皿類	鉢類	壺類	甕類	水注類	罎・釜類	磁瓶	灯明具	磁瓶	その他	点数計 重量計	総点数 総重量
47号	磁器	点						1					6	7	
	R							33.0					141.0	174.0	
48号	陶器	点		1										1	8
	R		44.0											44.0	218.0
51号	磁器	点	3										1	4	
	R		32.0											32.0	
87号	陶器	点		1										1	4
	R			1.5										1.5	33.5
119号下層	磁器	点	1										2	2	2
	R		3.0											3.0	356.0
1-2区1層	磁器	点	8	3	1	1	24						4	41	
	R		172.0	70.0	4.0	12.0	155.0							44.0	457.0
1-7区廢瓦	陶器	点					8	2				2	3	15	56
	R						93.5	32.0				22.0	159.5	307.0	764.0
1-7区廢瓦	磁器	点	1	3			2					1	2	9	
	R		5.5	60.5			14.0					10.5	100.0	190.5	
1-7区表土一 鉄	陶器	点		3			1							4	13
	R			26.0			32.0							58.0	248.5
2-5区廢瓦	磁器	点	8	5	2		1						3	19	
	R		77.0	62.5	65.0		1.5						165.5	371.5	
2-5区廢瓦	陶器	点	2	10		1	1	6						20	39
	R		24.0	898.0		60.0	14.5	90.0						1086.5	1458.0
2区表土一 鉄	磁器	点										1	18	19	
	R											8.0	386.0	394.0	
3-1区廢瓦	磁器	点	7	2	1									10	
	R		96.0	154.0	70.5									320.5	
3-10区廢瓦	陶器	点			5							1	3	9	
	R				67.0							28.5	1017.0	1112.5	
3区表土一 鉄	土器	点											1	1	20
	R												30.0	30.0	1463.0
3-10区廢瓦	磁器	点	1											1	1
	R		9.5											9.5	9.5
3区表土一 鉄	磁器	点	1											1	1
	R		18.0							46.0		20.5	153.5	238.0	
4区廢瓦	陶器	点		1				2	2			1	5	11	19
	R			43.5				108.0	34.0			9.5	133.0	328.0	566.0
4区廢瓦	磁器	点	1		2								1	4	
	R		3.0		30.0									9.0	42.0
4区表土一 鉄	陶器	点					5							3	8
	R						20.0							49.0	69.0
4区表土一 鉄	磁器	点	42	12	14				2			2	6	80	
	R		325.0	179.0	145.5		13.0		6.0			8.5	161.0	838.0	
543-7 一鉄	陶器	点	1	4									1	7	
	R			17.5	193.0								25.5	98.0	334.0
543-7 一鉄	土器	点		2										2	2
	R			73.0										73.0	1245.0
種別総数・総数	磁器	点	10	1			6	3				3		23	
	R		70.0		7.5		27.5	18.0				19.5		142.5	
種別総重量・総重量	陶器	点	1	1	2				1					5	
	R		1.0	1.5	44.5				28.0					75.0	
種別総数・総数	土器	点											1	1	29
	R												23.0	23.0	240.5
種別総数・総数	点	222	113	174	7	9	66	4	19			48	91		753
種別総重量・総重量	R	2576.5	1485.5	5119.5	151.0	1467.5	514.0	205.0	704.5			573.5	7597.0		20394.0
種別陶器総数・総数	点	199	107	47	6	0	41		15			19	56		490
種別陶器総重量・総重量	R	2397.0	1412.0	418.5	91.0	0.0	286.5		198.5			235.0	3032.0		8070.5
種別陶器総数・総数	点	23	6	90	1	9	25	4	4			29	33		224
種別陶器総重量・総重量	R	179.5	73.5	3931.0	60.0	1467.5	227.5	205.0	506.0			338.5	4512.0		11500.0
種別土器総数・総数	点			37									2		39
種別土器総重量・総重量	R			770.0									53.0		823.0



第26图 遗構出土陶磁器・土器 (1) (1/3)



第27図 遺構出土陶磁器・土器 (2) (1/3)



第28图 遗構出土陶磁器・土器 (3) (1/3)





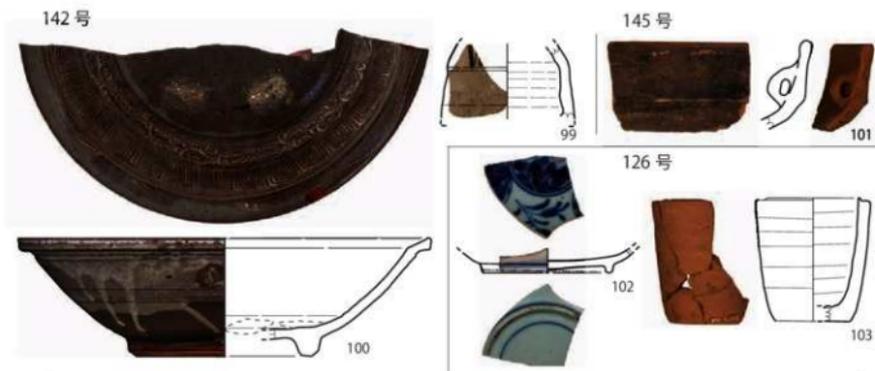
第30图 遺構出土陶磁器・土器 (5) (1/3)



第31図 遺構出土陶磁器・土器 (6) (1/3)



第 32 图 遺構出土陶磁器・土器 (7) (1/3)



近代 43号



第33図 遺構出土陶磁器・土器(8)(1/3)





第35図 遺構外出土陶磁器・土器 (1/3)

第6表 陶磁器・土器観察表 (1)

\* 表記の測定値は推定値・残存値。測定値の後ろに「1」と記されたものは厚さ、「2」と記されたものはつまみ梗を示す。

図版番号	個別番号	出土地点	種類	器種	産地	口径 [直径] cm	底径 [半径] cm	器高 cm	最大幅 cm	胎土	文様/加色 [文種内容]	輪築	成形技法	器形の特徴	踏刷印・その他の特徴	年代	
第26図	1	3号	磁器	碗蓋	肥前	*8.6		2.5	3.2*2	白	染付 [外面亀甲文・草花文、内面松竹鶴文]	透明	ロケロ		広東碗蓋		
	2	10号	陶器	壺	不明	*15.4		*13.0		暗灰		焼き締め			黒色粘固着。白色粘土含む。表面暗褐色。底部で屈曲し、立ち上りは直線的		
	3	8号	陶器	鉢	瀬戸美濃?	*6.0	3.6	3.0		暗褐色		鉄胎	ロケロ				
	4	35号	磁器	杯	肥前?	*6.2	2.4	2.9		白	染付上絵 [内面●●●草花]	透明	ロケロ			19前?	
	5		磁器	蓋物蓋	肥前	7.8	*6.0	*1.9		白	染付 [天井草花文]			かえり		18C代~19C前	
	6		陶器	摺鉢	行波			7.8		暗灰		焼き締め	板作り、輪積			即日6本/案	17C後~18C前?
	7	38号	磁器	碗	肥前	4		*4.2		白	染付 [外面葉・丸輪文]	透明	ロケロ、削出高台	丸碗	こんにゃく印判	18C代	

第6表 陶磁器・土器観察表(2)

観測番号	観測地点	種類	器種	産地	口径〔直径〕 cm	底径〔半径〕 cm	器高 cm	最大幅 cm	胎土	文様/加色〔文様内容〕	釉薬	成形技法	器形の特徴	銘印・その他の特徴	年代			
第26回	38号	8	磁器	蓋物	肥前	11.8	5.9	6.1		染付〔外面枝文〕	透明	ロクロ、 胡出高台		口縁無胎	18C代			
		9	磁器	皿	肥前		*6.1	*1.5		灰白	染付〔見込み草文文〕	透明	ロクロ、 胡出高台			17C前~中、 中世		
		10	陶器	碗	京都 信楽	9.3	2.9	5.1		灰	色絵〔外面・ 底文〕	緑・赤 灰胎	ロクロ、 胡出高台	丸碗	緑釉、口縁やや内湾	19C前		
		11	陶器	碗	筑	*7.6	3.6	5.4		灰		鉄胎	ロクロ、 胡出高台	小碗		19C前		
		12	陶器	碗	瀬戸 美濃	*10.0		*6.0				鉄胎	ロクロ	天目碗	立ち上がり比較的高い	17C後		
		13	磁器	皿	瀬戸 美濃	*12.0	*7.0	2.5		乳白		長石 胎、緑 胎	ロクロ、 胡出高台		口唇部輪郭子	17C前~中		
		14	陶器	笠形鉢	瀬戸 美濃	34.8	13.4	9.8		灰、 淡灰 胎		灰胎	ロクロ、 胡出高台	折縁	縁り込み、底面輪郭凸			
		15	陶器	椀鉢	瀬戸 美濃	*21.8	*14.4	*12.0		灰		灰胎	ロクロ	口縁外へ凸出	二次焼成、器面荒	18C代		
		16	陶器	椀鉢	瀬戸 美濃	*21.6				灰		灰胎	ロクロ	口縁外へ凸出		18C代		
		17	陶器	碗	肥前		5	*2.1		乳白		透明	ロクロ、 胡出高台	両面手	高台と体部で底面の に打ち欠き	17C中~後		
		18	陶器	甕					1.0*1	明灰 胎			輪積	胴部片	内面ナデ、指掛痕	中世?		
		19	土器	甕?			*9.8	*8.7					板作り、 輪積		内面ナデ成形痕著			
		第27回	38号	20	陶器	鉢鉢	備前		*16.8	*9.0		黒灰	外面口縁部三段、 外面赤褐色滑、 外面暗淡緑	焼き締め、 白色砂粒 多	板作り、 輪積		即日7本/釜、底面 外周白胎(擬高台)、 底面スノコ状の凸痕	17C後~18C 前
				21	磁器	杯	肥前 か	*5.4	*2.0	2.8		灰白	青磁、染付		ロクロ、 胡出高台		底面銘「日」	
				22	磁器	皿	肥前 か	*12.0	*6.0	2.1		白	白磁/原研文〔見 込み文様・空堂 か〕	透明	ロクロ、 胡出高台			19C代か
				23	磁器	燗徳利			*5.6			白		透明	ロクロ	口縁無胎	底面筆書「モイ」?	19C前
				24	磁器	甕	肥前	*13.6				白	染付〔外面文様〕	透明	ロクロ	口縁無胎		
				25	磁器	蓋物	肥前	4.2	3.9	1.7		白		透明	ロクロ	蓋掛けあり	底面筆書	
				26	磁器	藤形甕		1.2	1.8	3.7		灰白	青磁/開研文〔外 面草文文〕		手捏か型			
27	土器			埴塙甕		5.5	5.1	0.7		褐			手捏		外面一部ピンク、金 雲母粒施			
28	土器			埴塙甕		6	3.8	6.9		褐			ロクロ	口縁やや外 反	底面赤切痕			
29	土器			サナ		[*8.0]	[*11.5]		7	褐			板作り、 ロクロ	孔9	断面器台形状、上面 粘土付着、金雲母 著			
30	46号			陶器	花瓶		4.4	*5.2	12.5		灰	〔外面開割 竹 葉・節〕	クロム 青磁	型か	竹筒形		19C後~	
31	磁器			碗	瀬戸 美濃	9	3.5	4.7		白	染付〔外面山水 文、見込み文様〕	透明	ロクロ	曜夜碗		19C前		
32	磁器			皿	肥前	10.4	5.9	2.5		白	染付〔内面山水 文〕	透明	ロクロ型 打	輪花、口積		18C末~19C 前		
33	49号			陶器	土瓶蓋		11.4	4.2	3.2		明灰 胎	[天月白化土で列 点状文様]	透明、 白化粧	ロクロ	つまみ亀	底面赤切痕	19C後~	
第28回	51号			34	陶器	平刷鉢	瀬戸 美濃	21.8		*14.1				鉄胎	ロクロ	平刷鉢	口縁器台痕	18C~19C前
				35	陶器	火鉢	瀬戸 美濃	*17.6		*11.5			〔外面連輪印 文〕	緑胎、 鉄胎	ロクロ	胎部	つまみ筋付・脚、口 縁外へ突出	18C代
				36	50号	土器	焙焼		*32.8	*5.1		期			型・ロク ロ	口縁立ち上 がり浅い	外面全面スス付着	
				37	磁器	燗蓋	不詳	*9.2		2.6	3.6*2	白	染付〔外面文様 (水鳥?)]	透明	ロクロ			
				38	陶器	灯明鉢	瀬戸 美濃	8.3	3.1	1.7		淡黄 胎		灰胎	ロクロ		口唇全周部分黒染、 外面口縁部下ター ル付着	
		39	陶器	脚付灯 明交磁	瀬戸 美濃	*8.0	4.8	5.3		淡黄 胎		灰胎	ロクロ					
		40	土器	七厘?				*7.7	22.3	灰- 黒灰	〔外面開割 幾何文〕		輪積	下部球脚か	外表面、中心黒灰、 上下部端部に突出、 外面黒染			
		41	54号	陶器	椀鉢	瀬戸 美濃	*20.0		*7.8		淡灰 黄胎		灰胎	ロクロ	口縁玉縁	内面無胎		
		42	55号	磁器	猪口	肥前	*7.0	3.4	5		白	白磁〔外面開割 磨草文〕	透明	ロクロ	口縁外反			

第6表 陶磁器・土器観察表(3)

図版番号	山土地点	種類	器種	産地	口径〔直径〕 cm	底径〔半径〕 cm	器高 cm	最大幅 cm	胎土	文様/加色〔文 様内容〕	釉薬	成形技法	器形の特徴	銘刷印・その他の特 徴	年代	
第28図	43	陶器	碗	京都信楽	9.6	3.4	5.1		淡黄緑	鉄絵、白化化粧〔外面紫文〕	透明	ロク口	腰折	見込み目取3		
	44	土器	焙烙		*46.0	*42.0	5		淡灰黄緑			手捏、外面下半部押痕	平底・内耳	表面灰色		
	45	磁器	皿	肥前		*6.0	*1.4		灰	染付〔内面文様、見込み草花文〕	透明	ロク口			17C中	
第29図	46	72号	陶器	碗	肥前	*11.2		*5.9	淡灰黄緑			ロク口			17C前	
	47	陶器	皿	瀬戸美濃	*14.0	*8.7	2.3		乳白	鉄絵〔内面紫線、見込み文様〕	長石釉	ロク口		志野、底部焼台跡、高台輪痕		
	48	陶器	土瓶		*6.0		*7.9	*14.0	灰		灰釉、磨瑠璃	ロク口	蓋掛けなし			
	49	陶器	灯明皿	瀬戸美濃	*9.0	*3.6	2		灰	〔内面紫線4〕	灰釉	ロク口、底部へう切り		見込み目取		
	50	陶器	皿	瀬戸美濃			5.7	*9.2	淡緑		灰釉	ロク口、削出高台				
	51	79号	陶器	球胴甕	瀬戸美濃	18.6	12.6	16.6		乳白	〔斜部紫線6〕	鉄絵、灰釉流し	ロク口		口縁丸縁を持ち外方へ突出、見込み焼台跡5	
	52	土器	火鉢		*24.0		*11.8		褐		輪積・ロク口	球脚、口縁内湾				
	53	土器	火鉢		*24.0		*11.8		褐		輪積・ロク口	球脚、口縁内湾				
	54	土器	火鉢蓋		21.4	26	3.2	3.2*2	褐		板作り・ロク口					
	55	96号	陶器	煎餅口	瀬戸美濃	6.2	5.2	3.2		淡灰黄緑		灰釉	ロク口	覆け把手	底部布切痕	
	第30図	56	82号	陶器	土瓶蓋			7.3	3.9	10	灰	呉須絵〔天井文様〕	灰釉	ロク口		
		57	陶器	土瓶		*8.4	*7.8	8.8	*17.0	灰	呉須絵〔外面草花文〕	灰釉	ロク口	腰折	縦貫	
58		磁器	碗	肥前	*10.6	*4.4	6		白	染付〔外面草花文、口縁内面文様紫文、見込み松竹梅文〕	透明	ロク口		端反縁		
59		85号	陶器	播鉢	信楽	*25.2		*7.9		灰・淡灰緑		ロク口		白色粒面革、口径6本/条、口縁や中内湾気味、口縁幅広で浅い凹みを持つ		
60		土器	皿		7.8	3.8	1.4				ロク口		口縁一端にタール付着			
61		87号	土器	傍土甕		5.6	5	0.7		褐		手捏		表面赤化、ロク口成形埃場遺痕		
62		88号	磁器	蓋物	肥前	*10.2	*5.2	5.6		淡灰	染付〔外面格子文〕	透明	ロク口			
63		89号	磁器	杯	肥前	5.2	1.9	2.2		白	色絵〔外面紫文〕	透明	ロク口	丸碗形		
64		磁器	皿	肥前			1.9		淡灰	染付〔内面文様〕	透明	ロク口		高台砂粒、山形田家か	17C前～中	
65		90・93号	磁器	灯芯支元	肥前	[4.6]	[2.4]			白	青白磁	手捏		唐人形	17C前	
66		90・116号	土器	植木鉢		*8.0	4.4	5.1				ロク口	底部穿孔、口縁外反	外面紫変、底部布切痕		
67		陶器	油壺	肥前	2.8		*7.8		淡灰	染付〔外面草花文〕	透明	ロク口			17C末～18C前	
68		磁器	碗	肥前	45.3	5.5	8.5		淡灰	染付〔外面紫竹文、見込み五弁花〕	透明	ロク口、削出高台	くらわんか碗	底部鉄錆痕、こんにゃく印明、高台砂粒付着	18C前	
69		磁器	碗	肥前	*10.0	*4.2	5.3		淡灰	染付〔外面紫草花文〕	透明	ロク口、削出高台	くらわんか碗	底部紫線	18C前	
70		磁器	杯	肥前	*5.5	*3.3	3.4		白磁		透明	ロク口	浅い高台	底変質1形	18C代	
71		磁器	皿	肥前		*12.4	*2.6		白	染付〔内面・風景文〕	透明	ロク口	浅い高台	高台高め	17C末～18C前	
72		92号	磁器	仏飯具	肥前	*7.3	3.8	*4.3		白	染付〔外面草花文〕	透明	ロク口			18C代～19C前
73	陶器	碗	瀬戸美濃		*9.7	*4.2	*5.9		淡灰黄緑	〔瀬部紫線4〕	鉄絵・灰釉	ロク口	磨瑠璃、口縁明打皿、高台すり切り痕1	18C前～中		
74	陶器	碗	京都信楽か		*8.8	4.8	6.3		淡緑	色絵、白化化粧・イッタン〔外面文様〔草花〕〕	灰釉	ロク口	乾ノ目高台、中冷腰帯・筒形	18C代		
75	陶器	皿	肥前		*8.0	*3.7			淡乳灰緑	呉須絵〔内面山水文〕	透明	ロク口、削出高台		京焼風陶器、高台高め	17C後	

第6表 陶磁器・土器観察表(4)

観測番号	出土地点	種類	器種	産地	口径〔直径〕cm	底径〔半径〕cm	器高cm	最大幅cm	胎土	文様/加色〔文様内容〕	釉薬	成形技法	器形の特徴	裝飾印・その他の特徴	年代	
第31号	92号	76	陶器	灯明皿	志戸呂	10	4.8	2.2		菊		鉄灰	ロクロ、へつ起こし	口縁タール付着	18C前	
		77	陶器	灯明受皿	志戸呂	6.6	4.4	2.7		菊		鉄灰	ロクロ、へつ起こし	受け部穿2筋面 口縁やや玉縁状、口縁スス付着	18C前	
		78	陶器	鉢	肥前		*11.0	*4.4		菊	三鳥手・白化粧土〔見込み花・よろけ筋文〕	透明・鉄灰	ロクロ、削出高台		18C代	
		79	陶器	徳利	瀬戸美濃		5.8	*14.8	9.2	乳白	〔胴部凹凸刻露山形「上」〕	灰〔淡黄〕	ロクロ、削出高台	やや球胴形		18C前～中
		80	陶器	播鉢	丹波	*28.4		*4.0		暗灰		焼き締め	板作り、輪轆	即日9本/条、口縁印面二等辺三角形	17C後～18C前	
		81	陶器	播鉢	堺	36.9	16.4	14.2		菊		焼き締め	板作り、輪轆	即日9本/条、見込み平滑	18C後～19C前	
		82	陶器	香炉	瀬戸美濃	*14.8	*10.2	5.2	*15.0	暗灰		鉄胎	ロクロ、削出高台	均整	17C後～18C前	
		83	土器	皿		10.8	5.6	2.1		暗灰	見込み偏刻「寿」字、金箔	菊	ロクロ	全面磨き、見込み、底部黒変		
		84	土器	火洗器蓋		23.2	19.8	4		菊			板作り、輪轆	つまみ筋付け、天井ちりめん		
		85	土器	十徳		[30.0]	[16.8]	6.4		淡黄			板・手捏	底部ちりめん		
第32号	93号	86	磁器	碗	肥前	8.2	3.5	4.4		灰白	染付〔外面横文〕	透明	ロクロ、削出高台	こんやく印刷	18C前	
		87	磁器	碗	肥前	*10.0	*4.4	5.5		白	染付〔外面横文〕	透明	ロクロ、削出高台	丸底	底部鉄	18C前～中
		88	磁器	碗	肥前	8	4.2	6.7		白	染付〔外面横文青草、口内四方角、見込み五弁花文〕	透明	ロクロ、削出高台	筒形碗		18C後～末
		89	磁器	香炉	肥前	20.4	*7.8	9		白		青磁	ロクロ	三足	18C代	
		90	陶器	灯明皿	瀬戸美濃	*8.8	*3.0 最大3.4	1.9	9.4			新胎	ロクロ	器司底	見込み目取2、把手1	17C後～18C前
		91	陶器	甕	瀬戸美濃		5	*9.2		淡黄		鉄胎	ロクロ	底部糸切痕		17C後～18C
		92	陶器	播鉢	瀬戸美濃	33.6	14.4	14		灰白			鉄胎		即日17本/条、底部糸切痕、見込み～内面下半部磨減	17C後
		93	土器	皿		9.4	4	1.7		菊			ロクロ	口縁タール付着、底部糸切痕		
		94	土器	火鉢		30.4	22.2	9.5					板作り、輪轆	内面口縁部黒変		
		95	土器	角火鉢		[寛9.2]	[横15.0]						板作り	口縁内面に溝状に突出		
第33号	142号	96	陶器	碗	肥前		5.2	*1.8		淡灰青		透明	筒形手	高台斜目取3、器岡的な打ち欠き	17C代	
		97	陶器	瓶	瀬戸美濃		*13.0	*1.3		淡灰		鉄胎		寸胴形	高台なし	
		98	陶器	瓶	瀬戸美濃			*9.8		暗灰	〔内面鉄質〕	鉄胎・灰釉流し			黒色粘着	17C後
第33号	43号	99	陶器	瓶	瀬戸美濃			*4.6		灰	鉄胎〔外面文様〕	長石釉		志野	～17C初	
		100	陶器	鉢	肥前	*45.0	*10.6	7.2		暗灰	白化粧土〔内面磨存/青草文〕	透明	ロクロ	三鳥手 見込み砂目肌		
		101	土器	焙烙		*34.8		*5.4		菊			型・ロクロ	内耳	立ち上がり高い(約4cm)、外面黒変(又ス付着)	
		102	磁器	皿	肥前		*8.0	*1.5		白	染付〔内面丸(草花)文/草花文、見込み草花文〕	透明	ロクロ		17C末～18C末	
		103	土器	埴壇		*7.0	4.6	7.5		菊			ロクロ		口内側面受状に軽くつまみ上げ	
		104	磁器	碗	瀬戸美濃	11	4.4	5.9		白	青磁〔白口〕	筒頭輪	ロクロ・型			19C後～
第33号	43号	105	磁器	碗	瀬戸美濃	*11.0	3.8	6		白	染付(赤土山・面)	透明	ロクロ		19C後～	
		106	磁器	碗		*10.8	*5.0	5.1		白	染付〔口縁〔外面横文/草花文、見込み草花文〕、口縁内面文様〕	透明	ロクロ		面刺や中皿風	19C後～

第6表 陶磁器・土器観察表(5)

図版番号	館内番号	出土地点	種類	器種	産地	口径〔直径〕 cm	底径〔直径〕 cm	器高 cm	最大幅 cm	胎土	文様/加色〔文 様内容〕	釉薬	成形技法	器形の特徴	銘刷印・その他の特 徴	年代		
第33図	107	43号	磁器	碗		11	3.6	6.3		白	染付・色絵〔外面花・漢文〕	透明	ロクロ		純刷陶器「瀬1534」			
	108		磁器	碗	瀬戸美濃	*7.4		*4.5		白		透明	ロクロ	筒形		19C後～		
	109		磁器	碗		6.4	3	7.2		白	色絵〔外面海浜風景〕	透明	ロクロ	筒形	九谷			
	110		磁器	碗	肥前		*3.7	*4.9		白	染付〔外面草花文、見込み五弁花文〕	透明	ロクロ	筒碗	こんにゃく印判	18C後～		
	111		磁器	杯	瀬戸美濃	*5.7	2.2	3		白	白磁	透明	ロクロ					
	112		磁器	杯		*4.8	2	2.4		白			緑釉	ロクロ				
	113		磁器	鉢		17.2	7.3	6.3		白	黒色・土絵〔外面草花文、見込み文様〕	透明	ロクロ					
	114		磁器	皿	瀬戸美濃	*6.8		*2.1		白	染付〔内面松葉文〕	透明	ロクロ	輪花				
	115		磁器	皿		*13.8	*8.0	*1.9		白	金彩	透明	ロクロ	洋皿	高台段あり端部無釉			
	116		磁器	皿	輸入		*9.2	*1.1		白	染付〔内面山水欄間〕	透明	ロクロ			西洋皿、刷転転写、高台段あり無釉		
	117		磁器	皿	イギリス	17.6	10	1.9		白	〔内面刷転〕	透明	ロクロ	輪花		ROYAL IRONSTX (ONE)/王冠マーク/JOHNSON BROS/ENGLAND、底面無釉、体部外面ハリ支え		
	118		磁器	皿		19.4	8.8	2.9		白	染付雪隠刷〔外面花邊、内面窓紙(明輪/松竹梅)、見込み松竹梅〕	透明	ロクロ	虎ノ目輪酒ぎ高台				
	第34図		119	磁器	皿	輸入か	*21.0	*10.6	*2.1		白	染付雪隠刷〔外面花邊、内面窓紙(明輪/松竹梅)、見込み松竹梅〕	透明	ロクロ	西洋皿、輪花	高台無釉		
			120	磁器	皿			7	*2.4		白	染付〔外面花文、内面風景、漢文〕	透明	ロクロ・型打	内皿			
			121	磁器	皿	瀬戸美濃	7.6	3.4	2.4		白	黒色〔内面輪花・松葉文〕	透明	ロクロ				
			122	陶器	碗	万古	7.2	4.4	7.6		淡乳陶	イッパン〔外面文字文〕	透明・鉄釉	ロクロ	筒形	底面露丸輪「万」85、純刷陶器		
			123	陶器	杯		*7.0	3.8	3.9		淡乳陶	金彩〔外面菊文〕	透明	ロクロ	碗形			
			124	陶器	鉢		*15.4	*9.4	8.9		淡乳陶		透明	ロクロ	折鉢	底面露丸、口縁内面又ス付着、見込み目磁		
125		陶器	土師器			5.2	3	8.2	淡乳陶	土絵	透明・白化粧土	ロクロ						
126		陶器	瓶	信楽か	2.7	4.5	9.3		淡乳陶	〔外面文様〕	灰釉・白化粧土	ロクロ	直立徳利	胎土鉄分粒顕著				
127		陶器	甕	常滑			*4.3		暗灰		焼き締め	輪横						
46号	128	磁器	碗	瀬戸美濃	*10.4	3.8	5.5		白	人造コバルト・鉄絵染付、刷転転写〔シタウ、明点〕	透明	ロクロ			20C前～			
	129	陶器	蓋物器		[3.8]	[3.7]	2		緑		クロム青磁	板作り	方形扁形					
	130	土器	浴炉					*8.6	淡灰陶			ロクロ	筒形		胎土良好(水漏)			
	131	陶器	皿	瀬戸美濃	*9.5				暗灰			長石釉	ロクロ		志野、見込み・底面焼台跡、高台無釉			
	132	陶器	灯明皿	瀬戸美濃	11.2	4.4	2.1		暗灰陶	〔内面染線3〕		灰釉	ロクロ		見込み目磁			
	133	陶器	灯明受皿	瀬戸美濃	*10.8	*3.2	*1.5		淡灰			灰釉	ロクロ					
134	1-2区	土器	土師器	甕	[*7.0]	[*3.0]			黒灰		表面暗灰陶	輪横						

第6表 陶磁器・土器観察表(6)

国庫 番号	出土 地点	種別	器種	産地	口径〔 軸〕cm	底径〔 軸〕cm	高さ cm	最大幅 cm	胎土	文様・加色〔文 様内容〕	釉薬	成形技法	器形の特徴	銘刷印・その他の特 徴	年代	
第 34 号	1-6 区	土器	瓶口		〔*10.3〕	〔*8.8〕	5.5		黒			板作り				
			陶器	片口	瀬戸 光造	*10.6	4.7	3.9		淡灰 黒		灰釉	ロクロ			
	1-7 区	陶器	風印 ?	瀬戸 光造	*9.8		*4.0					表面硝 釉	ロクロ	球刷形		
			陶器	皿	瀬戸 光造				*1.1	乳白	鉄絵		長石釉	ロクロ	内面文様	
第 35 号	2区	磁器	鉢		*16.0	*10.0	7		白	染付〔外面文様〕	透明	ロクロ	蛇ノ目形 高台			
			磁器	皿	瀬戸 光造	12.6	7.4	2.4		白	染付・刷絵転写 〔内面草文〕	透明	ロクロ			
			土器	埴輪壺		6.6	4.4	7.3		黒				ロクロ		底部糸切痕
	3区	磁器	皿		16	9.2	3.5		淡灰	染付〔外面花文、 内面花唐草文、 反込み文様〕	透明	ロクロ				
	3-1 区 掘瓦	磁器	皿	肥前	13	5	2.8		白	青白磁	透明	ロクロ・ 型	内面蓮弁文		17C中	
	3-11 区	磁器	衛生 陶器						白						マーク丸印地球儀 に類〔TOYO/TOKI/ CO.LTD.〕	
	4区	磁器	碗	中国 か	*15.4		*4.5		白	色絵〔外面口縁 文様帯、外面唐 草文、内面口縁 文様帯格子〔花 文〕〕	透明	ロクロ				
			磁器	杯	中国 か	*6.0		*2.4		白	染付〔外面ナブ ナ文〕	透明	ロクロ	口縁外反		
		陶器	灰落し	瀬戸 光造		*7.0	*2.0		淡灰 黒	色絵		灰釉	ロクロ	脚部凹み、 蛇ノ目高台、 内面無釉	底部黒書	
			土器	水壺か		〔*7.0〕	〔*4.3〕	*2.8		黒灰			板作り	刷付文〔花〕	外面キラ	
		土器	タン コロ		4.3	3.2	1.5		淡黒				ロクロ		灯芯支えスス、底部 糸切痕	
土器		埴輪壺		5.6	3.8	4.5		黒				ロクロ		外面ピンク、底部糸 切痕		
土器		埴輪壺		*6.0	*6.0			黒				板作り	内面布目	白色顔料子		

## 2) 土製品(第36図 第7・8表)

土製品は、人形、および非実用の器物(玩具、箱庭道具、器物など)のこととする。また、磁器、陶器の同様の製品も「土製品」の範疇で区分する。数量的には、総点数72点、総重量398.5gと、少量の出土であり、出土遺構数も少ない。10点以上の出土遺構は、8号(12点)、92号(13点)、126号(13点)である。各遺構の種別数量は、土製品地点別器種別数量表による(第7表)。

土製品は、上記に示したように、人形と器物に大別する。人形は、人物(男子像・婦人像・僧侶・虚無僧・獅子舞など)、動物(ネコ・サル・トリ・イヌ・キツネ・ウマ・ウサギ・ネズミ・サカナ・カメなど)、神像等(布袋・大黒・福祿寿・狛犬・ぶら人形など)とし、器物は、玩具・ままごと道具(陶磁器・土器種別と同等:碗・皿・鉢・瓶・土瓶・土鍋・七厘・焔炬・籠・鉄瓶など)、玩具・遊具(泥面子・おはじきなど)、箱庭道具(石塔・塔・灯笼・家屋・橋など)、器物(土鈴・獅子頭・鳩笛・面など)とする。大多数は土器肌であるが、個体・破片によっては、本来の彩色(胡粉・彩色・キラ)を残すものも認められる。主な成形技法は、以下に区分できる。成形技法ごとに、出土遺物の内容を記載する。

【型押し成形】 凹状の型に粘土を押し付け成形する。表裏2個の型を用いる場合は、内部に空間

第7表 土製品地点別種別数量表

出土地点	種別	時期	人形			玩具			器物			その他			陶器			点数小計 遺物小計	補記・備考	
			点数 遺物	僧侶/ 遶摩	魚に 乗る 人物	動物	人形/ 不明	まま ごと	おは じき	竈 屋	悪 面 など	不明/ 破片	馬・ 人物	婦人	おは じき/ 肥前	容器・ 蓋	まま ごと/ 胎			人形/ 人物/ 胎・ 実
8号	土器	[江戸]	点	1	1	2	4	1					2	1				12	人形・動物：犬・鳥 玩具・ままごと：皿 器物：土鼓	
			g	25.60	7.82	8.85	6.00	0.75					12.70	0.70				62.42		
17号	土器	[江戸]	点				1											1		
			g				3.0											3.00		
35号	土器	[江戸]	点	1				1										2		
			g	2.23				3.06										5.29		
38号	磁器	[江戸]	点												1			1		
			g												1.0			1.00		
	陶器	[江戸]	点														1	1	人形・人物：童子	
			g														14.5	14.50		
43号	土器	[江戸]	点			1			1									2	人形・動物：鳥	
			g			10.17			2.00									12.17		
	磁器	明治	点								1	1		1				3		
			g								11.85	13.32		2.07				27.24		
48号	土器	[江戸]	点					7		1								8	ままごと：甌・土瓶	
			g					13.9		9.34								23.24		
50号	土器	[江戸]	点				1											1		
			g				1.93											1.93		
51号	土器	[江戸]	点	1	1													3		
			g	13.36	4.09													4.04		
79号	土器	[江戸]	点					1										1		
			g					6.72										6.72		
80号	土器	[江戸]	点			1												1	人形：魚	
			g			2.08												2.08		
81号	土器	[江戸]	点					1					1					2	ままごと：甌	
			g					2.36					4.90					7.26		
84号	土器	[江戸]	点		1													1		
			g		7.69													7.69		
85号	土器	[江戸]	点	1														1		
			g	5.54														5.54		
91号	土器	[江戸]	点	1														1		
			g	7.14														7.14		
92号	土器	[江戸]	点	8														8		
			g	88.18														88.18		
93号	土器	[江戸]	点			1										1		2	人形：鳥	
			g			31.1									0.59			31.69		
119号	土器	[江戸]	点			2		1										3	人形：猫	
			g			11.77		5.16										16.93	ままごと：土瓶	
126号	土器	[江戸]	点			2		7					3					12	人形：魚	
			g			5.31		30.92					8.16					44.39	ままごと：七厘	
130号	土器	[江戸]	点					1	1									2	ままごと：土瓶	
			g					0.49	2.22									2.71		
-坑	土器	[江戸]	点										2					2		
			g										10.80					10.80		
種別総点数/総点数			12	3	1	9	7	19	2	1	1	8	1	1	1	1	1	1	70	
種別総重量/総重量			116.45	37.38	7.82	69.28	17.65	56.64	4.22	9.34	4.9	35.7	0.7	11.85	13.32	1	2.07	0.59	14.5	403.41

をもつ製品（中空）と、あるいは内部に空間をもたない製品（中実：粘土で充填される）がある。中空の製品は、底部が開放するもの、と閉塞するものがある。

一面のみ型の場合は、文様は一面のみで、中実である。裏面は、指押し成形痕などの粗い成形が残り、おおむね平坦な場合が多い。

前者は、近世に比定できる土器製の人形に多く、種別では、動物・犬（第36図1：8号/中空、胡粉彩色《茶・緑》：以下、図番号は省略）、人物・魚に乗る人物（同3：8号/中空）、同・僧侶（同4：8号/中空、座像）、同・僧侶（同12：84号/中実、底部穿孔）、同・僧侶か（同14：92号/中空、座像、底部閉塞）、同・婦人（同15：92号/中空、座像）などが認められる。

後者は、サカナなどにみられ、本調査地点では、悪面など（同7：51号/人面か、同9：51号/不明、同11：81号/悪面）がある。

陶器人形(同21:43号)は、中空、唐子。灰釉・鉄絵。京・信楽産と考えられる。近世の製品か。  
磁器人形(同18:43号)は、白磁、中空、婦人立像、纏をもつ。近代の製品と考える。

器物・玩具では、ままごと道具は、鉄瓶(同5:35号)、碗(同10:81号)、七厘(同17:126号)、  
他には、瓶(93号)がある。磁器ままごと道具は、白磁蓋(同20:43号)があり、これも同様に  
型押し成形と考えられる。近代の製品と考えられる。その他、玩具・遊具・おはじき(同19:43号)  
も同様にこの製法である。おはじきは、他に130号周辺から1点出土している。泥面子は、認めら  
れない。

【型打ち成形】 凸状の型に粘土を貼り付け成形する。裏面(凸面)は、指押し成形などの粗い成  
形痕が残る。而型がこの製法であるが、本地点からの出土はない。

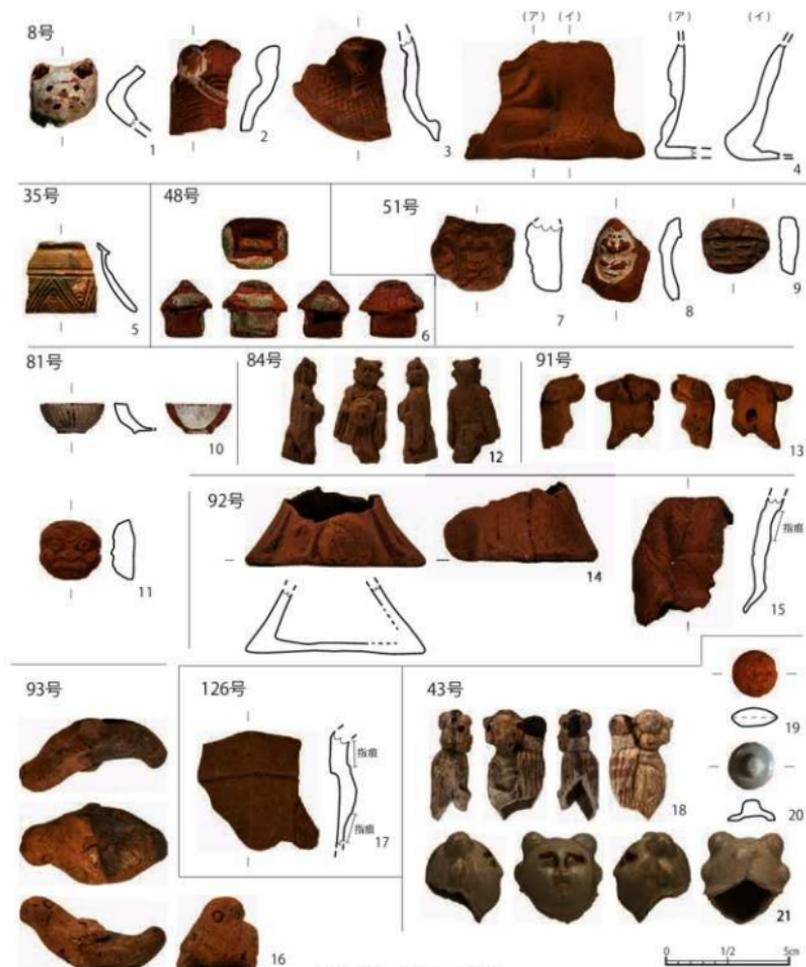
【手捏】 型を用いず、粘土をひねり成形する。人形・人物・力士か(同13:51号)、人形・動物・  
鳥か(同16:93号)である。

【板作り】 粘土を板状に成形し、それを張り合わせ作成する。器物・箱庭道具・家屋(同6:48号)  
がある。箱庭道具は、1点のみの出土である。同左は、藁葺き屋根の家屋で、胡粉、彩色(緑)が施  
される。

【陶磁器円板状加工品】 38号より1点出土している。磁器染付碗胴部片で外周を研り円板状に  
加工したものである。おはじきか。

第8表 土製品観察表

陶器 番号	類別番号	出土 地点	種別	器種	器形	高さ cm	長軸 cm	短軸 cm	高さ 厚み cm	制作技法	胎土	特徴
第 36 号	1	8号	土器	人形	犬	5.37	2.8	2.8	*1.5	型 中空	陶	胡粉、茶、緑
	2		土器	人形	動物か	7.33	*3.6	*2.5	*1.7 *0.9	型 中空	陶	胡粉、太鼓か
	3		土器	人形	魚と人物	7.82	*4.3	*3.7	*1.6 *0.6	型 中空	陶	
	4		土器	人形	人物	25.6	*7.3	*2.2	*4.7	型 中空	陶	座像
	5	35号	土器	玩具	ままごと	3.06	口径*2.4	底径*7.2	*1.5	型	乳灰陶	鉄絵、外面文様、黄、緑
	6	48号	土器	玩具	箱庭	9.34	2.7	2.2	2.4	手捏	陶	藁葺き家屋、胡粉、緑
	7	51号	土器	人形	だるま	4.09	*3.5	*2.9	*0.8	型 中空	陶	胡粉、黒
	8		土器	人形	人物	13.36	横*3.4	縦*3.1	*1.5	手捏、型 中空	暗褐色陶	
	9		土器	器物	不明	4.04	横*2.7	縦*2.4	0.8	手捏、型	暗褐色陶	
	10	81号	土器	玩具	ままごと	2.36	口径*2.6	底径*1.0	*1.2	型	陶	碗、胡粉
	11		土器	玩具	墨面	4.9	2.5	2.5	0.9	型	陶	
	12	84号	土器	人形	僧侶	7.69	*4.3	*2.2	1.6	型 中空	淡灰陶	底部中央穿孔
	13	91号	土器	人形	人物	7.13	*2.8	*2.7	*1.6	手捏	陶	座像か
	14	92号	土器	人形	人物	48.64	*7.5	*6.3	*3.2	型 中空	陶	立像か
	15		土器	人形	人物	11.63	*4.8	*3.5	*2.0	型 中空	黒灰・陶	座像か
	16	93号	土器	人形	鳥	31.1	*5.9	*3.3	*2.7	手捏、中空	陶	
	17	126号	土器	玩具	ままごと	11.31		幅*4.1	*4.8	手捏	陶	七厘
	18	43号	磁器	人形	人物	13.32	*4.6	2.5	1.8	型 中空	白	婦人立像(まとい)、茶・緑、19 C後～
	19		土器	玩具	おはじき	1.83	2	2	0.7	手捏	陶	
	20		磁器	玩具	ままごと	2.07	1.9	1.9	0.8	型	白	容器蓋、19 C後～
	21		陶器	人形	人物	14.5	3.8	3.7	*3.2	型	顔戸・美濃?	灰釉、鉄絵、唐子



第36図 土製品 (1/2)

## 3) 瓦 (第37図 第9・10表)

瓦は、調査時点で小片について選別したうえで廃棄しているため、数量はあくまでも採集したもの  
の数値であり、極めて限定的である。瓦当文様のある破片については、基本的に採取の対象にし  
ている。出土内容については、地点別種別数量表(第9表)を参照。

近世瓦では、軒丸瓦は38号のみにみられた。丸瓦は、38号、43号（5点）、55号、85号、92号、93号（2点）、122号、137号、145号、その他調査区一括（第37図5：計4点）にみられる（カッコ内点数を表記した以外の遺構は1点）。平瓦（一部棧瓦片含む）は、35号、38号（2点）、43号（5点）、48号（10点）、51号（2点）、56号、74号、92号（同1）、93号（8点）、119号、137号、

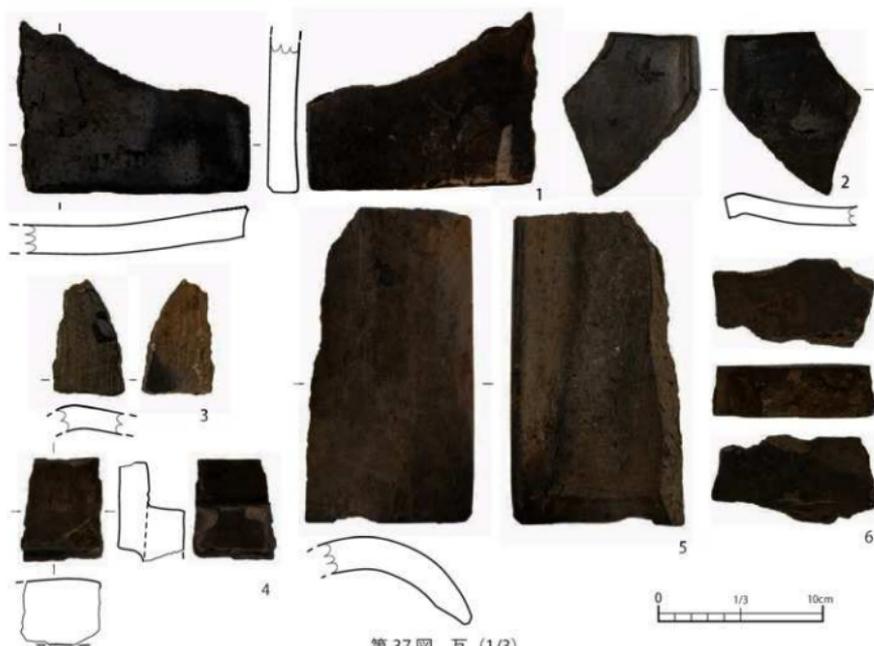
第9表 瓦地点別種別数量表

川土地点	時期	点数 重量	種別										点数小計 重量小計	備考			
			軒丸	軒棧/石棧	丸	平	棧	棧/文字	ナマコ・ 敷	瓦	種	その他/ 破片					
35号	江戸	点				1										1	
		重				53.5										53.5	
38号	江戸	点	1		1	2					1					5	
		重	538.5		67.0	233.5					174.5					1013.5	
43号	江戸	点			5	5	3									13	
		重			536.5	386.5	429.0									1352.0	
43号	明治	点					2									2	
		重					130.5									130.5	
46号	明治	点					1									1	
		重					40.5									40.5	
48号	江戸	点				10										10	
		重				664.0										664.0	
51号	江戸	点				2										2	
		重				34.0										34.0	
55号	江戸	点			1											1	
		重			235.0											235.0	
56号	江戸	点				1										1	
		重				97.0										97.0	
74号	江戸	点				1										1	
		重				27.0										27.0	
85号	江戸	点			1											1	
		重			101.5											101.5	
87号	江戸	点			1											1	
		重			29.0											29.0	
90・93号	江戸	点												1		1	
		重												4.5		4.5	
92号	江戸	点			1	1						1	1			4	
		重			127.5	299.0						103.0	23.0			552.5	
93号	江戸	点			2	8										10	
		重			138.0	613.5										751.5	
119号	江戸	点				1										1	
		重				8.0										8.0	
122号	江戸	点			1											1	
		重			139.5											139.5	
137号	江戸	点			1	1										2	
		重			81.0	89.5										170.5	
145号	江戸	点			1											1	
		重			55.0											55.0	
1-7区櫓瓦	江戸	点					2	1								3	
		重					306.0	57.0								363.0	
1-7区櫓瓦	明治	点					1					1				2	
		重					148.0					165.5				313.5	
2区表土一括	江戸	点			1	5										6	
		重			76.5	773.5										850.0	
2区表土一括	明治	点				3										3	
		重				315.5										315.5	
3-1区櫓瓦	明治	点				6										6	
		重				744.5										744.5	
3-1区櫓瓦	明治	点				14						4				18	
		重				1886.0						551.5				2437.5	
3区表土一括	江戸	点			1	2		3								6	
		重			46.0	330.0		57.5								953.5	
3区表土一括	明治	点				45					1	1				47	
		重				4461.0					379.0	223.0				5063.0	
4区表土一括	江戸	点			2											2	
		重			877.5											877.5	
4区表土一括	明治	点			1											1	
		重			126.0											126.0	
総別種点数/総重量	点	1	1	19	38	82	1	1	1	1	7	2				153	
総別種重量/総重量	重	538.5	126.0	2510.0	3015.5	9641.0	57.0	174.5	379.0	1043.0	27.5					17512.0	

その他調査区一括（2点）である（同上）。瓦全般に言えることは、小片が多く、また一括廃棄の状況を示す遺構は認められないものの、当地での使用の是非を示す資料と考える。但し、これらが本葺屋根の存在を示すものとするか否かは不詳である。

その他、棟瓦（同6）は、92号、調査区一括の2点認められた。また、敷瓦（ナマコ瓦：同2）は1点のみである。棧瓦文字資料（同3）としたものは、凸面に記号（もしくは文字）の印刻がみられるものである。

近代瓦としたものは、棧瓦の場合、凹面に端部に平行する複数の条線をもつもの。また、表面は黒色の色調（くすべ焼き）で、かつ金属質の光沢を示す。軒棧瓦の瓦当部分は文様（三つ巴など）をも



第37図 瓦 (1/3)

第10表 瓦観察表

採回番号	別体番号	出土地点	時期	器種	胎土	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	重さ (g)	高さ・厚み (cm)	備考
第37図	1	92号	近世	平瓦	黒灰	*10.6	*13.8	298.8	高さ*3.0 厚み1.8	凹面黒化、胎土光沢強粘合瓦
	2	3区	近代	棧瓦	黒灰	*10.1	*8.2	125.1	厚み1.55	表面黒化
	3	1・7区散瓦	近代	棧瓦	灰	*7.1	*4.2	57.2	厚み1.60	凸面彫刻調整痕、記号（文字か）
	4	92号	近世	棟瓦	灰	*6.1	*4.7	103.0	高さ4.1	凸面彫刻調整痕、記号（文字か）
	5	4区	近世	丸瓦	黒灰	*18.9	*10.8	557.0	高さ*5.2 厚み2.40	凸面黒化
	6	38号	近世	敷瓦	黒灰	*9.5	*4.92	174.7	厚み3.42	表面黒化

たず、円形で球面の「丸十」、円形で平坦な「石持」である。棧瓦は、おおむね近代のものである。

近代瓦についても、近世瓦と同様の状況である。明治7年(1874)軍用地として接収された以降の利用のあり方を考えた場合、当地の建物の有無あるいは配置など詳細は不明であるが、少なからず用地内の建物の存否を考えるうえでひとつの傍証と見なす。

#### 4) 石製品(第38・39図 第11・12表)

石製品は、総数35点、総重量1,927gである。種別数量は、硯:4点/664.5g、砥石:12点/728.5g、燧石:2点/5.5g、石塔か:2点/359.5g、石板:8点/31.5g、その他石片:7点/137.5gである。砥石が、総数のなかでは多い。本調査では、岩石種・石材の同定は行っていないため、肉眼的な識別で個体の記載を行う。出土内容については、地点別種別数量表(第11表)を参照。

硯は、4点出土している。8号は、色調は黒色(粘板岩か)で、海部の端部片である。81号も同様に、色調は黒色(粘板岩か)で、陸部緑帯の破片である。92号(第38図10)は、陸部から海部にかけての個体であり、両側面端部および海端部の一部が残る。色調は、アイボリーである。但し、片側が大きく黒色を呈していることから、火熱による変質(直に火を受け、ススが付着)と考えられる。裏面は、剥離する。2区一括(第39図14)は、緑帯を欠損するがおおむね完形の個体である。色調は、黒色(粘板岩か)を呈する。陸部裏面は、方形の凹みを有する。

砥石は、12点出土している。29号(第38図1)は、一端が破損。断面は片刃状の楔形(一端扁平で先細り)。色調は、淡ベージュ。褐色の粒子が顕著に認められる。黒色粒を疎に含む。砥面は2面2側面。51号(同5)は、立方体で、一端は破損。色調は、淡アイボリーで、表面に鉄分の付

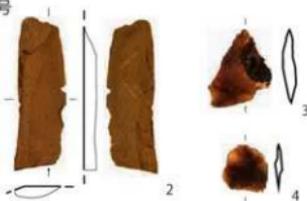
第11表 石製品地点別種別数量表

出土地点	時期	点数 重量	種別						その他 破片	地点別 数量小計	備考
			硯	砥石	燧石	石板	石塔				
8号	江戸	点	1						1		
		g	14.5						14.5		
29号	江戸	点		1					1		
		g		75.5					75.5		
35号	江戸	点		1	2				3		
		g		10.5	5.5				16.0		
38号	江戸	点		1				1	2		
		g		8.66				2.84	11.5		
48号	明治	点				6		2	8		
		g				27.0		95.0	122.0		
51号	江戸	点		1					1		
		g		69.5					69.5		
明治	江戸	点				2			2		
		g				4.5			4.5		
55号	江戸	点		1					1		
		g		89.5					89.5		
79号	江戸	点		3					3		
		g		3.5					3.5		
81号	江戸	点		1					1		
		g		5.0					5.0		
86号	江戸	点		1					1		
		g		93.5					93.5		
92号	江戸	点		1	2			3	6		
		g		131.5	272.5			31.0	435.0		
93号	江戸	点		2					2		
		g			114.0				114.0		
119号下層	江戸	点					2		2		
		g					359.5		359.5		
2区表土一括	江戸	点		1					1		
		g		513.5					513.5		
種別総点数/総重量			4	13	2	8	2	6	35		
種別総重量/総重量			664.5	737.16	5.5	31.5	359.5	128.84	1927.0		

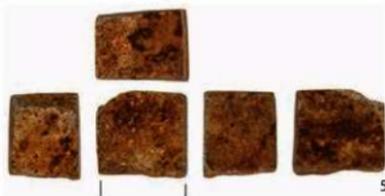
29号



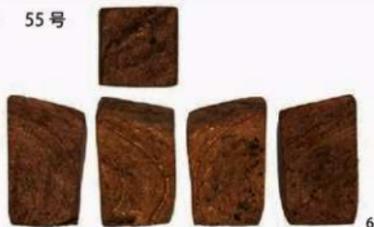
35号



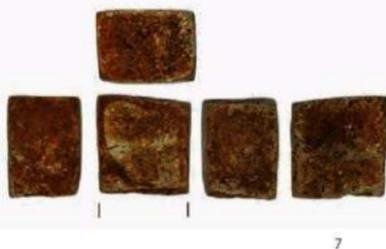
51号



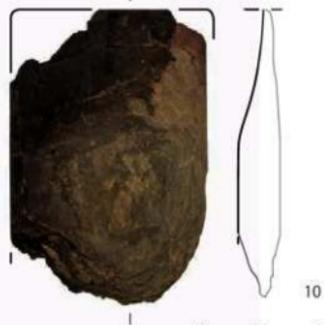
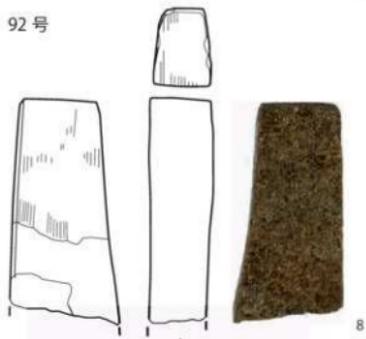
55号



87号

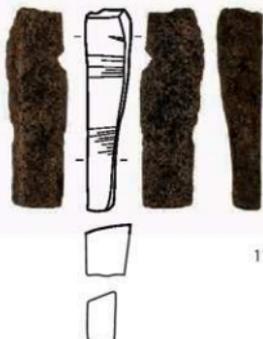


92号



第38図 石製品 (1) (1/2)

93号



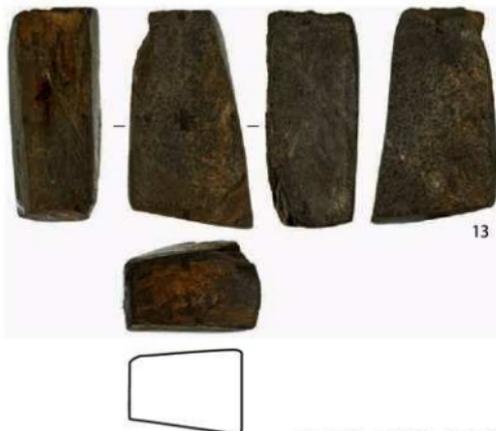
11

119号下



12

6区一括



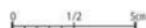
13

表採



14

第39図 石製品(2)(1/2)



第12表 石製品観察表(1)

採回番号	個別番号	出土地点	器種	色調	形状	平面	長軸長 cm	短軸長 cm	高さ (厚み) cm	重量 g	備考
第38回	1	29号	礫石	淡ベージュ	扁平立方体	2面2側面	*6.3	3.6	2.4	75.46	一端破損、断面残る、刃先ややザラつく
	2	35号	礫石	淡褐色	薄片	1面	*5.3	*2.0	*0.8	10.55	断面キメ細かい
	3	35号	礫石	淡褐色	薄片		*3.4	*2.8	*0.8	3.76	チャートか
	4	35号	礫石	淡褐色	破片		*2.2	*1.9	*0.5	1.59	チャートか
	5	54号	礫石	淡アイボリー	立方体	2面3側面	3.6	*3.5	2.9	69.48	表面磨分、一端破損、断面滑らか
	6	55号	礫石	淡ベージュ	立方体	2面3側面	5.15	*3.0	3.1	89.55	一端破損、全体ピンク、木目状の縞
	7	87号	礫石	暗灰から灰	立方体	1面	*3.6	3.7	2.9	93.59	一端破損、断面滑らか
	8	92号	礫石	淡青灰	立方体	1面	*9.2	2.56	4.2	159.84	2側1端断面口、断面滑らか
	9	92号	礫石	黒灰	立方体	2面3側面	8.2	2.9	3.0	112.54	一端欠損、断面滑らか
	10	92号	産	アイボリー	楕円欠損		*10.3	*6.75	*1.6	131.56	裏面割離、一部黒変(焼熱)
第39回	11	93号	礫石	淡灰	楕円立方体	2面	*8.2	2.7	1.8	48.83	1側面V字状の切り

第12表 石製品観察表(2)

図号	図号	出土地点	器種	色調	形状	平滑面	長軸長 cm	短軸長 cm	高さ (厚み) cm	重量 g	備考	
第39図	12	119下層	塔か	燧灰、白色粒子	扁円形		*7.8	*7.0	*4.2	275.22	外面黒変(焼熱)	
	13		縦	黒青灰	縁部欠損		16.7	7.6	2.1	513.42	劈断面縁部残し、方形の浅い凹み	
	14		砥石	黒		2面3側面		*8.8	4.1	3.6	245.93	一端破損、砥面滑らか
未掲載	8号	縦	黒灰	縁部残存			*5.3	*3.3	*0.8	14.61	縁部「コイ」か	
	35号	円盤	黒				*5.5	*3.2	*4.0	62.09	自然磨・赤化(焼熱)	
	38号	砥石	アイボリー		1面1側面		*5.6	*2.3	*0.6	8.66		
	48号	板状割片	燧灰				*2.6	*2.3	*0.2	2.84		
	48号	磨	灰				*8.7	*2.0	*2.6	45.87	自然磨	
	48号	磨	灰				*6.0	*3.3	*2.05	47.87	自然磨	
	48号	石板	黒灰				*5.5	*5.1	*0.35	9.98		
	48号	石板	黒灰				*6.75	*2.7	*0.3	8.66		
	48号	石板	黒灰				*4.2	*2.55	*0.2	2.36		
	48号	石板	黒灰				*3.7	*2.6	*0.35	2.66		
	48号	石板	黒灰				*3.25	*2.3	*0.35	2.71	表面滑らか	
	48号	石板	黒灰				*3.1	*1.15	*0.15	0.49	表面滑らか	
	51号	石板	黒灰				*3.5	*2.5	*0.3	4.01		
	51号	石板	黒灰				*1.55	*1.15	*0.3	0.60		
	79号	砥石	ベージュ	板状割磨				*3.4	*1.25	*0.6	2.07	
	79号	砥石	ベージュ	板状割磨				*3.2	*1.2	*0.45	1.14	
	79号	砥石	ベージュ	板状割磨				*1.8	*0.8	*0.2	0.25	
	81号	縦	黒灰	縁部				*5.0	*4.1	*6.05	5.21	
	90号	円盤	黒灰	破片				*6.35	*3.9	*2.3	85.09	自然磨・外面赤化(焼熱)
	90・93号	磨	灰	不整形				*6.3	*3.5	*2.1	49.14	自然磨
	91号	磨	灰	破片				*1.8	*1.3	*0.4	0.84	滑石か
	91号	縁状	灰	破片				*1.2	0.5	0.5	0.49	滑石か
	92号		灰(燧)	破片				*5.95	*4.0	*1.5	21.83	
92号		黒青灰	破片		1面		*3.0	*2.0	*0.8	6.96		
92号		黒青灰	破片				*3.1	*1.4	*0.45	2.40		
93号		黒白	破片				7.1	*4.0	*2.3	65.27	自然磨	
119号下層	塔か	燧灰、白色粒子	扁円形				*6.6	*3.3	*3.35	84.00	外面黒変(焼熱)	

着がみられる。砥面は2面3側面、それぞれ平滑。55号(同6)は、台形状の立方体(一端が斜め)で、一端は破損。色調は、淡ベージュで、天草砥石(流紋岩)に似る木目状の縞(褐色・白色)がみられる。砥面は2面3側面、それぞれ平滑。87号(同7)は、立方体で、一端破損。色調は、アイボリーで、黒色粒が多くみられる。表面は、鉄分の付着が著しい。砥面は1面で平滑。92号(同8)は、一端が破損。色調は、淡青灰色。平面形は片側面がやや湾曲する台形状、断面形は長方形。砥面は、1面で浅く凹状に湾曲し、滑らかである。3側面に切り出し痕がのこる。92号(同9)は、一端が破損、一面の一部が剥落欠損。断面形は、おおむね正方形。色調は黒灰色で、砥面は1面で滑らか。93号(第39図11)は、端部の欠損なし。色調は、淡灰色で、砥面は2面であり、1面は他端へ湾曲しつつ薄くなる。1側面にV字状の挟りがある。砥ぎ部として使用か。6区一括(同13)は、一端欠損。平面形は一端が斜めの台形状、断面形は長方形。色調は、淡灰色で、砥面は2面3側面。砥面は、湾曲せず、平坦・平滑である。砥石片と考えられるものには、他に板状の小割片が認められる。

その他、石板は8点出土しており、黒色の粘板岩(雄勝石か)である。48号、51号から出土している。燧石は、35号からのみ2点出土している(第38号3・4)。チャートと考えられる。石塔としたものは、側面が円弧状に湾曲し、上下面がおおむね平坦面である。色調は暗灰色で、白色粒が顕著に認められる。

#### 5) 金属製品(第40図 第13・14表)

近世の製品は、銭貨(寛永通宝)、煙管(雁首・吸い口)、鉛玉、小柄、鎌、包丁、釘、銅製容器・蓋などである。出土内容については、地点別種別数量表(第13表)を参照。

鉛玉は、35号(第40図2)、38号(同図3)、92号(同13)の計3点出土している。表面は、

腐食し暗灰白色を呈する。火縄銃の弾丸か。弾丸であれば、破裂したような痕がないので未使用と考えられる。

銭貨は、92号より1点のみ出土。全体の1/3程度の遺存で、裏面文字「通」のみが判読。寛永通宝。

煙管は、5点出土している。吸い口は35号(第40図1)、48号(同4)、93号(同16)、4区一括(同19)、雁首は4区一括(同18)である。35号、93号吸い口は、ラウとの接合部が円筒形を呈し、一段設けた上で、先細りする形状である。48号、4区一括吸い口は、ラウとの接合部から先端まで膨らみを減少しつつ先細りする吸い口が接続する。4区一括雁首は、火皿が半球状に独立し、管と接合する形状である。

包丁(同17)は、93号1点のみである。先端を欠損し、茎は短い残す。鎌(同5)は、48号の1点のみである。刃部は摩耗し短い。小柄(同11・12)は、92号より2点出土している。第40図11は、刀身を半分以上欠損する。茎は、長めである。同12は、刀身を欠損し、茎のみである。

銅製容器蓋(同14)は、93号より1点出土。中央に球状のつまみをもつ。身との受部は、高さ(幅)が低い。円筒状の容器に被せる蓋と考えられる。また、銅製容器(同15)も93号より1点出土。球面状の皿形の形状である。93号では、以上2点に関係する板状の銅片が多数出土している。

釘は、222点出土している。主な遺構は、48号(134点:同6~9)、49号(2点:同10)、51号(9点)である。ほぼ角釘で、頭部を残すものは少ない。

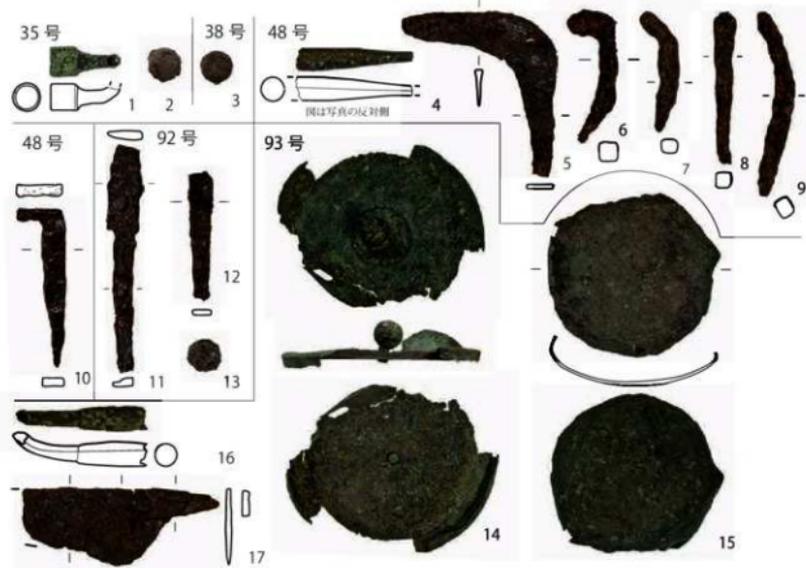
近代の製品は、銭貨(一銭銅貨・五銭銅貨など)、鋏、金具、水道メーター蓋などが認められる。銭貨は、総数5点確認している。種別では、以下が確認できる。一銭銅貨(43号:2点)は、2点とも法量値は同じである。径24mm・厚み2mm・重さ3.2g。表裏図案は、表:中央「一銭」/外周:菊花・唐草文、裏:「大日本」/五三の桐/「大正十〇年」である。一点は、「一銭」はかるうじて判読できるが、発行年は不詳。穴あき銭は、五銭銅貨かと理解できる。43号(1点:径21mm・厚み2mm・重さ3.2g)、4区一括(1点:径19mm・厚み2mm・重さ2.2g)の2点である。その他、4区一括に表裏図案は不明瞭な1点がある。法量値(径28mm・厚み2mm・重さ2.2g)より五十銭硬貨と考えられる。

第13表 金属製品地点別種別数量表(1)

出土地点	点数 種類	種別														点数小計 重量小計	種別内容・備考			
		鉄 不明	銅 蓋・容 器など	銅 板状	銅 棒状・ 管状	銅 板片	鉄 釘	銅 釘	銅 ネジ	小柄 鎌 包丁	鋏	煙管 吸口	煙管 継ぎ	銭貨	止め 金具			金具	その他	
1号	点数 g	1 2.6															1 2.6			
2号	点数 g																1 194.4	1 194.4	水道メーター(1)	
10号	点数 g																2 6.0	2 6.0	鉄線(2)	
17号	点数 g						1 2.5												1 2.5	
26号	点数 g						1 5.3												1 5.3	
35号	点数 g	1 6.7								1 10.4		1 4.9							3 22.0	
38号	点数 g									1 11.2									1 11.2	
43号	点数 g	6 3.8						7 13.6						3 9.7	1 7.5	1 4.7	2 17.7	20 57.0	じょうろ口(1)、 銭貨:一銭、銅:鋏(1)	
43号炭化物 集中範囲	点数 g		2 16.7	41 77.6		29.0 8.5			2 7.1	5 3.2								1 35.8	80 148.9	ボルト(1)

第13表 金属製品地点別種別数量表(2)

出土地点	点数	種別													点数小計	種別内容・備考					
		鉄板状	鉄不明	銅器・容器 器台等	銅板状	銅棒状・管状	銅板片	鉄釘	銅釘	銅小片	小柄鎌 包丁	銅玉	銅管 管口	銅管 管首			銅管	止め 金具	金具	その他	
48号	点数 R				1	3	16.0	134					1	1				156	鉄・鎌(1)		
49号	点数 R				0.3	1.6	1.9	219.1	2				28.9	4.8				256.6			
50号	点数 R							8.5	1									8.5			
51号	点数 R							2.1										2.1			
51号	点数 R				1			9									3	13	鉄・円板状(加か:2).		
55号	点数 R				5.6			15.7									23.9	45.2	鉄・匙(1)		
55号	点数 R							1				1					2	6.7	鉄・小柄(1)		
56号	点数 R							1				5.3					6.7				
64号	点数 R							1.3										1.3			
64号	点数 R							1										1			
68号	点数 R							1.3									1	1.3			
72号	点数 R							3								1		3			
72号	点数 R							4.6								2.1		4.6			
79号	点数 R	1																1			
79号	点数 R	18.5																18.5			
81号	点数 R							3										1	4		
81号	点数 R							8.1										0.3	8.4	鉄・平管状(1)	
82号	点数 R							2										1	3		
82号	点数 R							6.3										3.2	9.5	鉄・釣り針状(1)	
85号	点数 R							1											1		
85号	点数 R							4.2											4.2		
87号	点数 R							2										2	2	銅・弾丸状(1).鉄・匙(1)	
87号	点数 R							2										16.8	16.8		
88号	点数 R							2.3											2.3		
90-93号	点数 R							2											2		
90-93号	点数 R							2.0											2.0		
91号	点数 R							1											1		
91号	点数 R							0.7											0.7		
92号	点数 R	12	4					19				3	1	3	1	1			44	銅・未確認(1).鉄・小柄	
92号	点数 R	59.4	17.9					68.1				11.5	9.7	2.4	1.6	0.6			171.2	(3)	
93号	点数 R			2	26	1		10	1			1	1				1		43	銅・包丁(1)	
93号	点数 R			175.3	106	9.6		32.4	1.0			31.0	6.5				22.5		288.9		
117号	点数 R							1											1		
117号	点数 R							0.8											0.8		
119号	点数 R							8											8		
119号	点数 R							8.4											8.4		
126号	点数 R							1											1		
126号	点数 R							0.7											0.7		
142号	点数 R							1											1		
142号	点数 R							1.8											1.8		
145号	点数 R	1																	1		
145号	点数 R	1.8																	1.8		
4区崩瓦	点数 R						1												1	2	
4区崩瓦	点数 R						11.3												7.8	19.1	鐵(1)
4区表土	点数 R													1	2				3		
4区表土	点数 R													5.1	8.7				13.8	鉄管・瓦葺	
遺跡一括	点数 R				1			1					1						3		
遺跡一括	点数 R				2.4			2.2					4.1						8.7		
1-2区一括	点数 R																1		1		
1-2区一括	点数 R																8.3		8.3		
1-6区一括	点数 R							6											6		
1-6区一括	点数 R							12.3											12.3		
2区表土一括	点数 R	1																	1		
2区表土一括	点数 R	1.9																	1.9		
3-1区崩瓦一括	点数 R																		1	1	
3-1区崩瓦一括	点数 R																		23.8	23.8	銅・不明(1)
3-1区表土一括	点数 R																1	1	2		
3-1区表土一括	点数 R																	3.0	13.0	16.0	ビュラ口(1)
3区表土一括	点数 R							3									1	3	7		
3区表土一括	点数 R							6.5									20.4	17.1	44.0		鉄線(3)
種別総点数・総点数	種別総点数 総点数	10	13	8	70	5	45	222	3	5	6	3	6	3	6	5	2	19	431		
種別総重量・総重量	種別総重量 総重量	33.5	61.2	209.9	96.5	22.5	10.4	432.2	8.1	3.2	76.7	31.3	17.8	11.6	19	60.8	7.7	359.8	1462.2		



第40図 金属製品 (1/2) (1/3)

5・14・15・17・21は1/3、他は1/2

葉形銅製品(同20)は、4区一括出土である。葉英のような形状で、器壁は薄い。中空で木片が詰まる。

水道メーター蓋(同21)は、2号出土である。一端に本体との接合部(Hinge)がある。天板に陽刻で、「中央マーク《281 100ml》・外周《☆AICHI TOKEI ☆NAGOYA》」とあり、メーカー名、マーク・番号・容積量が表記される。「AICHI TOKEI」は、愛知時計電機株式会社である。この出土遺物は、製造開始年より、昭和2年(1927)が上限となり、本蓋の形状は製造初期のものに似る(註3)。

註3 「愛知時計電機株式会社」沿革：<https://www.aichitokei.co.jp/company/history/>

「愛知時計電機株式会社」 明治31年(1898)「愛知時計製造株式会社」として創立。明治45年(1912)「愛知時計電機株式会社」改称。昭和2年(1927)水道メーターの製造を開始する。

第14表 金属製品観察表

探検 番号	個体 番号	調査区	出土 地点	材質	器種	形状	長軸長 cm	短軸長 cm	最大幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第 40 期	1	1-6区	35号	銅	キセル 磨首		* 2.9	1.2		1.1	4.9	
	2			銅	距玉		1.2	1.3		1.1	10.4	
	3		38号	銅	距玉		1.3	1.2		1.2	11.2	
	4			銅	キセル 吸口		4.8	1.3		1.1	4.8	
	5	3-2区	48号	鉄	鎌		* 11.1	9.5		0.6	28.9	
	6			鉄	釘	頭あり、断面四角	* 5.4	2.1	2.1	0.8	9.2	
	7		鉄	釘	先端あり、断面四角	* 5.0	1.4		0.8	5.2		
	8		鉄	釘	両端なし	* 7.5	2.0		0.6	6.9		
	9		鉄	釘	両端なし	* 6.3	0.8		0.7	7.0		
	10		49号	鉄	釘	粗釘、完形	6.6	1.0	2.1	0.5	6.5	
	11		4区	92号	鉄	刀子		* 9.4	1.6		0.4	7.6
	12	鉄			刀子		* 5.3	1.0		0.4	3.2	
	13	銅		距玉		1.3	1.2		1.0	9.7		
	14	銅		香合?	蓋	12.7	10.8		0.1	67.5		
	15	銅		香合?	本体	10.3	10.1		0.3	107.8		
	16	銅		キセル 吸口		* 5.4	1.3		1.0	6.5		
	17	鉄		包丁		* 10.6	4.4		0.4	31.0		
	18	銅		キセル 磨首	ほぼ完形	6.2	2.0		0.5	5.1	丸磨口径 1.3	
	19	銅		キセル 吸口	ほぼ完形	6.8	0.9		0.8	4.1		
	20	銅		磨盤?		5.8	1.4		0.9	11.1		
	21	1-3区	2号	青磁	水道メーターの蓋		10.3	9.9		0.9	194.4	☆ AICHI TOKEI ☆ NAGOYA 281 100mm]

## 6) ガラス製品 (第41・42図 第15表)

ガラス製品は、31点ある。近世は簪2点のみで、残り29点はすべて近代の製品である。出土遺構は、43号が17点で最も多く、他に48号に1点ある。

簪は、49号に2点ある。それぞれ個体は似ており同一と考えられる。断面は透明、表面は白化する。異なる細いガラス棒を捻じり合わせた形状である。

近代の製品は、容器（ビン類）、栓、インク壺、器物に区分できる。容器（ビン類）は、薬ビン、化粧ビン、食品容器、飲料容器、皮革液容器などがあると考えられる。

薬ビンは、医院名、薬品名など薬の容器と判断できる製品は認められないが、43号（第41図5・13）が薬ビンに類すると思われる。いずれもスクリュウ栓ではなく、口縁が外に肥厚するタイプである。その他、43号（同1：茶透明、頸部やや長め）、同（同2・3・4：茶透明・透明、円筒状）、同（同：12青透明、底部丸味）などが類するであろう。試薬ビンの可能性もある。

化粧ビンは、43号（同14・15）および4区一括（同21・22）が乳白色の不透明のビンである。栓は、いずれもスクリュウである。22底部には、陽刻銘「ANDO」がみられる。製造元と考えられる。43号（同17：透明、断面六角形）は、化粧水等の容器と考えられるが、詳細は不明。底部には、陽刻銘「COSSET」がみられる。

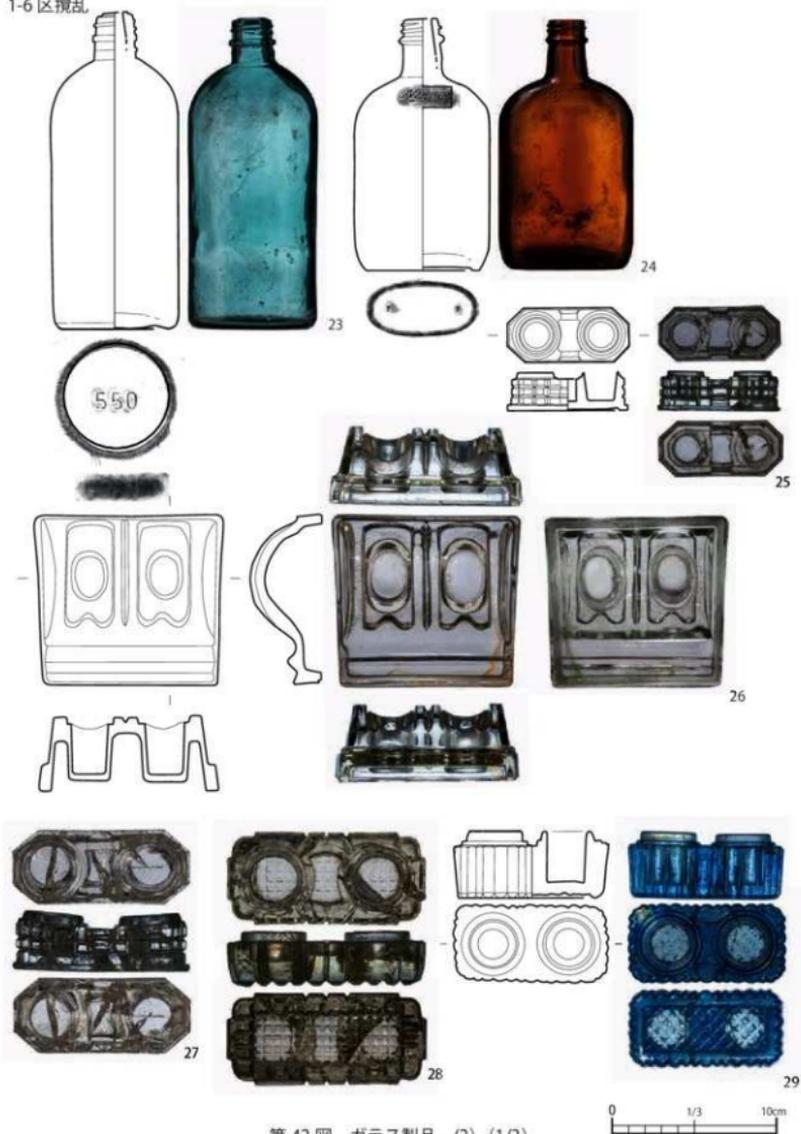
皮革液容器としたものは、4区一括（同20）である。スクリュウ栓ではなく、口縁は外部に肥厚するタイプである。体部に陽刻文字「アニリン染」、側面に目盛り線が陽刻で3本ある。「アニリン」は染料の製造や鎮痛剤などに使用されるようで、特に皮革染料に用いられるとのことである。

食品容器は、43号（同10）で、底部に陽刻文字「外周《東京中野・食品工業株式会社》・中央「7」／三角マーク」が認められる。底部のみの破片であるが、「食品工業株式会社」（現キュービー株式会社）のマヨネーズ容器である。形状は断面台形状で、ビンの上部（6段）と下部（4段）に帯状の突出（丸をもつ蛇腹）をもつ。蓋は、スクリュウである。このガラス容器は、発売当初のマヨネーズビンの形状と同様のものと考えられる。また、同容器は、昭和33年（1958）ポリボトル容器に変



第41図 ガラス製品 (1) (1/2)

1-6区撈乱



第42図 ガラス製品 (2) (1/3)

第15表 ガラス製品観察表

図号	図例番号	出土地点	種別	器種	口径 cm	底径 cm	高さ(厚み) cm	長軸長 cm	短軸長 cm	全長 cm	重量 g	色調	形状	断面形状	蓋の形状	備考	
第41図	1		瓶	薬瓶か	1.30	2.00	5.90				1085	茶透明	長頸		スクリューなし		
	2		瓶	薬瓶か	1.20	1.00	4.35				2.11	薄茶透明	試験管形 底面平坦				
	3		瓶	薬瓶か	1.20	1.10	4.40				1.82	透明	試験管形 底面平坦				
	4		瓶	薬瓶か	1.20	1.10	4.05				2.68	透明	試験管形 底面平坦				
	5		瓶	薬瓶か	1.30	1.65	4.00				6.32	透明	円筒筒張り	スクリューなし			
	6		器物					2.80	2.50	4.40	23.33	透明	六角錐			欠けている	
	7		栓		2.50	2.90					9.45	薄青緑透明	上面顕形				
	8	43号	栓		2.50	0.80					7.15	透明	円板形			欠けている	
	9		おはじき		3.90	0.70					14.30	薄青緑透明	一面凹凸文				
	10		瓶			5.35	1.30				37.81	透明	底部のみ			「東京中野・食品工業株式会社」7「三角マーク」	
	11		棒状				0.40			5.30	1.35	透明	先端丸味一端破損				
	12		瓶		1.10	2.60	6.80				9.25	青透明	底部丸味口縁欠損			口元が欠けている	
	13		瓶		2.40	3.20	7.70				48.31	薄茶透明	円筒筒張り	スクリューなし		中に染みみたいな物が入っている	
	14		瓶	化粧瓶	3.30	2.90	4.70	4.90	4.10		75.11	乳白	円筒	断面花弁	スクリュー		
	15		瓶	化粧瓶			4.30	4.70			54.85	乳白	円筒		スクリュー		半分欠けている
	16		円筒板状			0.20				5.30	10.14	透明	くもりガラス				
	17		瓶	化粧瓶	1.50		12.00	5.90	2.20		102.34	透明	薄青緑透明	断面六角形	スクリュー	底部「GOSSET」	
18	48号	栓		4.80		*2.25			*21.50	27.49	薄青緑透明	断面凹凸形			欠けて半分位		
19	1-7区	瓶		3.40	5.10	11.00				126.15	茶透明	円筒形		スクリュー	底部マーク星形・二重丸		
20	4区表土一括	瓶	茶瓶	2.25	3.20	5.80				26.41	薄青緑透明			スクリューなし	製法「アニリン染」		
21		瓶		2.20	2.10	2.70				23.37	乳白	断面六角形		スクリュー			
22		瓶		*4.20	4.30	5.70				115.26	乳白	正方形、断面楕円形		スクリュー	底部「ANDO」		
第42図	23	瓶		2.40	7.80	10.20				426.08	青透明	円筒形		スクリュー	底部陽刻「550」		
	24	瓶		2.20	7.10	15.30				232.61	茶透明	断面楕円形		スクリュー	製法上「Nikka」、底部「Y」7		
	25	インク壺		3.20		3.70	11.10	5.00		244.09	透明						
	26	インク壺		3.20			11.50(上) 11.60(下)	10.20(上) 10.30(下)			346.31	透明					「PAT372345」
	27	インク壺		3.20		3.60	10.80	4.60		201.77	透明						
	28	インク壺		3.60		3.40	11.00(上) 12.10(下)	5.20(上) 5.60(下)			324.56	透明					
29	インク壺		3.10		4.10	9.20(上) 9.50(下)	4.60(上) 4.80(下)			276.71	青透明						

更すとこのことであるので、本製品はポリボトル以前の商品である（註4）。

その他容器は、1-7区（同19：茶透明、栓スクリュー、やや広口）、1-6区（第42図23：薄青透明、底部陽刻「550」、同（同24：茶透明、断面扁平、胴部上陽刻「Nikka」、底部陽刻「Y」7）がある。また、インク壺の完形個体の多いのが特徴的である。7個体出土している。色調は、透明（第42図25～28）、青透明（同29）である。壺は、すべて2箇所である。同26は、壺口が楕円形で、体部の整形・装飾にカットを用いず、曲線的なフォルムである。その他は、カット装飾される。

註4 「キュービー株式会社」：「沿革」(<https://www.kewpie.com/company/about/history/>)

「食品工業株式会社」（現 キュービー株式会社） 大正8年（1919）創業。大正14年（1925）マヨネーズの製造・販売を開始。昭和18年（1943）より原料不足のため製造・販売を中止。昭和23年（1948）製造開始。戦後は、昭和32年（1957）社名を「キュービー株式会社」に変更、昭和33年（1958）マヨネーズ容器をポリボトルに変更する。

## V 調査の成果と課題

## 屋敷割の復原

百人組大郷地の屋敷割の復原は、「百人町三丁目遺跡 III」にて行われている。第43図の復原図は、それをもとに国土地理院の「基盤地図情報」に落としなおしたものと、東京都遺跡地図の百人町三丁目遺跡の範囲及び各調査地点を落とししたものである。この復原については、『大久保元百人組屋敷敷繪圖面』の内容を、明治20年(1887)出版の『東京実測図』(註1)やその後の地図関係などから行ったものと考えられる。特に大久保百人組屋敷南側の範囲、現在の大久保1・2丁目、現在もその区割りを残すと思われる町割りが認められる。調査地点のある百人町三丁目は、明治7年(1874)



第43図 屋敷割復原図と遺跡範囲及び調査地点 (1/10,000)  
国土地理院「基盤地図情報(縮尺レベル2.500)」をもとに作成

には陸軍の軍用地となるが、『東京実測図』に大久保百人組屋敷の東側半部ほどの範囲の区割りが描かれている。今回の調査地点は、『大久保元百人組屋敷敷繪圖面』によると、東側から塩谷市三郎の屋敷、中央が土地、西側が山田助太郎の屋敷となる。

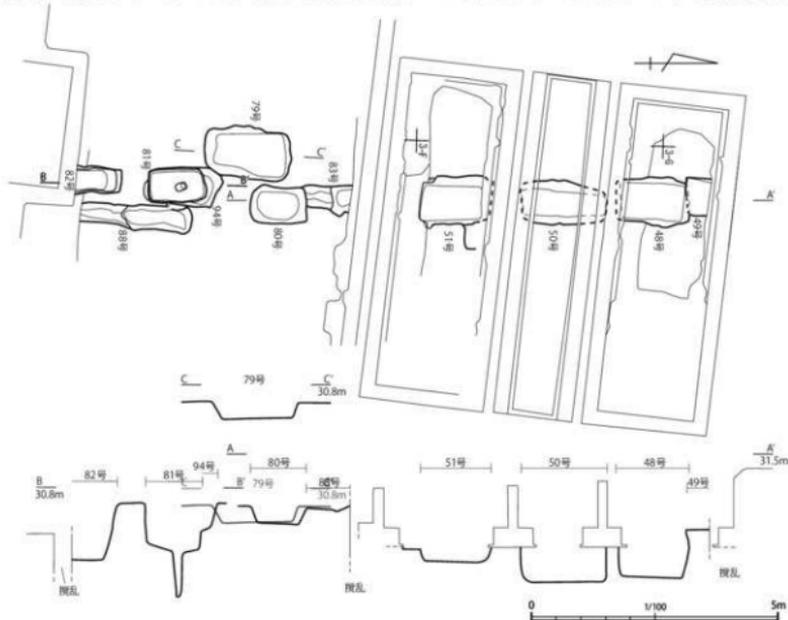
## 大久保百人組屋敷

大久保百人組屋敷の様子については、『十法庵遊歴記初編』の「第十 大久保組屋敷の映山紅」に同心飯島武右衛門の屋敷の様子として、「大久保百人組屋敷北の通り組同心飯島武右衛門といふ、西の木戸より北側二軒目にして、躑躅に名高し先彼の庭、大小のつつじ武參拾株を植ならべ、その色真紅に、花形又異なるは、實に奇代の壯觀たり、是さえ見上る大木のめずらしさに、猶又居宅の北うしろ、只一面に躑躅ならざるはなし、その樹の高さ八九尺、或は壹丈余、低きも五六尺より三尺まで左右に成木せし事数千本、植込

し園の幅東西八間南北凡武丁餘…」と記されている。またその他の組屋敷の様子として「惣じて此組屋敷の家々は、躑躅の樹の大小となく、三百株又は五百七百あらざるはなく、成木に至りては尠丈餘、おのおの絶倫の花のみなり、その上組中の垣根も構へも、みな琉球つつじとかやいえる花の、紫赤白の三色相交えて咲揃ひ、東の木戸より西の木戸に至るまで八町餘、西側の垣に咲る花の風情、又垣根を見越して燃えるが如き、成木の躑躅爛漫たる…(中略)…躑躅の少なき家には、孟宗竹の筍を作り、又は夏の間軒につるしてなぐさむ、しのぶといふものを作れり、…」とある。このことから、屋敷内にはかなりの数のつつじが栽培されており、屋敷の垣根や構などにもつつじが植えられていたことが考えられる。

#### 検出された遺構

今回の発掘調査で植栽痕を含む土坑として、70基が検出された。このうち平面形が円形・不整形で長軸が200cmを超える大型の土坑、146～200cmの比較的大型の土坑については、『染井遺跡』や『弘方町遺跡』などの調査例から植栽痕と考えられる。48・50・51・80～82号土坑は長軸方向が南北で、南側の道路に直交する方向で、ほぼ南北一直線上に並ぶ、長方形の土坑で、規模は長軸方向で92～182cm程で短軸が73～102cm程、底面での標高が80号を除き28.9～29.5mである。80号の底面の標高は30.2mである(第44図)。検出された遺構を、屋敷割復原図に重ねたものが第45図である。赤で記されたラインが、復原図の屋敷割の想定線である。このラインについては復原にあたっての方法等が明示されていないため、現在の地図上で明確にこの位置とすることは難しいが、『東京実測図』

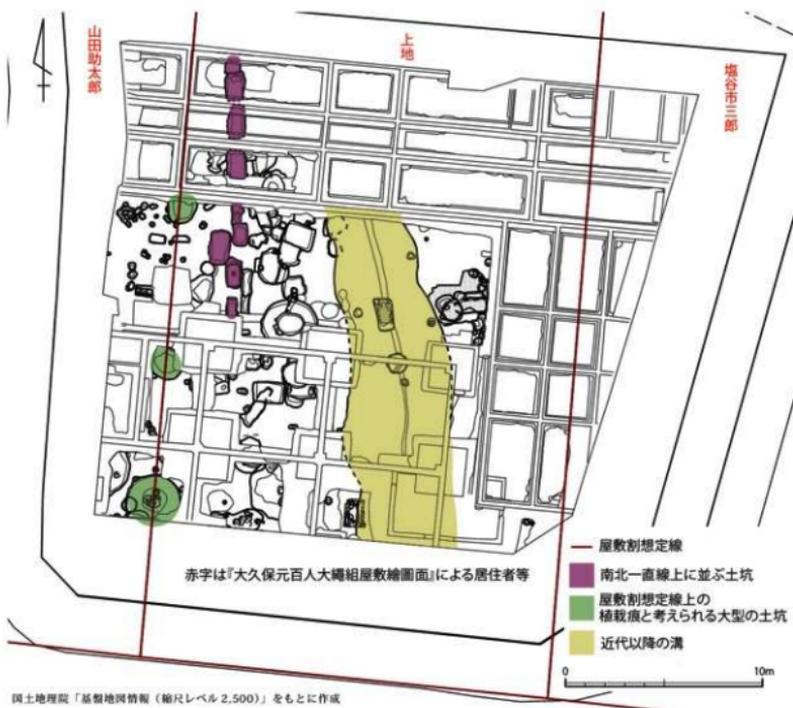


第44図 南北一直線上に並ぶ土坑平面及び断面 (1/100)

との合わせなどからおおむねの位置は正しいと思われる。48・50・51・80～82号土坑の並びは、このラインより東側にずれているが、その方向はおおむね同じである。また、ライン上には円形の植栽痕と考えられる大型の土坑がある。

大繩地内の垣根や構には『十法庵遊歴雑記初編』の記載から、つつじが植えられていた可能性が考えられる。今回検出された長方形の土坑とはやや異なるが、百人町三丁目遺跡二次調査で検出された長方形の土坑について、上敷領氏は「一つは植物栽培とは関係なく、一橋高校遺跡において検出された水利施設か地下室のように、地下に木枠を構築する構造物の一部と推測される。二つは、植物栽培で苗を育てる際に用いる施設の一部。つまり、つつじ栽培で“芽ざし”に使う“育苗箱”とそれを埋めた土坑と推測する(田村 1981)」としている。つつじの栽培については、大久保百人組屋敷の歴史的環境などから、十分に想定することが可能であると考え、田村氏の『NHK 趣味の園芸：作業 12 か月⑩ツツジ』で育苗場の箱の高さは7cmとしており、育苗箱の高さと検出された土坑の深さとは合わないと思われる。

田村氏は同じ著書で、ツツジ植え込みのための地形づくり(植え場所の準備)と植え方として以下のように記している(註2)。



第45図 屋敷割と遺構全体図 (1/250)

「植え込み予定地でのゴミ、落葉などの腐らせ方

①(幅50cm、深さ50cmの穴を掘り、下層に)紙くず、木片、台所のゴミ落葉など腐敗するものであれば何でもよい ②土を1/3戻しよくふみつける ③(①②を再度おこない)ふみつける ④(上に土を盛り)踏みつける ⑤6カ月から1年たつとゴミが腐って土が下がる」

「植え方

①大きい植え穴を掘る(深さ50cmくらい) ②まずビートを入れる ③次に少し土をもどす。ビートと土を交互に3層ずつ入れる ④穴の上層のビートと土をよく混ぜる …⑨植え場所に苗木を置く ⑩土をかけてから竹べらでよくつついて、根の間に土を入れる ⑪株のまわりに水鉢をつくり、その中にたっぷりの水を入れて植え終わり…」

植え方には、一株植え、寄せ植え、混植、列植があり、生垣などにする場合は列植にすることがあり、株間はつつじの種類により異なるが30～70cmとされている。

さらに、堆肥の作り方として「積み上げ 水はけのよい場所であれば地下に1mほどの穴を掘り、これに鶏糞か米ぬかを10%ほど混ぜた落葉を厚さ40cmほど入れ、その上にワラや枯草を10cmの厚さに積みまます。次に水を加えて湿らせてよく踏みつけます。これを3段に重ね、土を上からおおってその上からビニールをかぶせます。積み替え 3ヶ月ほどしたら掘り出してよく混合して積み替えます。」とある(註3)。

つつじの栽培に際して、深さ50cmほどの穴を掘り、生垣などでは列植で行うことが記されている。本調査地点から検出された南北方向に並ぶ長方形の土坑については、ツツジの植栽を列植した、生垣や屋敷の構の可能性も考えられる。この他、深さが50cmを超える土坑についても、植栽や堆肥をつくるための土坑の可能性も考えられる。今回の調査では、発掘時に長方形で深さのある土坑について、植栽の想定をしておらず、そのような可能性を考えるうえで十分な土層断面観察や分析等が行っていないため明確にはできないが、今後の調査で土層断面観察や分析等により明らかになると考える。復原された屋敷割のライン上にある円形で大型の植栽痕である土坑についても、『十法庵遊歴雑記初編』に記されたような「樹の高さ八九尺、或は壺丈余」のつつじ成木が植えられていた可能性も考えられる。

近代以降の「溝」

43号は調査区中央付近から検出された近代以降の溝で、江戸時代の屋敷割よりはやや西側に傾いて伸びている。この溝の東側には120号の硬化面が確認された。この溝から出土している主な遺物の年代は大正から昭和前期(終戦頃)である。この溝については昭和8年(1933)の『淀橋区全図』(註4)の発掘調査地点である百人町四丁目(現在の百人町三丁目)地内の陸軍科学研究所の敷地内の道と思われる線にほぼ沿っていると考えられる。この他の地図には該当する線は描かれていないが、43号及び120号はこの道もしくは道に関連する遺構の可能性が考えられる。陸軍科学研究所は大正8年(1919)に当該地に設けられ、昭和12年(1937)に一部が生田に移転し、昭和16年(1941)に廃止された施設である。この溝も陸軍科学研究所の廃止とともに廃絶されたと考えられる。

百人町三丁目遺跡と大久保百人組屋敷

今回発掘調査を実施した百人町三丁目遺跡は、大久保百人組屋敷の北東側の一部が範囲になっている(第43図)。百人町三丁目遺跡は、今回の調査を含め、これまでに7回の調査が行われている。今回の調査と5次調査地点は、大久保百人組屋敷の中で通りに面し屋敷があった範囲の調査であるが、

1～4次調査は屋敷の裏手側の調査である。6次調査地点は、大久保百人組屋敷の範囲から外れており、江戸時代には西大久保村もしくは西大久保村・諏訪谷村・上戸塚村の入会地にあたる。この場所を含め、明治7年(1874)には陸軍用地となる。近世以降の遺構としては抱衣埋納遺構と礎石列等である。百人町三丁目遺跡は旧石器時代から平安時代までの遺跡と、江戸時代の大久保百人組屋敷としての面がある。このうち大久保百人組屋敷は、遺跡として周知化されている範囲外の南側にも広がっている。百人町三丁目遺跡は大久保百人組屋敷の北東側の一部のみであり、この範囲は明治7年には軍用地となる。今後、南側の範囲に遺跡の残存が確認され、調査が実施されれば、さらに大久保百人組屋敷の様子を知ることが出来るであろう。

註1 『東京実測図』の測量年代は明らかではないが、『地図で見る新宿区の移り変わり - 淀橋・大久保編』の『東京実測図』の解説によると「本図群には測量年次が示されていないが、館澤彦の『日本測量野史稿』によると、明治八年七月内務省に火災あり、東京府下測量の野薄・原園を焼失したが三角測量の野薄は気象台にあって無事であり、九年遺構再測量を行い、一三年に東京の測量が完成した。…」とある。このことから軍用地になった直後の北側の区割りの様子が描かれていたと考えられる。

註2・3 『NHK 趣味の園芸・作業 12 か月毎ツツジ』の中で、図を用い解説をしている。21・40・41・116 頁

註4 『地図で見る新宿区の移り変わり - 淀橋・大久保編』『淀橋区全区』302 頁

#### 主な参考・引用文献

- 釋啓順『十法庵遊歴雜記初編』「第十 大久保組屋敷の映山紅」江戸叢書刊行会 1916『江戸叢書』巻の参 1992 鳳文書館
- 田村輝夫 1981『NHK 趣味の園芸・作業 12 か月毎ツツジ』日本放送出版協会
- 文京区役所 1981『文京区史 巻1』文京区役所
- 新宿区教育委員会 1984『地図で見る新宿区の移り変わり - 淀橋・大久保編』新宿区教育委員会
- 西戸山住宅遺跡調査会 1987『百人町三丁目遺跡』西戸山住宅遺跡調査会
- 百人町三丁目遺跡調査会 1987『百人町三丁目遺跡』百人町三丁目遺跡調査会・新宿西戸山開発株式会社
- 上敷領久 1988『大久保百人町遺跡』『東京考古』6 東京考古談話会
- 白金館址遺跡調査団 1989『白金館址遺跡Ⅲ - 研究編-』白金館址遺跡調査会
- 児玉幸多・吉原健一郎・俵元昭・中川恵司 1994『復元・江戸情報地図』朝日新聞社
- 新宿区百人町三丁目遺跡調査団 1995『百人町三丁目遺跡Ⅳ』東日本旅客鉄道株式会社・新宿区百人町三丁目遺跡調査団
- 新宿区遺跡調査会 1996『百人町三丁目遺跡Ⅲ』東京都清掃局・新宿区・新宿区遺跡調査会
- 新宿区補助第72号線遺跡調査会 1998『百人町三丁目遺跡Ⅴ』新宿区補助第72号線遺跡調査会
- 新宿区弘方町遺跡調査団 1999『弘方町遺跡』大蔵省関東財務局・警視庁・新宿区弘方町遺跡調査団
- 江戸遺跡研究会 2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- 日本民俗建築学会 2001『図説 民俗建築大事典』柏書房株式会社
- 林英夫・青木美智男 2001『事典 しらべる江戸時代』柏書房株式会社
- 東京都埋蔵文化財センター 2002『溜瀆遺跡』東京都埋蔵文化財センター第105集 東京都埋蔵文化財センター
- 飛田範夫 2002『日本庭園の植栽史』京都大学学術出版会
- 国際興業株式会社 2006『百人町三丁目遺跡Ⅵ』国際興業株式会社
- 江戸遺跡研究会 2025『江戸の園芸』吉川弘文館



1 1区①南壁土层断面(北)



2 4区②西壁土层断面(东)



3 3-1区⑥西壁土层断面(东)



4 1-2区②TP1 南壁土层断面(北)



5 1-6区③TP2 北壁土层断面(南)



6 2-16区⑤TP4 东壁土层断面(西)



7 2-7区④TP3 西壁土层断面(东)



8 4区⑧TP7 东壁土层断面(西)



1 1-1区 全景 1・3・5・10・11・15・20・21・30号 (南)



2 1-5区 全景 19・21~26号 (北東)



1 1号 (北)



2 10号 (北東)



3 3号 (北)



4 19号 (東)



5 1-2区 全景 6~8・12・16・17・37号 (南)

図版 4



1 8号(東)



2 17号(北)



3 1-6区 全景 27~29・31~36・38a・38b~40・42号(北)



4 29号(南)



5 28号(北)



1 27号(北)



2 35号(南)



3 38号(北东)



4 40号(北)



5 3-2·6·10区 全景 48~58号(西)



1 48·49号(南)



2 50号(西)



3 51·56号(南)



4 55号(東)



5 3-10区 全景 51~58号(南)



1 57号 (南東)



2 53~55・58号 (南)



3 60~71・76 礎石 (南)



4 60~71・76号 (南)



5 4区 全景 43・46・60~101・103~140・142~151号 (北)



1 69·70·72~75·97·98·105·106~110号 (北西)



2 95~101·103~110号 (北)



3 72~75·77·78号 (南)



4 79号 (西)



5 96号 (南)



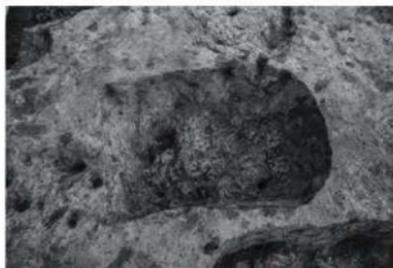
6 97·105 (南)



7 112号 (南西)



8 80·83~87·114·137·138·142~145号 (北)



1 80号(西)



2 82号(西)



3 111号(西)



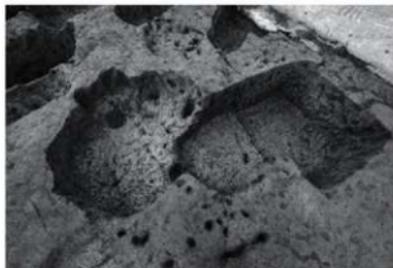
4 81・88・94号(西)



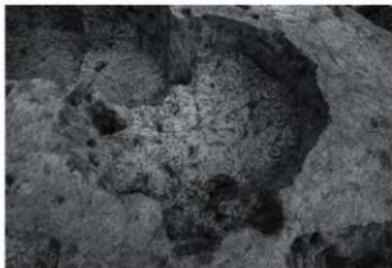
5 81・82・88・134号(東)



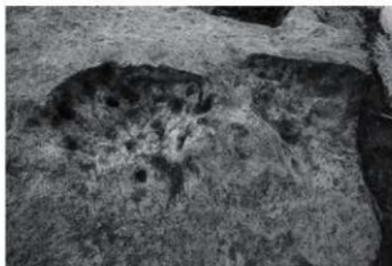
6 91・93・136・139・140号(東)



7 89・90・92・93・116号(南東)



8 89・90・116号(西)



1 115・117号 (西)



2 121～124・126～132・135・151号 (東)



3 2号 (南西)



4 1-7区 43・46・47号 (南)



5 46号 (南)



6 4区東側 全景 (北) 43・46号他



7 95号 (北)



8 119号 (南)

## 報告書抄録

ふりがな	ひやくにんちようさんちようめいせきなな							
書名	百人町三丁目遺跡Ⅶ							
副書名	旧関東地方整備局新宿寮地区の埋蔵文化財調査							
巻次	Ⅶ							
シリーズ名	東京都埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第394集							
編著者名	小林裕・石崎俊哉							
編集機関	公益財団法人東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センター							
所在地	〒206-0033 東京都多摩市落合一丁目14番2 TEL 042 - 374 - 8044							
発行年月日	西暦 2025年 9月 30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
百人町三丁目 遺跡	新宿区百人町 三丁目1-1	13104	43	35° 44' 54"	139° 44' 42"	20240617 ? 20241220	1,006 m <sup>2</sup>	旧関東地方 整備局新宿 寮地区の埋 蔵文化財調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
百人町三丁目 遺跡	包蔵地・ 屋敷	江戸時代	井戸2基 溝状遺構1条 土坑70基 ピット64基 整地跡1か所	陶器 磁器 土器 瓦 土製品 金属製品 鉛玉			火縄銃の玉	
要約	<p>百人町三丁目遺跡は武蔵野台地の東部、神田川と妙正寺川がかつて合流していた場所の南西側の豊島台に位置する。</p> <p>百人町三丁目付近は江戸時代には大久保百人組屋敷があった場所の一部にあたり、現在の町名もこの百人組に由来している。発掘調査が行われた場所は、大久保百人組屋敷の北通りに面した場所で、屋敷があった場所と考えられる。調査の結果、江戸時代と近代以降の遺構と遺物が確認された。江戸時代の遺構のうち、長軸方向が南北で、南側の道路に直交する方向で南北一直線に並ぶ長方形の土坑とそれに並行する溝状遺構を確認した。この土坑と溝状遺構については屋敷境もしくはそれに関連する遺構の可能性が考えられる。またこの土坑は、つつじの栽培を列植した、垣根や屋敷の構などの可能性も考えられる。その他の土坑のうち、平面形が円形で、比較的大型の土坑と、平面形が不整形で底面に凹凸が認められるもの多くは植栽痕と考えられる。</p>							

印刷仕様

表紙	レザック	215kg (四六判)
見返し	上質紙	86.5kg (A判)
本文	マットコート紙	57.5kg (A判)
写真図版	マットコート紙	57.5kg (A判)
印刷方式	オフセット印刷	
使用インク	エコマーク商品認定基準適合	
製版線数	230線	

本書は永久保存を考慮し、すべて中性紙を使用

新宿区

百人町三丁目遺跡Ⅶ

—旧関東地方整備局新宿寮地区の埋蔵文化財調査—

東京都埋蔵文化財センター調査報告第394集

---

2025年9月30日 発行

編集 公益財団法人東京都教育支援機構

発行 東京都埋蔵文化財センター

東京都多摩市落合一丁目14番2

TEL 042 - 374 - 8044

印刷 能登印刷株式会社

石川県金沢市武蔵町7番10号

---